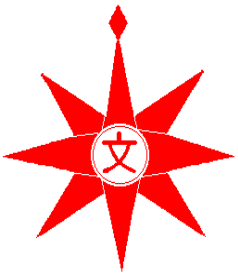
令和2年度

運営諮問会議報告書



鳥羽商船高等専門学校

令 和 ２ 年 度 運 営 諮 問 会 議 委 員 名 簿

（五十音順）

氏　　名	現　　職	備　考
石　田　廣　史	国立大学法人神戸大学　名誉教授	
菅　沼　延　之	鳥羽商船高等専門学校同窓会　会長	
鳥　山　光一郎	鳥羽商船高等専門学校奨学後援会　会長	
東　　和　彦	鳥羽市立鳥羽東中学校　校長	
本　田　直　基	美和ロック株式会社　伊勢工場群　総務部長	
増　田　峰　知	公益財団法人三重県産業支援センター 事業部技術支援課　課長	
山　本　俊　彦	国立大学法人三重大学　理事・副学長（教育担当）	

※　委嘱期間　　令和元年１２月１日～令和３年３月３１日

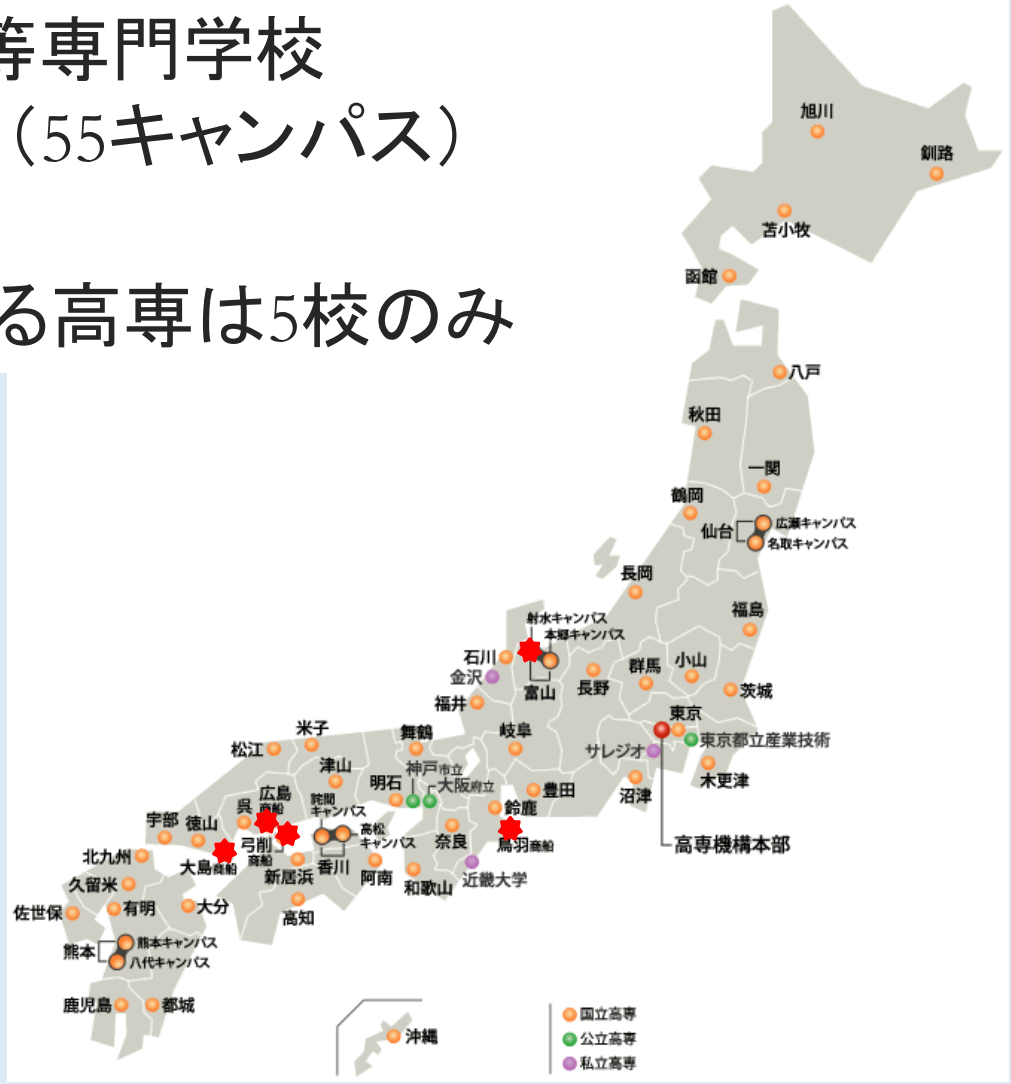
独立行政法人　国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校の概要

2021年3月24日

国立高等専門学校
全国で51校（55キャンパス）

商船学科のある高専は5校のみ



独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校

National Institute of Technology, Toba College

3

○　教育理念･教育目標

□教育理念

進取･礼譲･質実剛健

□教育目標

1. 人間性豊かな教養人となること
2. 創造豊かな技術者となること
3. 国際性豊かな社会人となること

○　高専教育システム（本科）の特徴

○　本校のセールスポイント

伝　　統

- 創基139年の伝統を持つ
- 同窓会活動が充実しており、卒業しても強い味方

立地条件

- 交通の便が（他の４商船系高専と比較して）相対的に良い

進　　路

- 他の工業高専に比べて入学しやすいかもしれないが、進学・就職先は工業高専と同程度

○　本校の教職員　（2020.4.1現在）

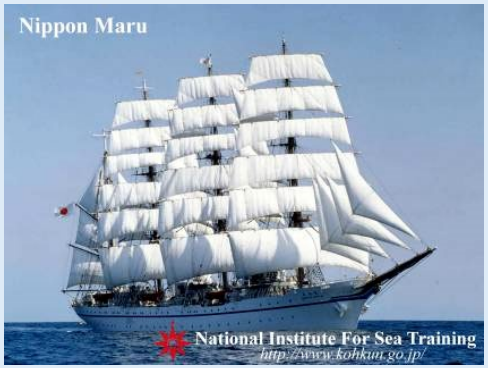
<table>
<tr><th colspan="5">教育職員</th><th colspan="3">事務職員等</th><th>合計</th></tr>
<tr><td>校長</td><td>教授</td><td>准教授</td><td>講師</td><td>助教</td><td>部課長</td><td>係長等</td><td>一般職員等</td><td rowspan="3">98</td></tr>
<tr><td>1</td><td>23</td><td>22
うち2は
海事職</td><td>1</td><td>6
うち2は
海事職</td><td>3</td><td>14</td><td>28</td></tr>
<tr><td colspan="5">53
うち4は海事職</td><td colspan="3">45</td></tr>
</table>

○　商船学科

- 航海コース　：航海士、船長をめざします
- 機関コース　：機関士、機関長をめざします

  第3学年からコースが分かれます

海上のプロフェッショナル

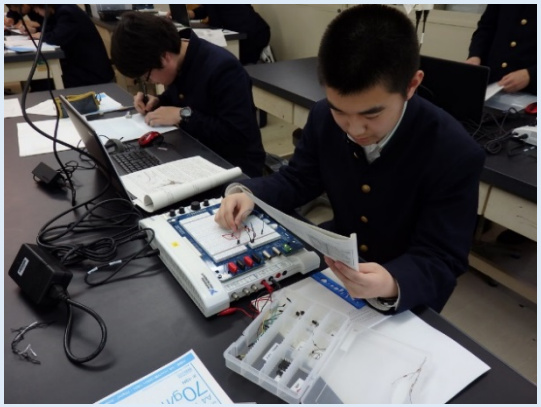


1年間の大型練習船実習

○　電子機械工学科

2019年4月より「情報機械制御工学科」に統合されました。

機械工学と電気・電子工学の両方の専門知識で活躍



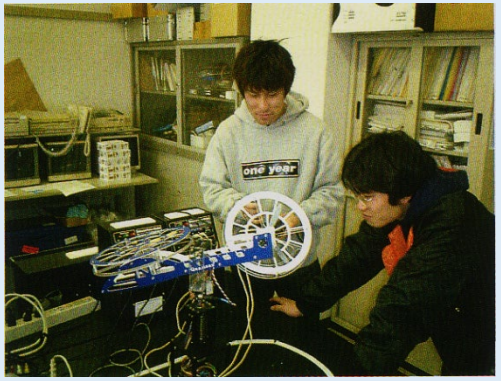
ロボットを作る･動かす

○　制御情報工学科

先端技術を学び、未知の領域に挑戦する

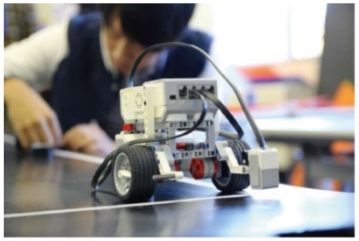
2019年4月より「情報機械制御工学科」に統合されました。

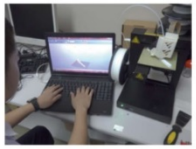
AI、IoTでコンピュータ社会に対応



情報機械システム工学科（ものづくり）

「電子機械工学科」と「制御情報工学科」を統合。
2019年4月より設置。
（定員80名）





情報・機械・電気電子工学をベースに、地域産業や文化を理解し工学的な解決法を提案できる実践的技術者をめざします。

○　専攻科

海事システム学専攻(定員4)

・商船学科などから進学

生産システム工学専攻(定員8)

・電子機械工学科・制御情報工学科などから進学

本科の上に専攻科が設置されています

高度な専門的学術を学んで、国際的感覚と広い視野を持った実践的専門技術者をめざします

２年間の少人数教育

「学士」の学位が取得可能

2020年度　本校における新型コロナウィルス感染拡大の影響

- 前期の全授業（４月～８月）、後期の一部（２週間）の授業を遠隔（オンライン）で行なった。
- 人が密集する多くの行事が中止または縮小となった。
- 学生が参加する従来の集合形式の行事が無くなり、殆どがオンライン開催となった。
- 教職員の会議・研修が遠隔（オンライン）で実施されるようになった。

：　　：

⇒　上の状況が本年度の報告内容に反映されている。

報告内容

- 入学者の確保（入口）
- 留年・退学
- 就職・進学（出口）
- 教育目標達成度
- 満足度アンケート
- 教育改善
- 教育の質の向上
- 他機関との連携・協力
- 地域との連携・貢献
- 学生支援・生活支援
- 研究活動
- 学生の活躍

入学者の確保

学生募集・PR活動

- 春季学生募集巡回PR

  新型コロナウイルス感染症の影響により、直接訪問は実施せず、メールにより資料のみ行った。

  県内中学校　147校

  和歌山・静岡・奈良・岐阜・滋賀　51校[39]

  愛知　49校[46]

- 秋季学生募集巡回PR（10～11月）　147校[147]

  中学校に訪問してPRを実施

  同窓会会員による中学校訪問

  大阪府内中学校　7校

[　]は昨年度

新型コロナウイルス感染症に伴う学生募集

- Web学校説明会（8月・10月）　69組

　中学校教員、生徒及び保護者向けにオンラインで本校の概要、入学試験について説明会を実施

- Web入試相談会（7月～11月）　84組

　生徒及び保護者向けにオンラインで本校教員が個別面談を実施

- 学科個別の相談会（7月～12月）

学科ごとに少人数・少グループでの学校見学会を実施

商船学科　37組

情報機械システム工学科　17組

- オープンキャンパス

新型コロナウイルス感染症により、対面での実施は中止し、本校ホームページ内に動画を公開した。

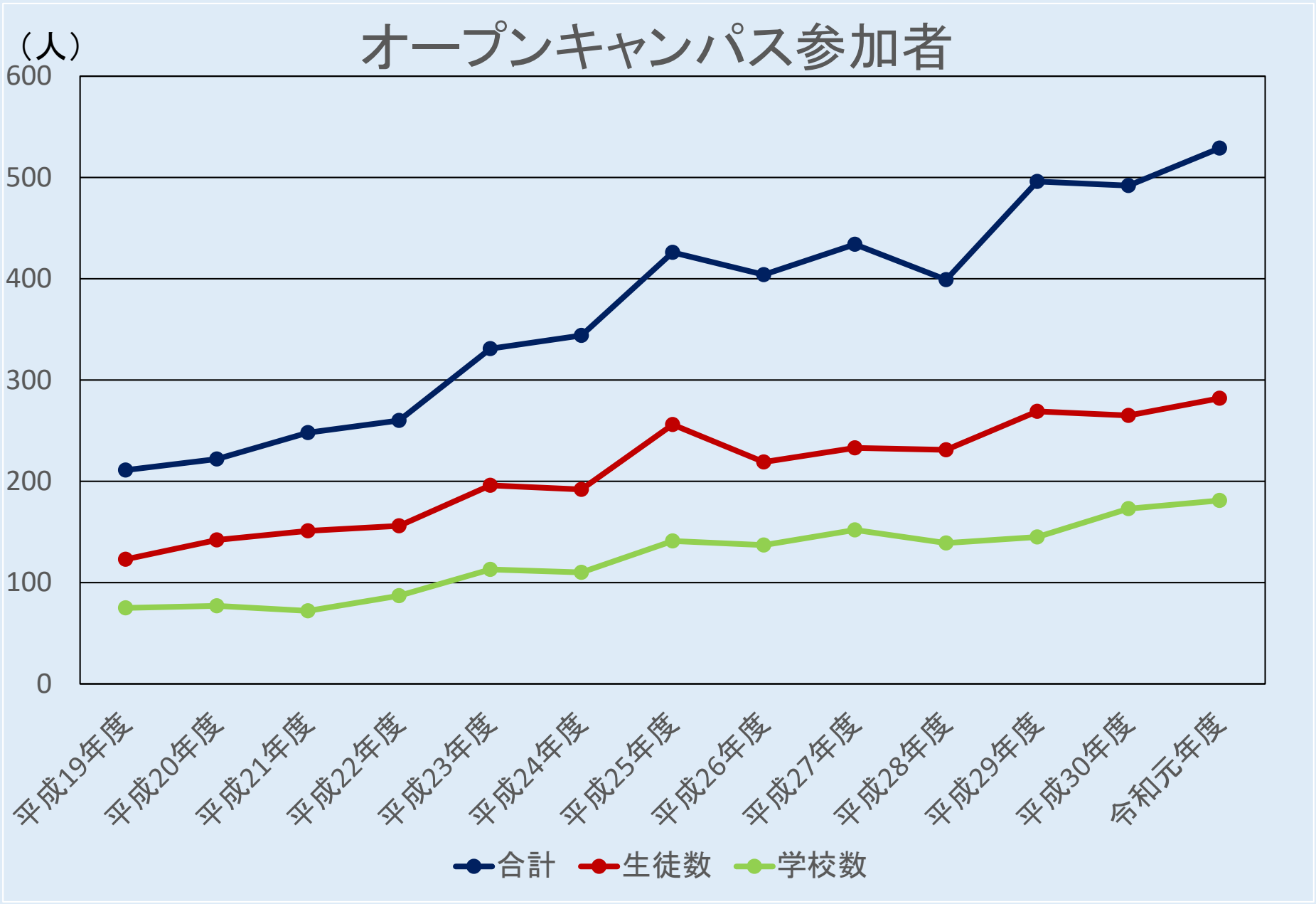
学校紹介

商船学科の紹介

- 小型船舶と実習海域

情報機械システム工学科の紹介

- 情報機械システム工学科学科概要



[9]

今年度は対面でのオープンキャンパスは中止したため、本表は令和元年度分が最新となる。

実施及び参加した説明会等

- 中学校主催「進路説明会」(6～11月)参加　18校
- 受験相談会(12月5日)　23名[34]
- 近大高専との合同説明会(7月・9月)　41組[59]
- 国立高等専門学校(商船学科)5校合同進学ガイダンス(オンライン)(8月)　198名[241]

[　]は昨年度

実施及び参加したできなかった説明等

- 学習塾関係者対象説明会 [9]
- 海学祭での入試説明会
- 学力検査選抜直前、入試説明会
- 公開講座「サイテクランドin鳥羽商船」
- 高専機構主催「国公立私立合同説明会」
- 鳥羽丸PR航海
- NPO法人「故郷の海を愛する会」主催事業の協賛

学生活動の報道について

・テレビ・新聞等における本校行事・学生活動の報道　32件
　[31]

・鳥羽市HP、自治会誌、同窓会誌での学生活動記事掲載

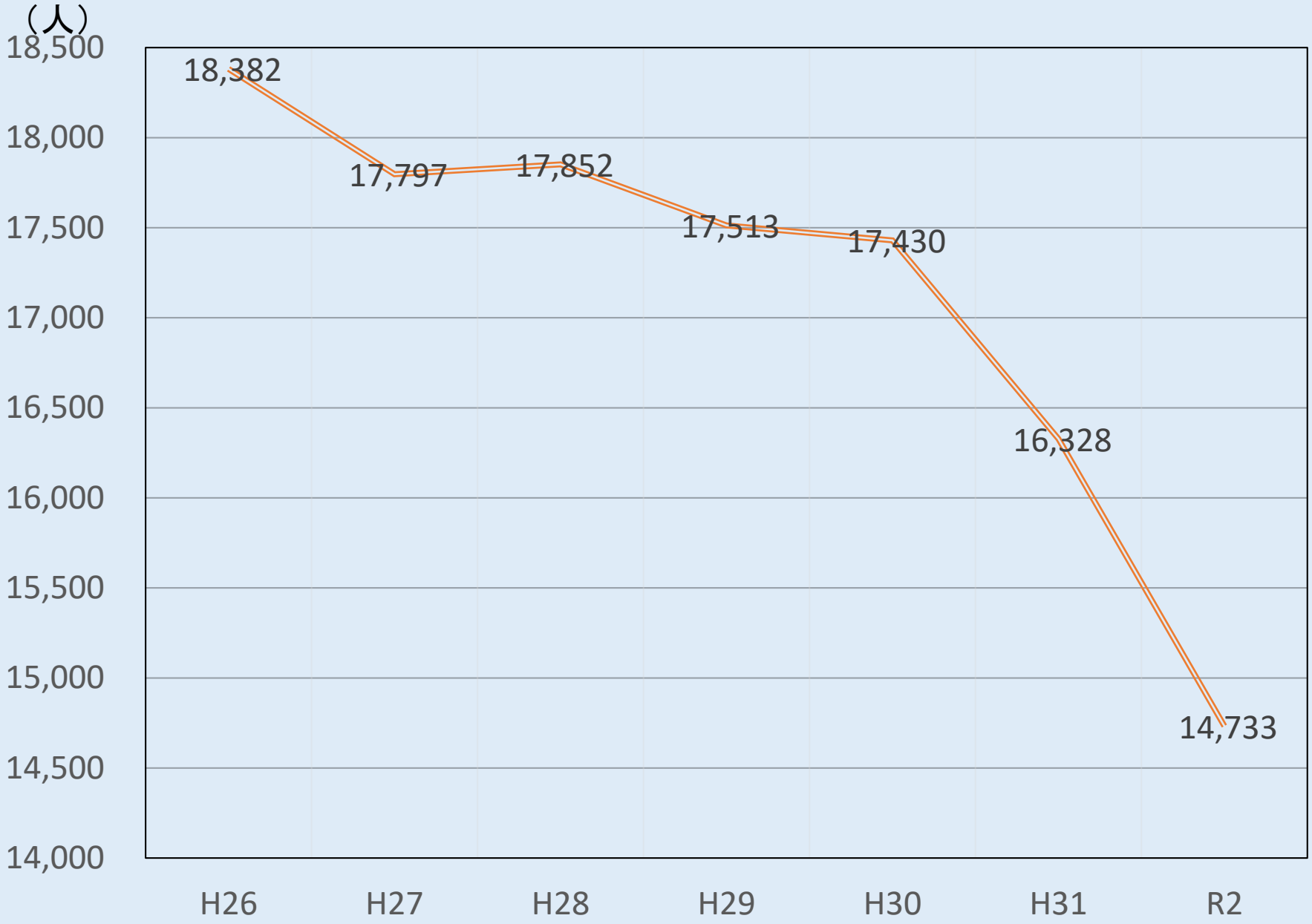
・ HPをリニューアルし、積極的な情報発信に努めた。

　情報発信はトピックス34件[29]、学生の活躍9件[14]

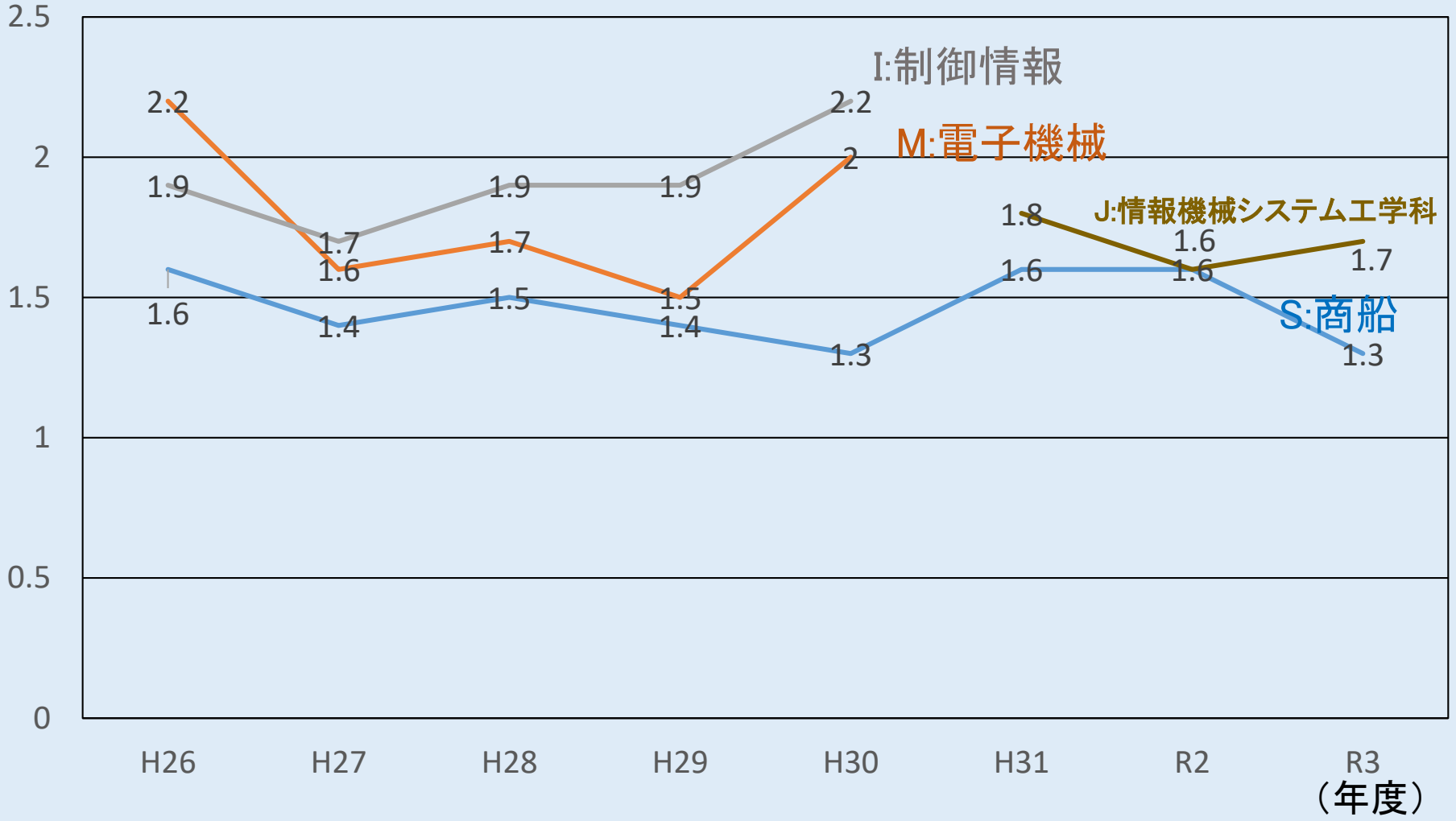
[　]は昨年度

入学志願者

三重県内中学校卒業生徒数



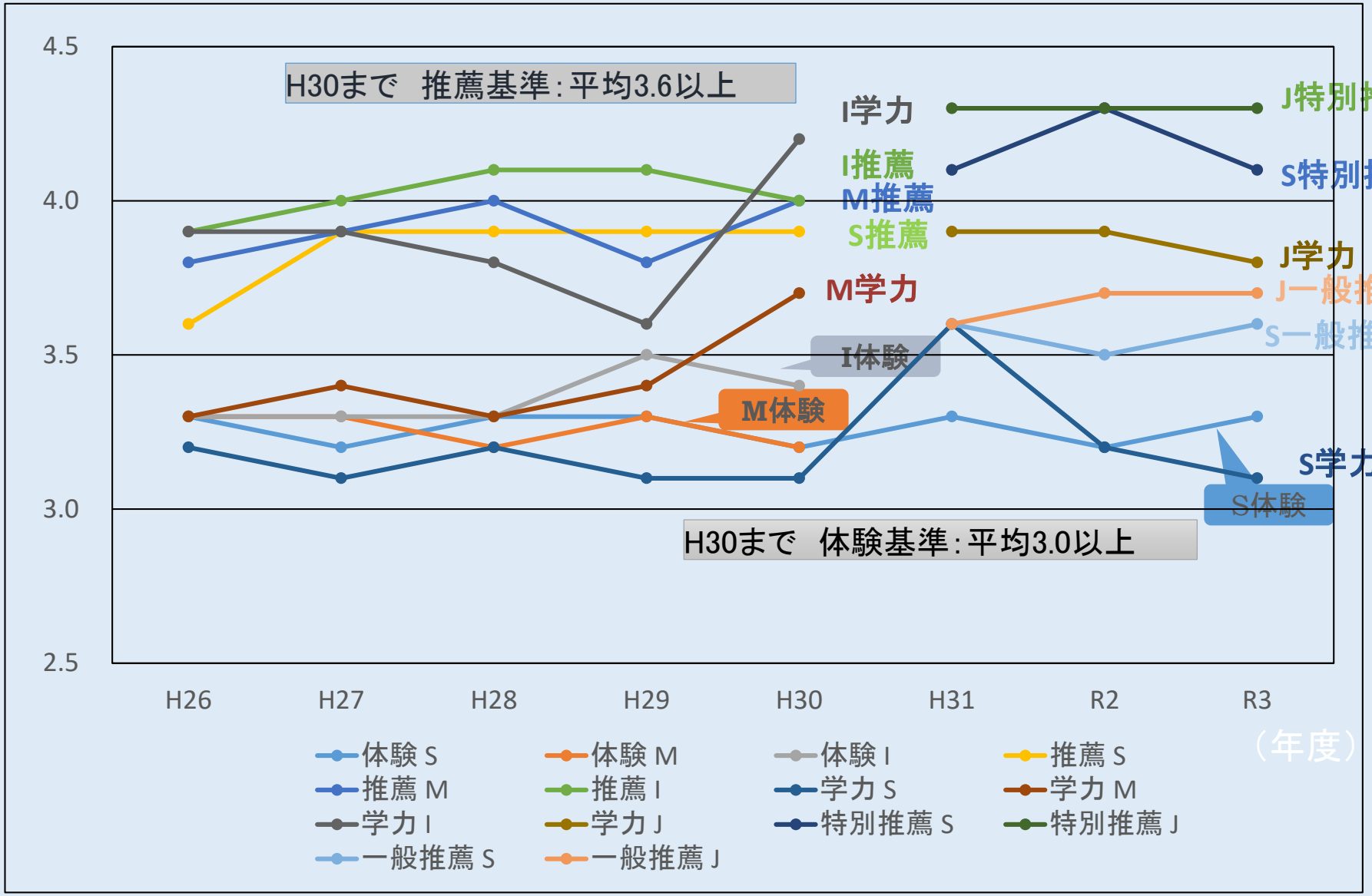
志願者倍率


2.5
2
1.5
1
0.5
0
I:制御情報
M:電子機械
J:情報機械システム工学科
S:商船
2.2
1.9
1.6
1.7
1.6
1.4
1.9
1.7
1.5
1.9
1.5
1.4
2.2
2
1.3
1.8
1.6
1.6
1.6
1.7
1.3
H26
H27
H28
H29
H30
H31
R2
R3
（年度）
商船学科
電子機械工学科
制御情報工学科
情報機械システム工学科

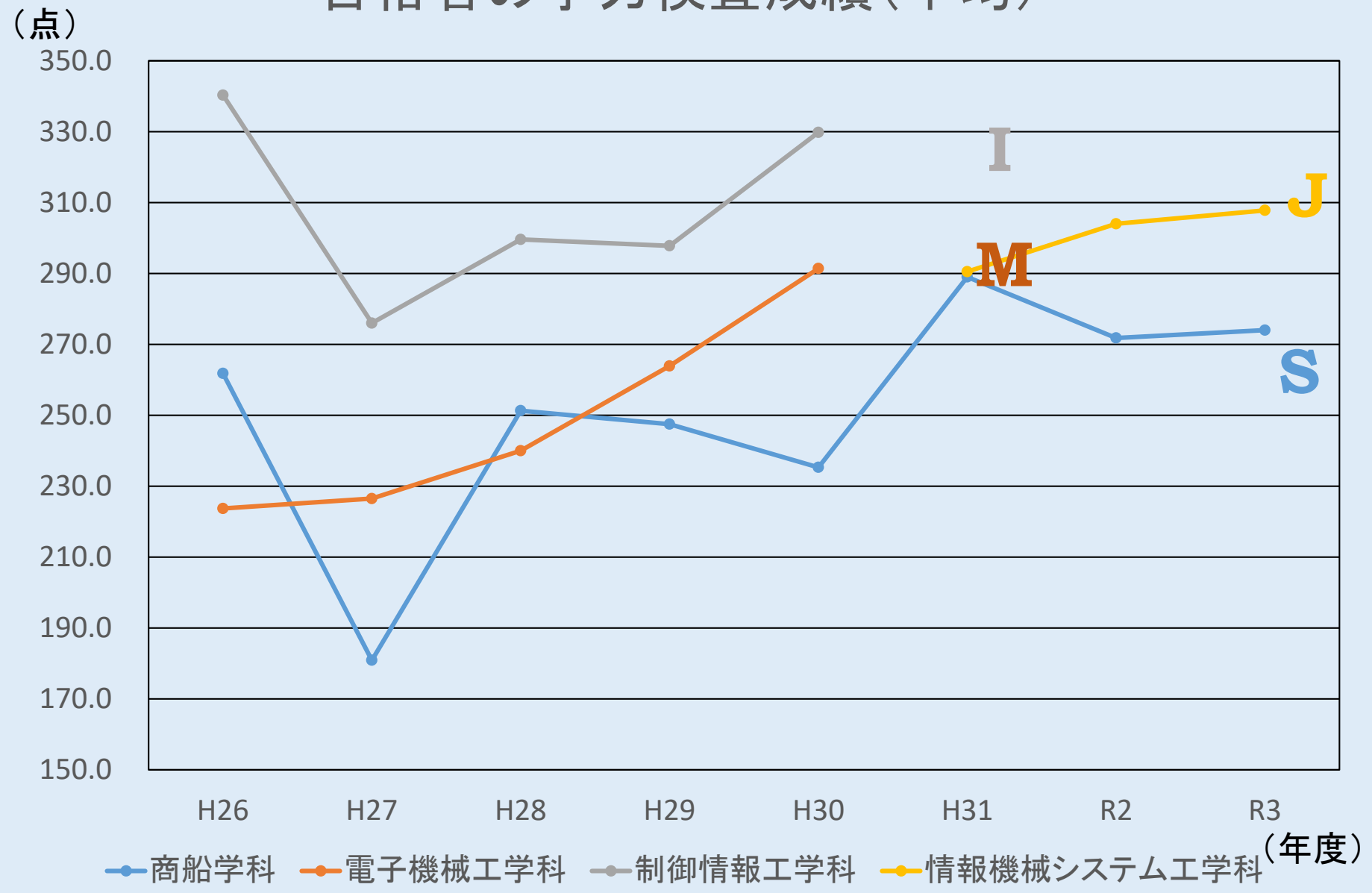
合格者の学力

合格者の調査書評定平均

特別推薦：2,3年生で平均4以上
一般推薦：2,3年生で平均3.4以上

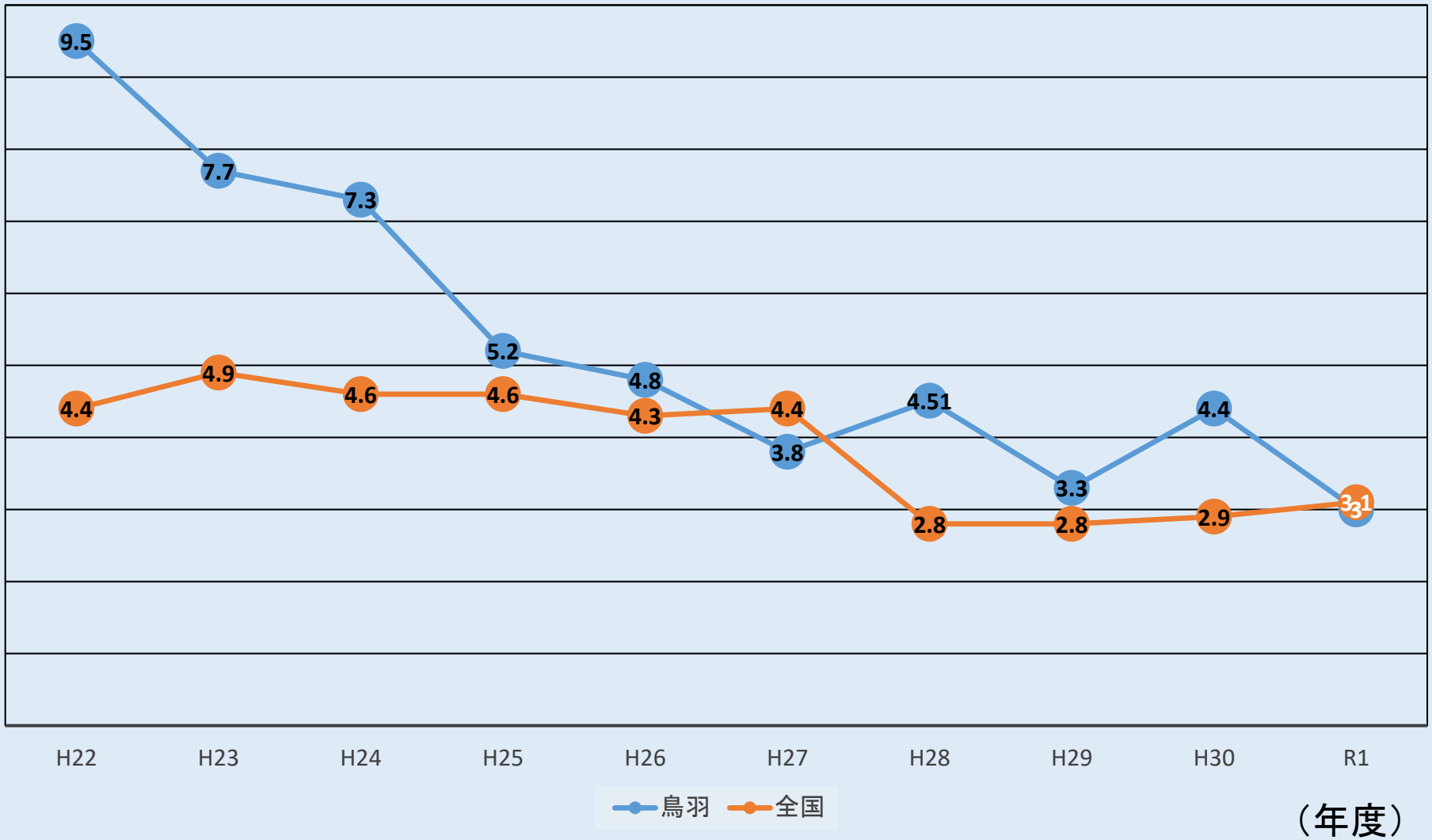


合格者の学力検査成績（平均）



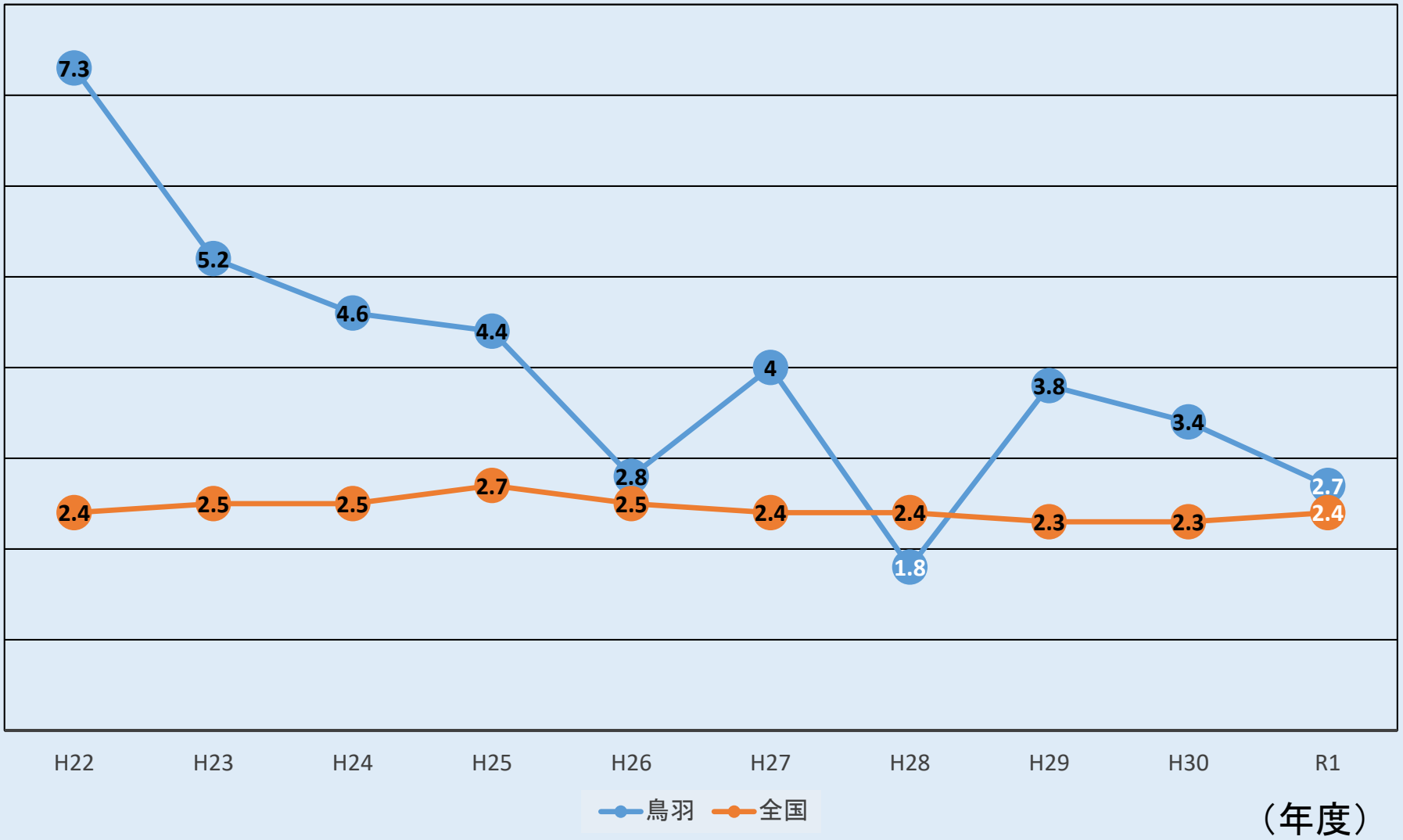
留　年

原級留置率


（%）
9.5
7.7
7.3
5.2
4.8
3.8
4.51
3.3
4.4
3.1
4.4
4.9
4.6
4.6
4.3
4.4
2.8
2.8
2.9
3.1
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
H30
R1
鳥羽
全国
（年度）

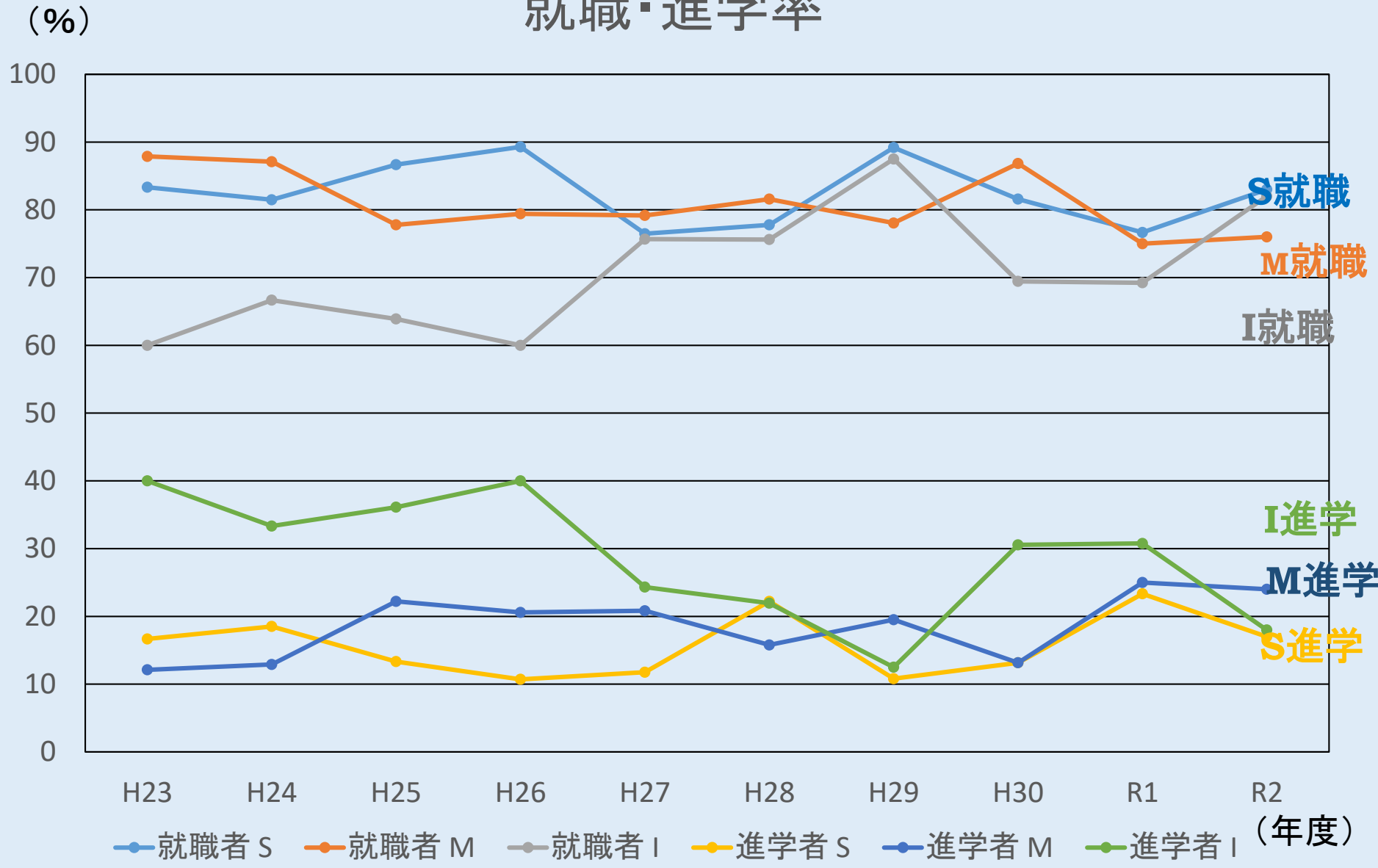
退　学

退学率


（%）
7.3
5.2
4.6
4.4
2.8
4
1.8
3.8
3.4
2.7
2.4
2.5
2.5
2.7
2.5
2.4
2.4
2.3
2.3
2.4
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
H30
R1
鳥羽
全国
（年度）

就職・進学

就職・進学率

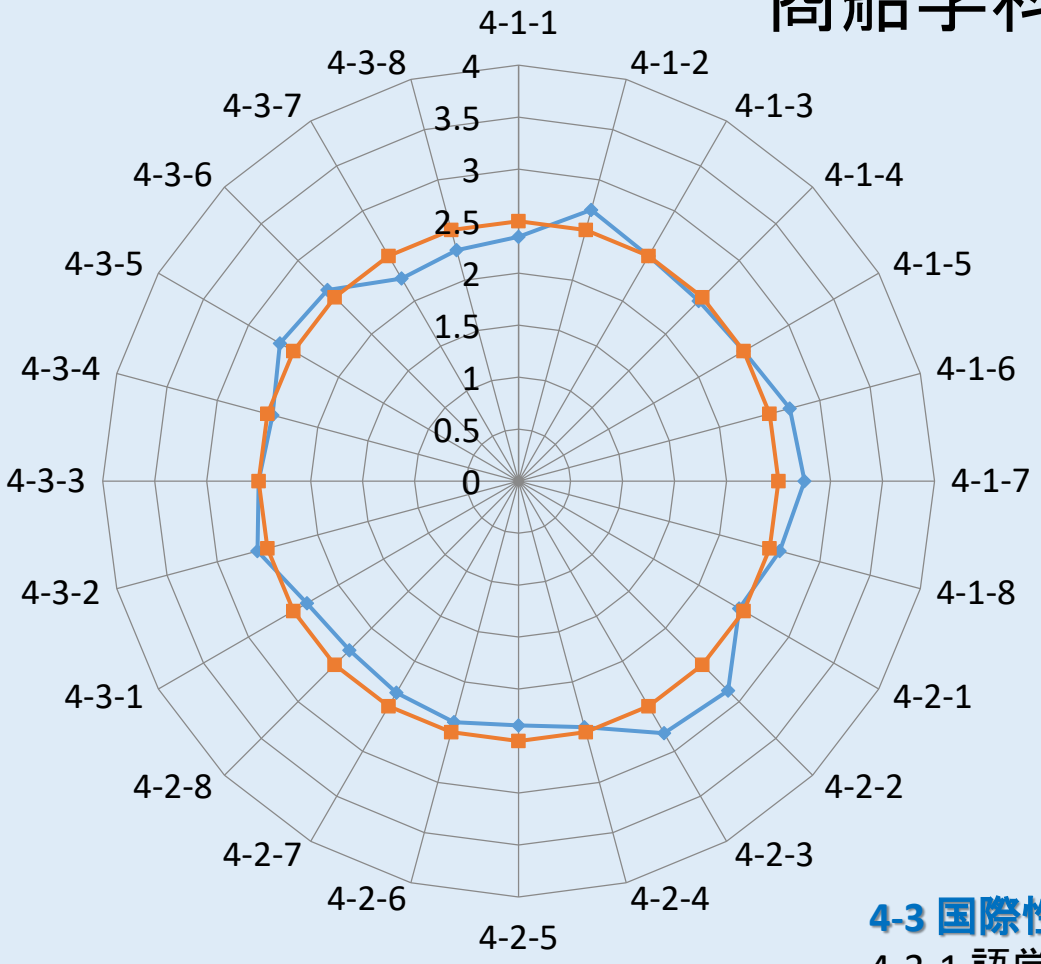


就職+進学率　ほぼ100%

3年間における教育目標達成度

（新4年生に実施）

商船学科



4-1 人間性と教養（平均2.5）

4-1-1 一般常識
4-1-2 判断力
4-1-3 礼儀
4-1-4 思いやり
4-1-5 協調性
4-1-6 積極性
4-1-7 責任感
4-1-8 リーダーシップ

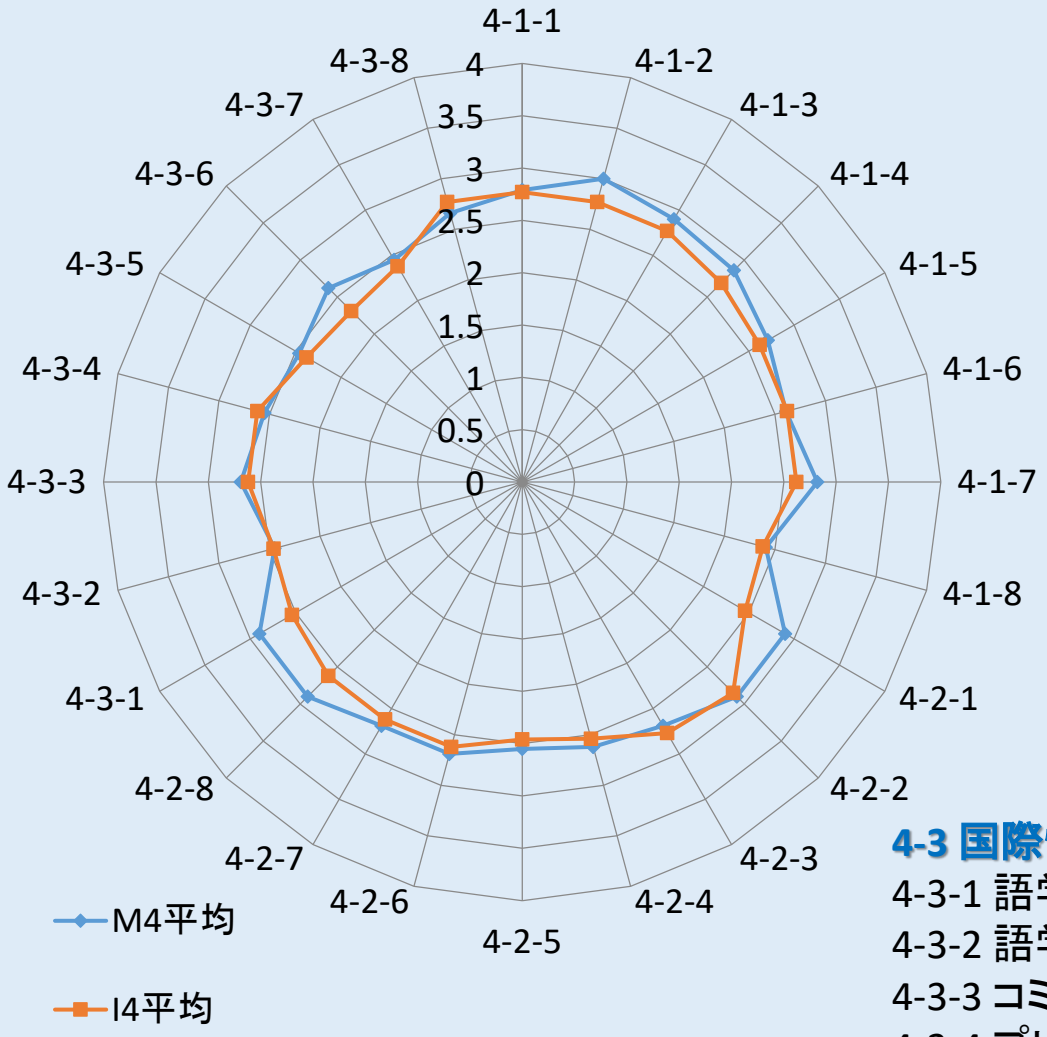
4-2 創造性（平均2.5）

4-2-1 基礎学力
4-2-2 専門知識
4-2-3 専門的技術力
4-2-4 発想力
4-2-5 計画力
4-2-6 論理的思考力
4-2-7 課題発見・解決能力
4-2-8 意欲・粘り強さ

4-3 国際性（平均2.5）

4-3-1 語学力（日本語）
4-3-2 語学力（英語）
4-3-3 コミュニケーション能力
4-3-4 プレゼンテーション能力
4-3-5 国際的な視野
4-3-6 探求心
4-3-7 発信力
4-3-8 状況把握力

電子機械工学・制御情報工学科



4-1 人間性と教養（平均2.7）

4-1-1 一般常識
4-1-2 判断力
4-1-3 礼儀
4-1-4 思いやり
4-1-5 協調性
4-1-6 積極性
4-1-7 責任感
4-1-8 リーダーシップ

4-2 創造性（平均2.7）

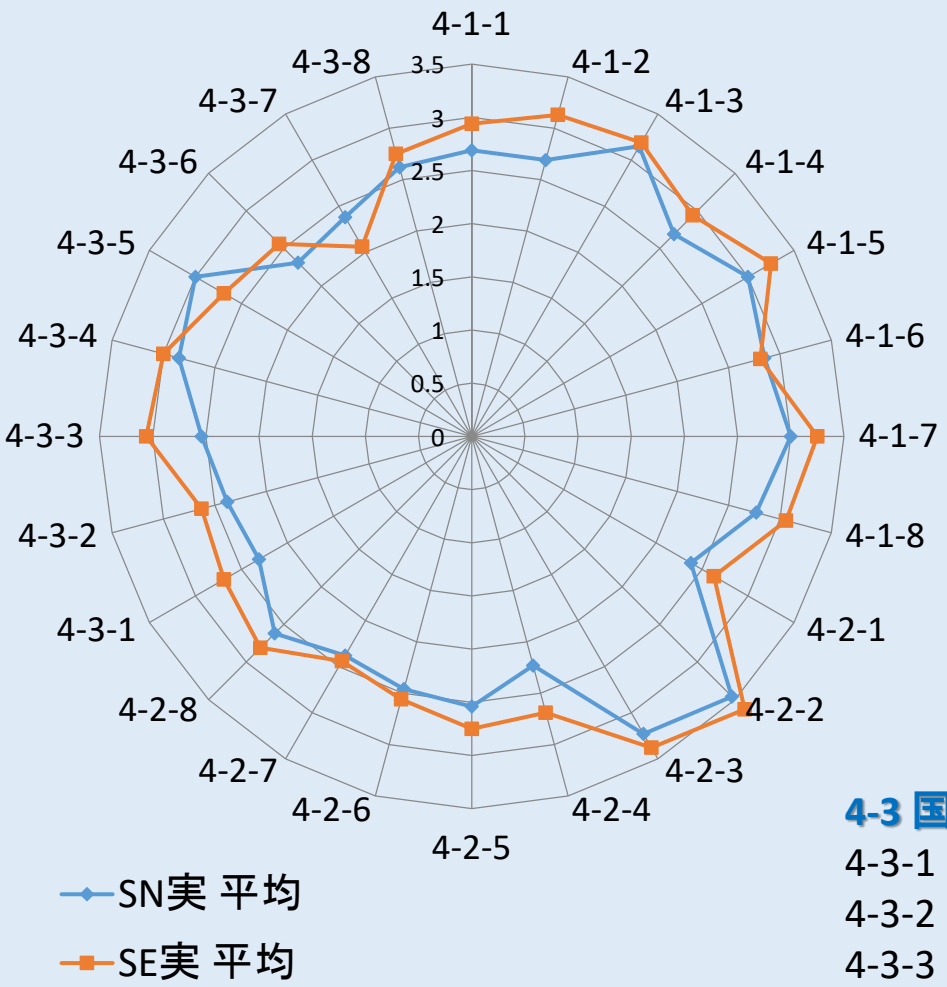
4-2-1 基礎学力
4-2-2 専門知識
4-2-3 専門的技術力
4-2-4 発想力
4-2-5 計画力
4-2-6 論理的思考力
4-2-7 課題発見・解決能力
4-2-8 意欲・粘り強さ

4-3 国際性（平均2.6）

4-3-1 語学力（日本語）
4-3-2 語学力（英語）
4-3-3 コミュニケーション能力
4-3-4 プレゼンテーション能力
4-3-5 国際的な視野
4-3-6 探求心
4-3-7 発信力
4-3-8 状況把握力

卒業時における教育目標達成度

商船学科卒業生（令和2年9月卒業）の教育目標達成度



4-1 人間性と教養（平均3.0）

4-1-1 一般常識
4-1-2 判断力
4-1-3 礼儀
4-1-4 思いやり
4-1-5 協調性
4-1-6 積極性
4-1-7 責任感
4-1-8 リーダーシップ

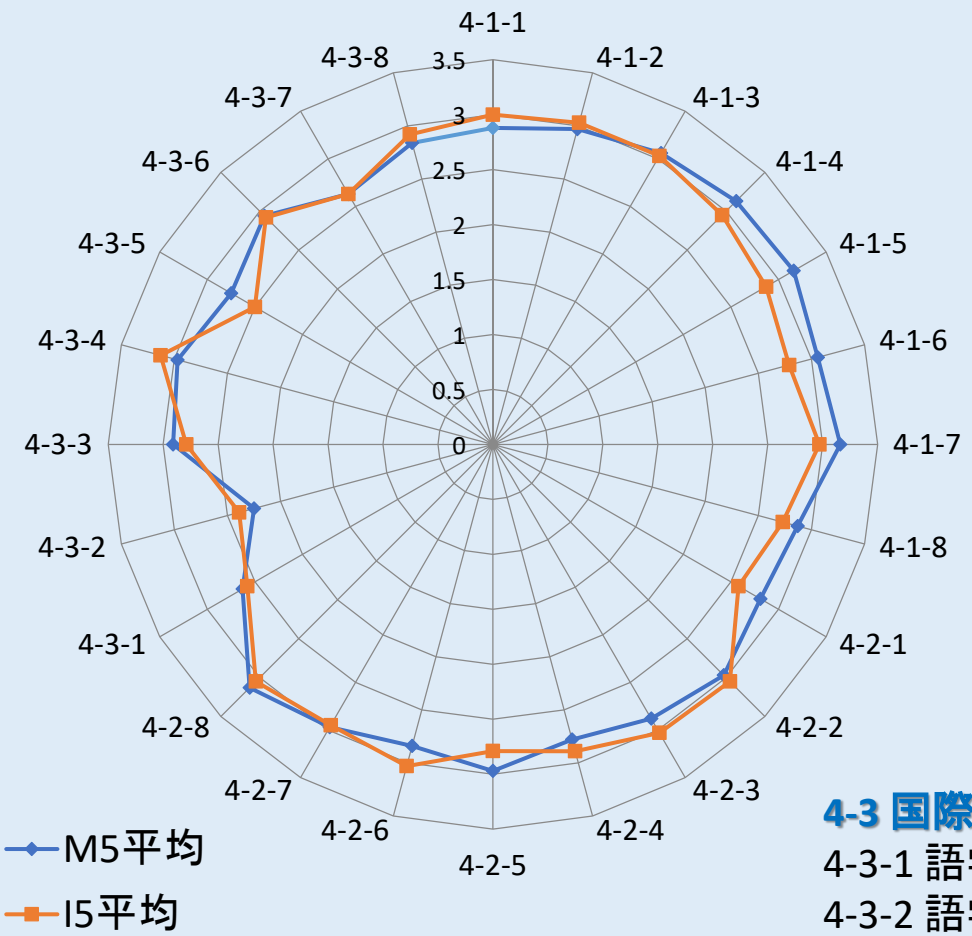
4-2 創造性（平均2.8）

4-2-1 基礎学力
4-2-2 専門知識
4-2-3 専門的技術力
4-2-4 発想力
4-2-5 計画力
4-2-6 論理的思考力
4-2-7 課題発見・解決能力
4-2-8 意欲・粘り強さ

4-3 国際性（平均2.6）

4-3-1 語学力（日本語）
4-3-2 語学力（英語）
4-3-3 コミュニケーション能力
4-3-4 プレゼンテーション能力
4-3-5 国際的な視野
4-3-6 探求心
4-3-7 発信力
4-3-8 状況把握力

工業系学科卒業生（令和2年3月卒業）の教育目標達成度



4-1 人間性と教養（平均3.0）

4-1-1 一般常識
4-1-2 判断力
4-1-3 礼儀
4-1-4 思いやり
4-1-5 協調性
4-1-6 積極性
4-1-7 責任感
4-1-8 リーダーシップ

4-2 創造性（平均2.9）

4-2-1 基礎学力
4-2-2 専門知識
4-2-3 専門的技術力
4-2-4 発想力
4-2-5 計画力
4-2-6 論理的思考力
4-2-7 課題発見・解決能力
4-2-8 意欲・粘り強さ

4-3 国際性（平均2.7）

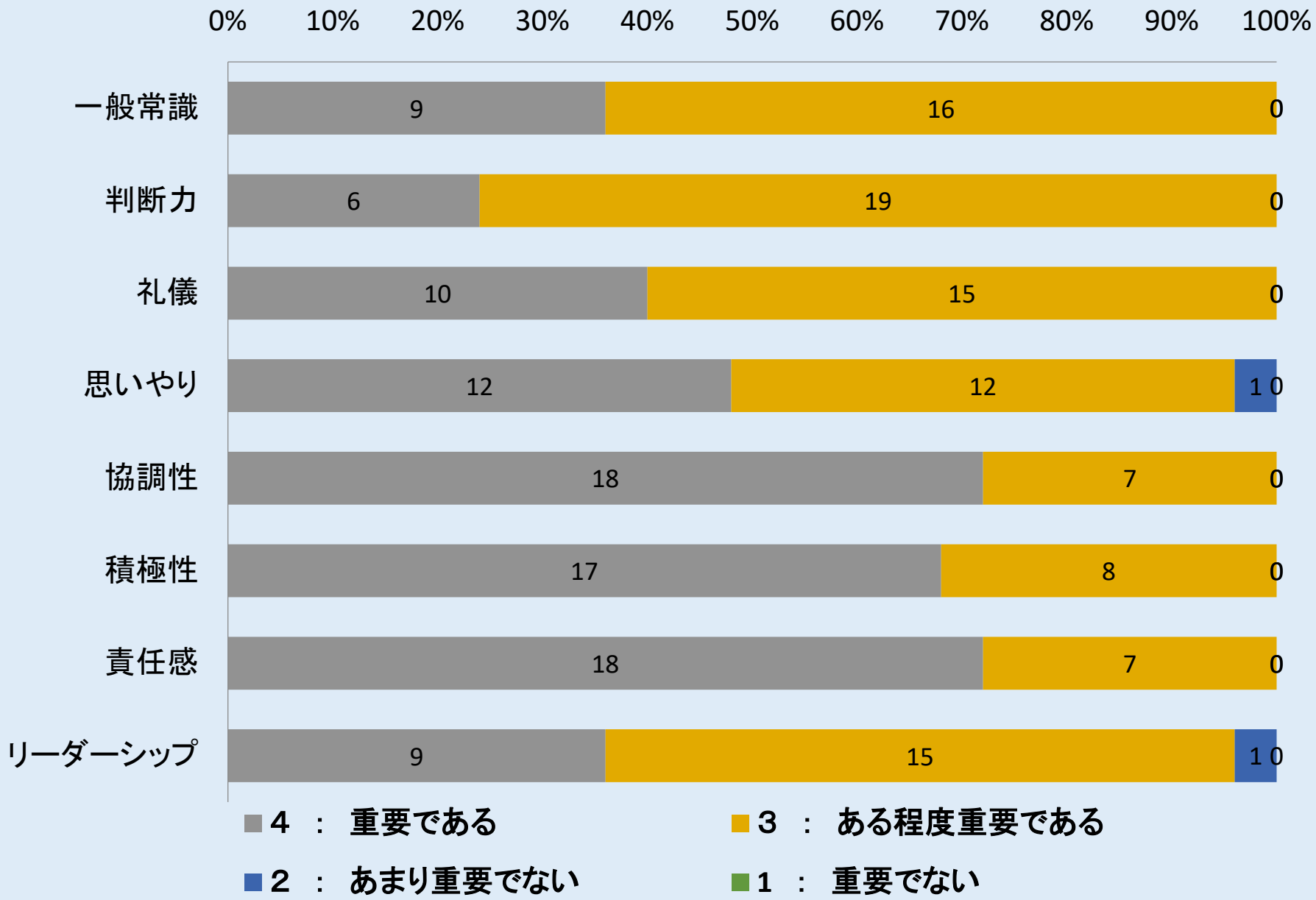
4-3-1 語学力（日本語）
4-3-2 語学力（英語）
4-3-3 コミュニケーション能力
4-3-4 プレゼンテーション能力
4-3-5 国際的な視野
4-3-6 探求心
4-3-7 発信力
4-3-8 状況把握力

満足度アンケート

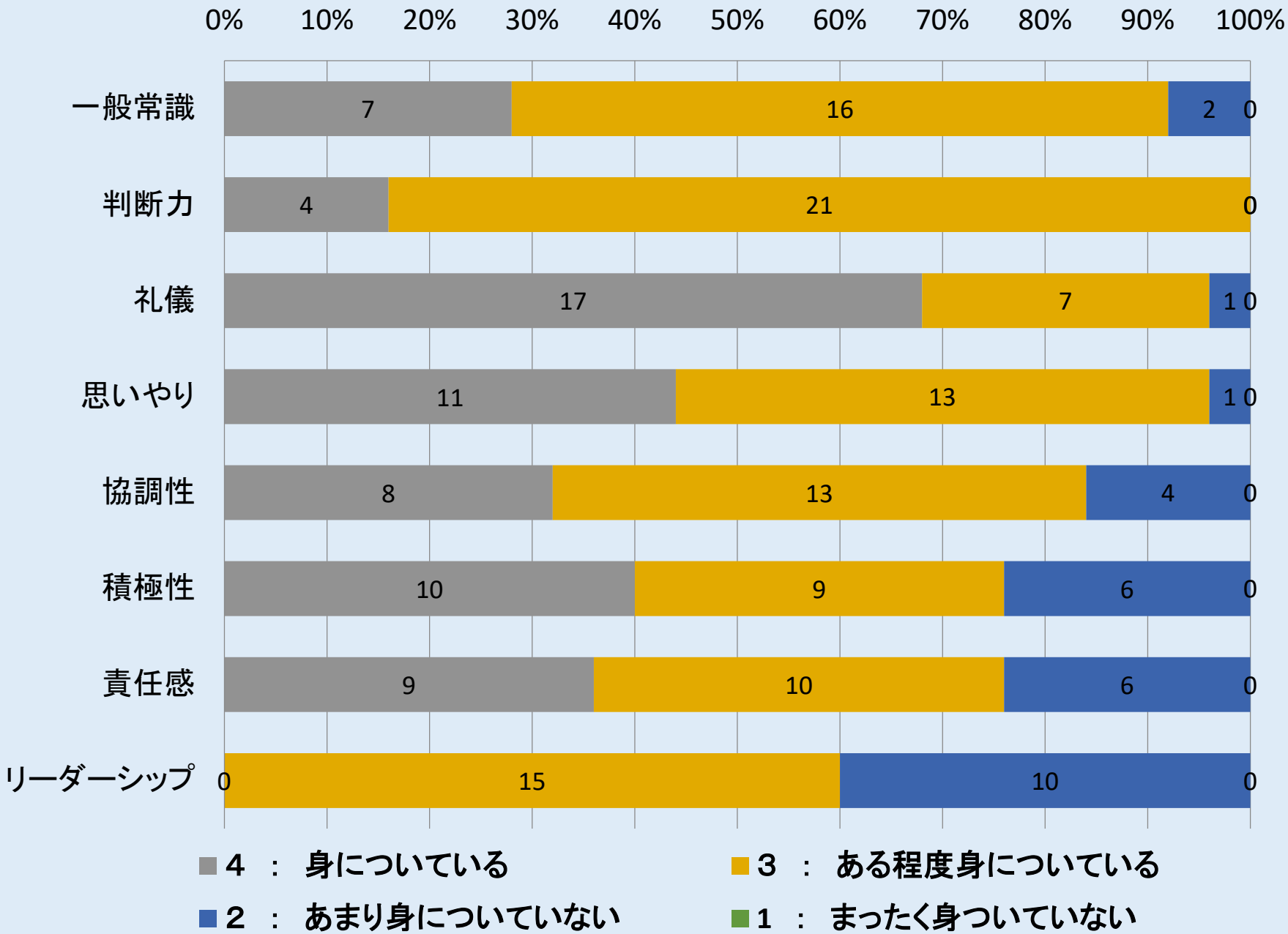
就職・進学先

（平成29年度実施（前年度報告済み））

本校の教育で【人間性と教養】はどの程度重要ですか



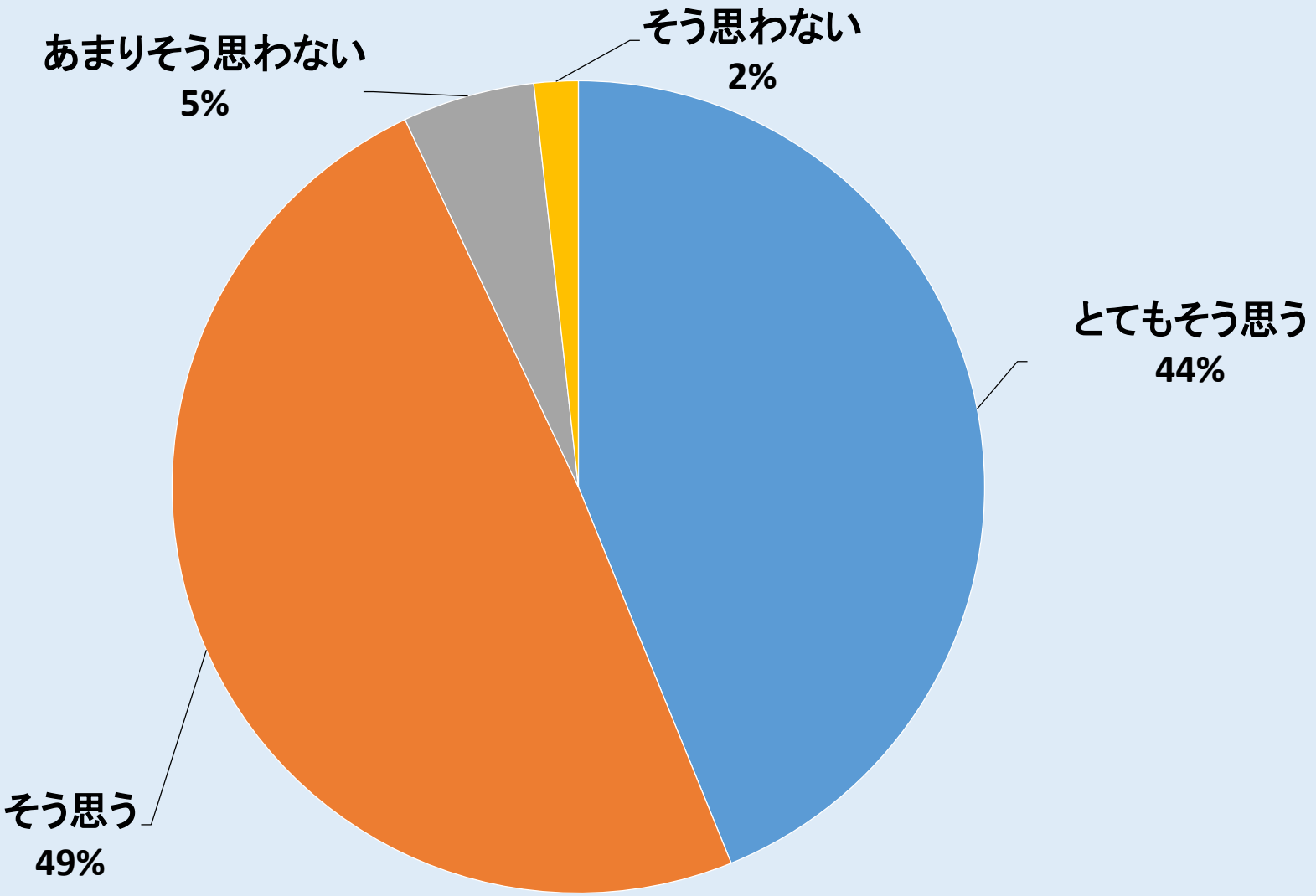
本校の教育で【人間性と教養】がどの程度身についているか



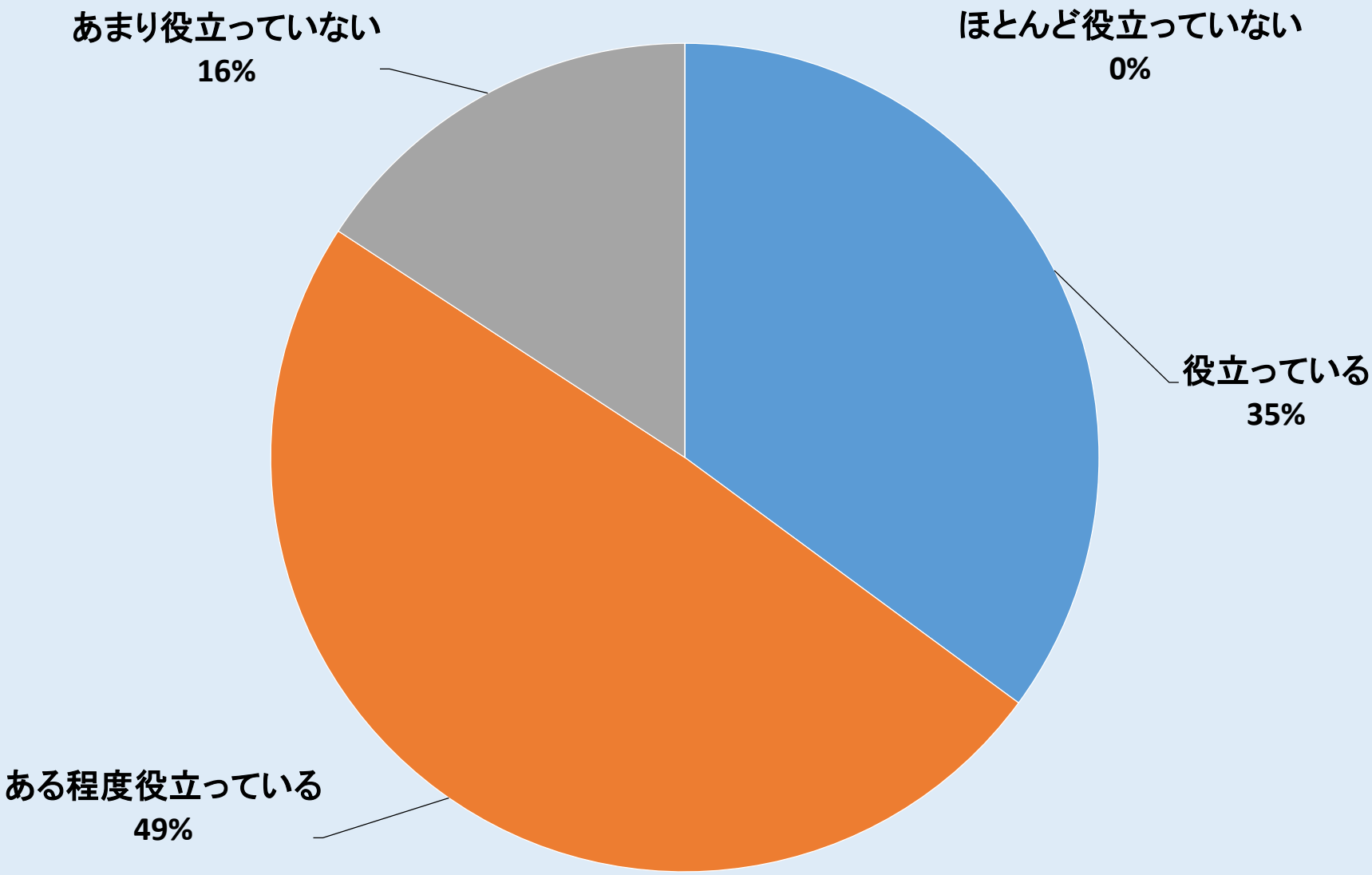
卒業生・修了生

（平成29年度実施（前年度報告済み））
実施方法は、すでに卒業・修了したOB・OGを対象に、卒業研究・特別研究の指導教員から依頼した。

本校の教育内容、身についた能力について 本校に在学してよかったか



本校で学んだことは、役に立っていますか（卒業後、役に立つと思うか）？



教育改善

学生のポテンシャルを引き出す

入学生の基礎学力が低い

学業不振→原級留置・進路変更
生活の乱れ→学業不振・懲戒
将来に対する不安→ミスマッチ・学業不振

どうするか？
どのようにして？

入学志願者のレベルを向上させる

入試改革　平成31年度から新入試制度導入

学びの魅力　平成31年度から学科改組

平成31年度は、改善項目の定着を図る

課題解決、企画を推進するしくみの定着

令和２年度は新型コロナウィルスのため遠隔授業で学びを継続

新入試制度（昨年度から）の定着で志願者倍率増加を図る

1.推薦選抜

特別推薦

出願資格：2・3年生の評定の総計が**72**以上、かつ2・3年生の全科目3以上
出願書類：志望理由書、校長推薦書
選抜方法：書類選考、面接

一般推薦

出願資格：2・3年生の評定の総計が**62**以上、かつ2・3年生の全科目3以上
出願書類：志望理由書、校長推薦書
選抜方法：書類選考、**作文**、面接

2.体験学習選抜（商船学科のみ）

出願資格：2・3年生の全科目3以上

3.学力検査選抜

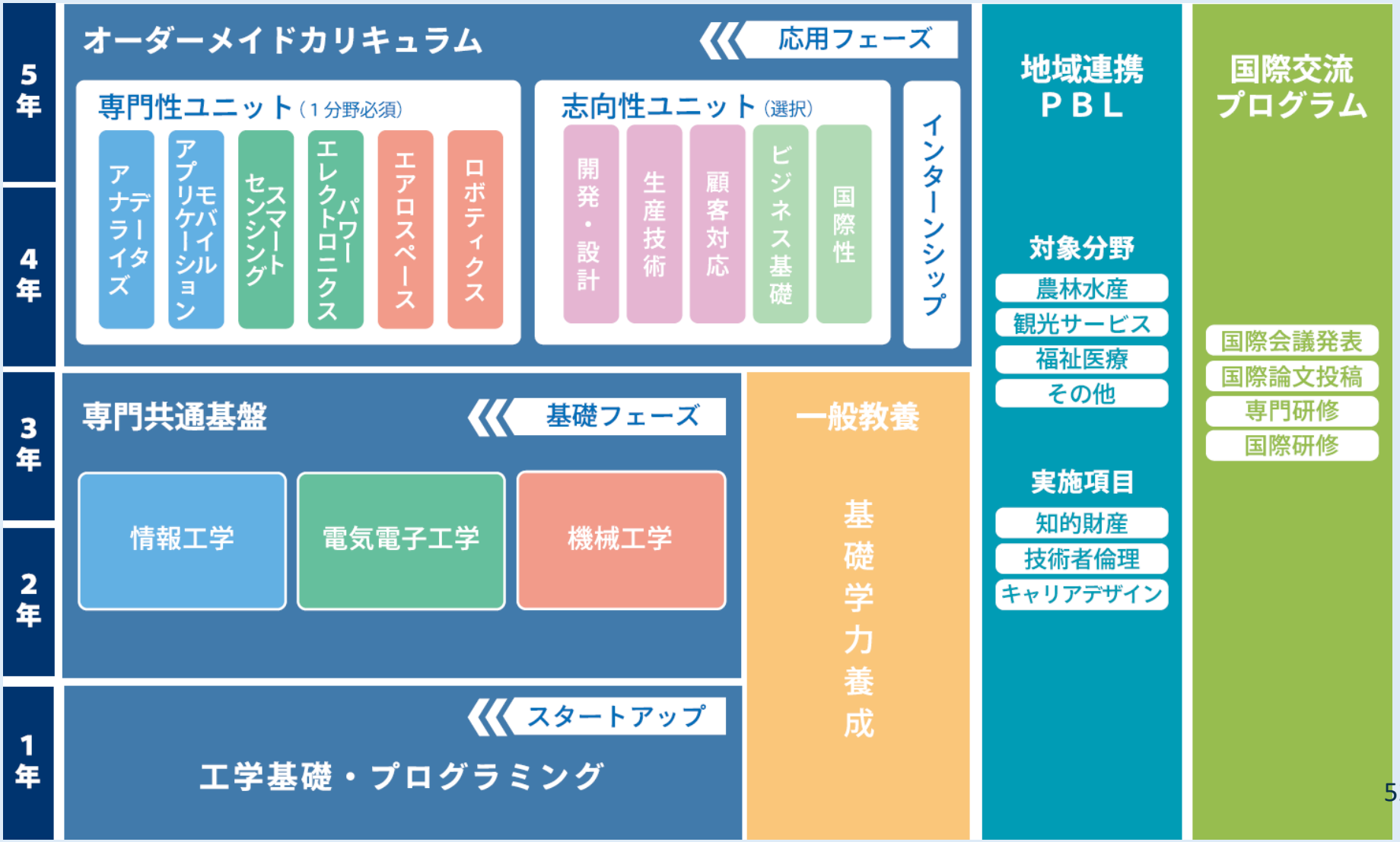
従来通り

推薦と体験で定員の85%確保

（旧制度）
1.推薦：1～3年生の合計96以上
2.体験：全学科、1～3年生の合計81以上が望ましい（主要5科目は全て3以上）

「情報機械システム工学科」の１年生が入学

地域課題を解決するPBL(Project Based Learning)チームに1年生から所属し、地域産業や文化を理解し、工学的な解決法を提案できる実践的技術者を輩出する



学生のための3つの支援室

学修推進支援室

(1) 学生の学力向上に関すること。
(2) 学生の学修を支援するために必要な方策の検討及び実施に関すること。
(3) 教育改善に関する調査・研究に関すること。
(4) 授業改善計画の立案、実施、評価及び再構築に関すること。
(5) 教員の資質向上に関すること。

キャリア教育推進室

(1) 本校におけるキャリア教育の設計、改善、実装に関すること。
(2) 学生のロードマップ（将来構想）に関すること。
(3) 就職及び進学に関する情報の収集及び提供に関すること。
(4) 就職のための指導と支援に関すること。

グローバル教育推進室

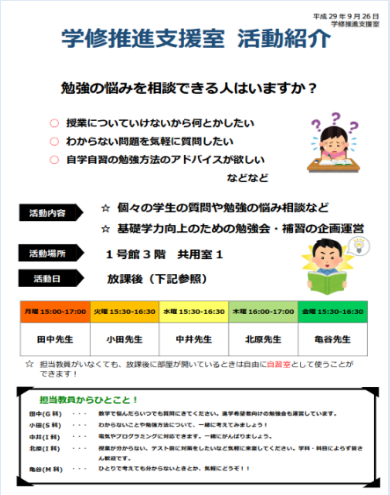
(1) 学生及び教職員の英語力向上に関すること。
(2) 国際交流プログラムに関すること。
(3) 学内におけるグローバル化推進に関すること。
(4) 留学生の受入れ及び指導に関すること。
(5) 海外の機関との交流及び連携協力に関すること。

学修推進支援室

令和２年度の活動

「基礎学力定着」
「原級留置率の低減」

学生の学力向上・学修支援



(1)「学修推進支援室」の運営

- 「学修推進支援室」（空き教室を利用）を設置し、学生の授業外の学修を支援するために自習の場を提供する。
- 支援室には平日1時間程度支援室員（教員）もしくはチューター（専攻科生）が常駐し、学科学年に関わらず学習のアドバイス、支援を行う。（登校停止中は、オンライン対応とした）
- 支援室は、グループ学習にも対応できるようテーブルを配置し、ホワイトボードを複数設置した。また、前方は講義に対応できるよう教室と同じ配置とした。
- 学科学年が異なる学生グループ複数が同時に学習できる空間としている。
- 教科書・参考書および試験の過去問題を提供可能な教員から取集し、学生が利用可能となっている。

なお、「学修推進支援室（教室）」の利用は、後期面接授業になってからとなった。

(2) 要支援者の支援

- 単位不認定の恐れがある学生(要支援者)の情報を共有し、クラス担任と教科担当教員で対応と対策の実施を要請した。
- 要支援者の一部は、各科の室員が自身の支援室常駐時間を用いてフォローを行った。

(3) 全学科1年生の数学補習

- 全学科1年生について、週2限を「支援室補講」として設けた。
- 前期は遠隔授業であったため、すべての科目について受付け、希望者のみ参加のオンライン対応とした。
- 後期は支援が必要と判断した学生に、基礎数学の演習課題に各自が取り組む時間とし、教員がフォロー、解説する形を取った。

(4) スタディサポート・CBTの活用(1-3年生)

- 本来、入学当初に行われるスタディサポート(業者テスト英・数・国)が後期に実施されたため、前期の成績と合わせて、後期の支援を必要とする学生の選定を行った。
- 入試成績、スタディサポート、CBTを用いて学生の成績の追跡調査を行っている。

教員の資質向上

(1) 授業公開の実施

- 令和2年12月14日～18日の5日間実施
  - ✓ 他教員の授業見学すること、および自身の授業を見学してもらうことで学校全体の授業の質の向上を図る。
  - ✓ 専門科目担当教員は一般基礎科目の授業内容の把握。
  - ✓ 一般基礎科目担当教員は専門科目での応用。
  - ✓ 見学後は、「見学記録・コメントシート」を記入し、授業担当教員へフィードバックとした。 24シートのフィードバックが得られたが、昨年度の27枚から微減であり、周知の徹底及び実施方法の改善が必要。
- 授業アンケートで評価の高い授業、AL(アクティブラーニング)を試みる授業の見学を推奨した。

(2) 教員FD

- 令和2年9月2日に実施された教員FD研修に正副室長および室員（計5名)が参加した。テーマ「遠隔授業の問題点と課題の抽出」

(3) その他

- 第3ブロックAL推進研究会に参加し、他高専とも情報共有・連携を行ってきた。

令和３年度の活動計画

学生の学力向上・学修支援

(1) 学修推進支援室の運営

(2) 要支援者のリストアップと支援

(3) 数学・物理の基礎学力向上、およびCBT試験の支援(1−3年生)

(4) 1年生全学科の数学の基礎教育の継続

(5) 進学希望者の調査と支援内容の検討

(6) 登校停止時におけるオンライン支援の充実

- 担任、教科担当および学生相談室とも情報共有を行い要支援者の利用を増加を図る。
- 高学年のチュータの参加を週2回程度に増加させるなど機能の充実を図る。
- 今後の登校停止時を想定し、オンラインでの効果的な支援を検討し実施する。
- なお、R2年度の原級留置数は2名であった。(H28：31人、H29：25人、H30：25人、H31：22人)。コロナ禍による遠隔授業や特別補講など進級に関する制度の変更

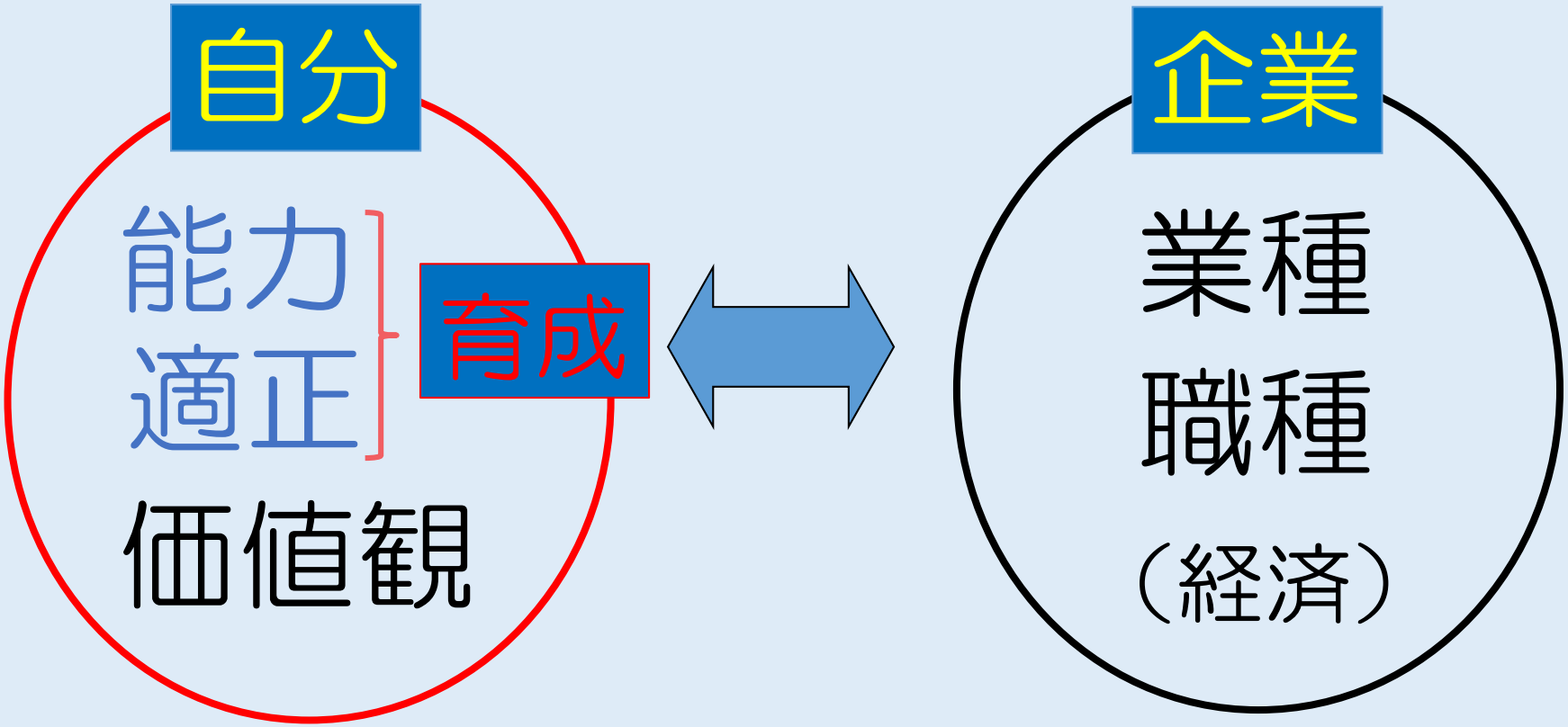
教員の資質向上

(1) 授業公開の実施
(2) 教員FDの実施
(3) 授業アンケートの改善、授業改善計画の立案、実施

- ICTを活用した効果的な授業、ALを用いた授業を学内に浸透させることが必要である。
- 他高専の事例、ICTの活用、ALを行っている教員の授業計画、教員FD、ワークショップ、授業アンケート利用などを通じてALの普及と授業改善を図る。
- 授業改善計画の実施、評価について、PDCAがうまく回るような形への再検討を行う。

キャリア教育推進室
（学生主事室連携）

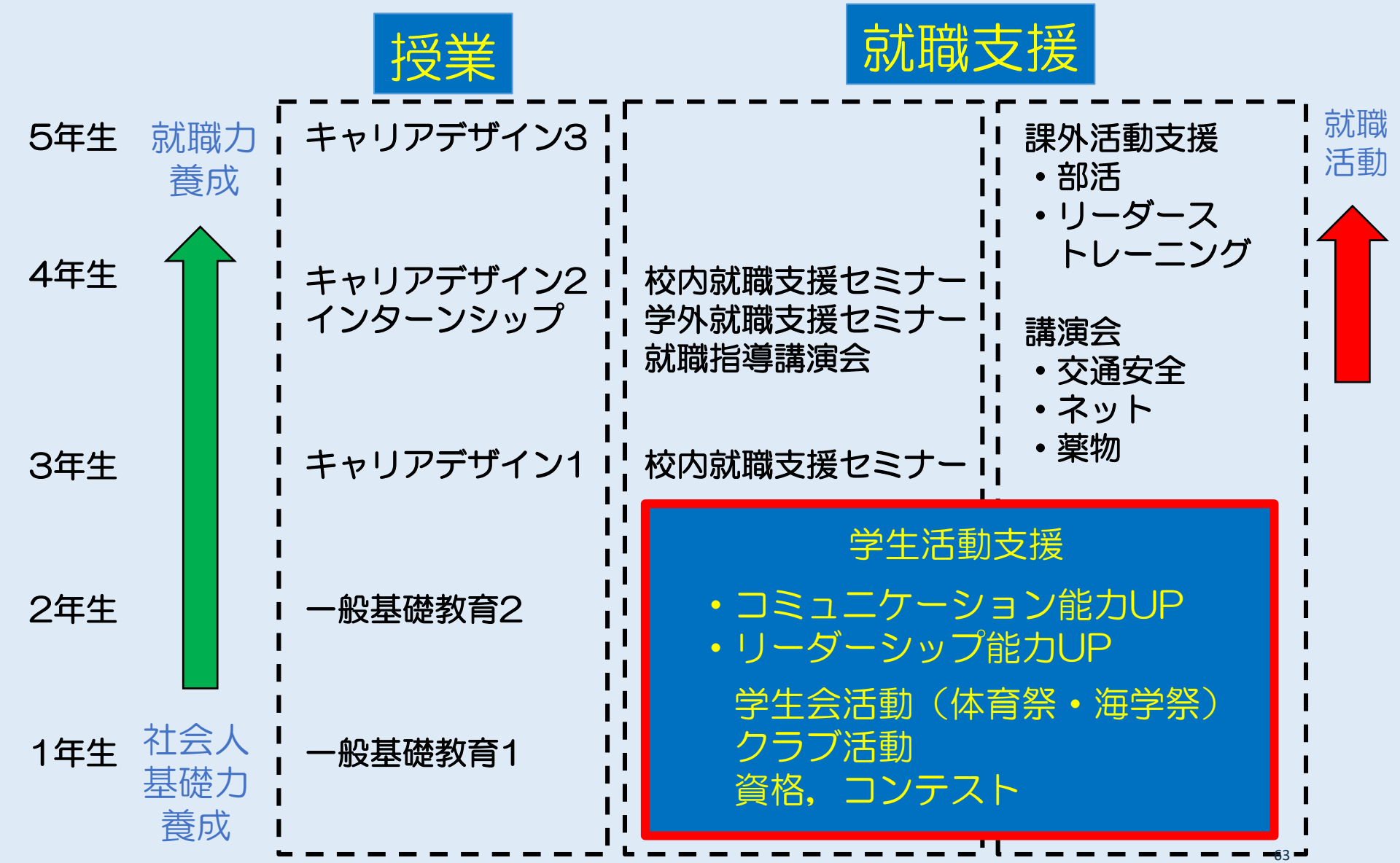
キャリア教育の戦略



自己分析・成長 ＋ 企業分析

➡ 企業に自分を選んでもらう

キャリヤ教育支援


授業
就職支援
5年生
4年生
3年生
2年生
1年生
就職力
養成
社会人
基礎力
養成
キャリアデザイン3
キャリアデザイン2
インターンシップ
キャリアデザイン1
一般基礎教育2
一般基礎教育1
校内就職支援セミナー
学外就職支援セミナー
就職指導講演会
校内就職支援セミナー
課外活動支援
・部活
・リーダース
トレーニング
講演会
・交通安全
・ネット
・薬物
就職
活動
学生活動支援
・コミュニケーション能力UP
・リーダーシップ能力UP
学生会活動（体育祭・海学祭）
クラブ活動
資格，コンテスト

今年度の活動（１）

（1）授業科目

- **社会人基礎力養成（学科横断型授業）**

一般基礎教育1（1年生）

メンタルヘルス・コミニュケーションスキル（本校カウンセラー，臨床心理士）、
スマホ安心講座（KDDI講師）、
デートDV防止啓発講座（鳥羽市子育て支援室講師）
性教育（元中学校養護教諭）、
未来を「つくる」―グローバルとコミュニケーションと探求― （外部講師）、
キャリア形成・社会意識形成（学生主事・キャリア教育推進室長）

一般基礎教育2（2年生）

未来を「つくる」―グローバルとコミュニケーションと探求― （外部講師）、
キャリア形成・社会意識形成（学生主事・キャリア教育推進室長）

- **就職力養成**

キャリアデザイン1（3年生）

コミュニケーション力育成、自己（意識、能力、実績）分析

キャリアデザイン2、校外実習（4年生）

企業・職種・地域分析調査、インターンシップ準備・報告、履歴書作成

(2)講演会

- **社会人基礎力養成**

「遠隔授業世代のSNSに潜む危険と生活安全」(オンライン講演会)

本科全学生、令和2年8月5日、鳥羽警察署生活安全課　講師

- **就職力養成**

(キャリアデザイン1・2と連携した学科横断型就活力養成授業プログラム開発)

「Web適性検査」(オンライン講義)

3・4年生、令和2年11月24日、(株)マイナビ　講師

「オンライン面接対策講座」(オンライン講義)

3・4年生、令和2年12月5日、(株)マイナビ　講師

(3)セミナー

- **就職力養成**

オンライン校内就職支援セミナー

本科3・4年生、専攻科1年生、令和2年12月3日、102社参加

人材広告企業のインターンシップ説明会、就職セミナー参加支援(12月～3月)

マイナビ、メディア総研、学研アソシエ

(4)オンライン環境の整備

Zoom導入

鳥羽商船高専で校内就職支援セミナー

鳥羽商船高専では、校内就職支援セミナーをこのほど開催した。キャリア教育の一環として、専攻科1年生、工業系本科3、4年生を対象に実施。採用実績のある企業を中心に102社の協力を得て、Webにより行われた。

セミナーは企業を四つのグループに分け、1日で各グループ2時間のセミナーを、4回繰り返す形式で実施した。各セミナーのプログラムは、最初に全体会議としての企業のショートプレゼン後、Web上に設けた各企業の仮想企業ブースに学生が移動して面談を行った。

参加学生は、事前に遠隔授業で㈱マイナビの講師によるWeb適性検査を用いた自己分析講習や、Webセミナーのマナー講習を受けて、セミナーに臨んだ。セミナーは、学園祭の代休日を利用した学生にとっては任意参加の行事となったが、参加対象学生の75％以上が参加したグループもみられるなど、大いに盛り上がった。

令和3年度採用の就職活動でも、遠隔によるセミナー開催や、遠隔面接が一般することが予想されることから、参加学生からは、新しい方法で、新しい社会を生き抜く活力を身に付けようとする意気込みが感じられた（写真は就職支援セミナー運営事務局）。

文教速報，p32, No.8903・4（R3/2/5・8）

鳥羽商船高専、講演会を開催
新しい生活習慣、みんながみんなを守る

鳥羽商船高専は、『新しい生活習慣、みんながみんなを守る』をテーマに、オンライン会議システム「Teams Live Event」を用いた遠隔講演会を去る8月5日に開催した。

講演会では冒頭、林佑司校長から、登校再開に向けた新しい生活習慣に関する学校方針が示された。引き続き、三重県鳥羽警察署生活安全課の鈴木裕介係長が『遠隔授業世代のSNSに潜む危険と生活安全』をテーマに講演。現職の警察官による現実味のある話は、学生だけでなく教職員にとっても大いに有意義なものとなった。

最後に、坂牧孝規学生主事から、『COVID-19から命を守る生活安全』をテーマに、最新の科学的な情報に基づくCOVID-19への対処方法などが説明された。

同校では、学生の顔が見えないなか、学生と学校の距離が少しでも近づくように、学生教職員が一丸となってWebツールを使いこなし、新しい生活習慣に基づく新しい学校の実現を目指している。

講演する鈴木氏（中央）

文教速報，p14,No.8885（R2/9/2）

グローバル教育推進室

令和２年度国際交流実施報告

No	事業名	担当	派遣先	対象	実施日	募集人数（予定）	参加費用（予定）	備考
1	日タイサイエンスフェア	鳥羽	タイ	Ｉ科３年生	２月	２名程度	ー	オンライン
2	商船系高専とハワイ大学 KCC との国際交流プログラム	富山	アメリカ合衆国ハワイ州カウアイ島	商船学科全学年	３月	本校学生3名	５，０００円（９０分×４回）	オンライン

令和２年度の活動

国際交流事業

（1）日タイサイエンスフェア

令和元年度より高専機構が学生受け入れを始めたタイのチュラポーンサイエンスハイスクールで日本とタイの高校生が交流をしながら、科学分野における発表を行うものである。今年度は2月24日～2月25日にオンラインで実施された。

- 本校から2名の学生が参加し、オンラインでの発表を行った。
- タイ王国シリトーン王女殿下も訪れ、大々的にセレモニーが開催された。
- フィールドワークなども含め全てオンラインで行い、充実したプログラムになった

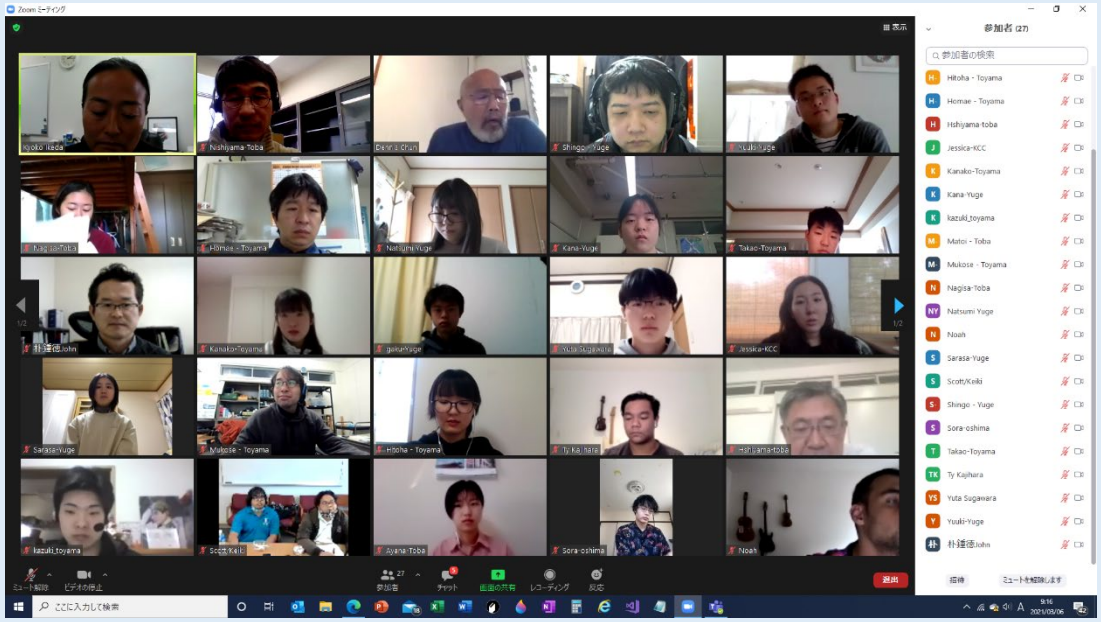
ミーティング風景

オンラインでのプレゼン後

(2)KCC国際インターンシップ

ハワイのKCC(カウアイ・コミュニティー・カレッジ)の協力のもと、ハワイの歴史や文化、伝統的航海術の講義を受講し、ハワイの学生とも交流を深めることもできる商船系高専が共同で行うプログラム。

- 昨年度は中止になったが、今年度は初めてオンラインで開催することになった。鳥羽からは3名の学生が参加し、合計14名の参加者になった。
- ZOOM　MEETINGを活用し、小グループでのディスカッションも行った。



ZOOM　MEETINGの風景

(3)トビタテ！留学JAPAN

「トビタテ！留学JAPAN」は、平成25年に文部科学省を中心として始まった官民協働の海外留学支援制度

- 平成27年度に地域人材コース【三重県】に1名が合格した。
  シアトル（9月15日～翌年2月29日）

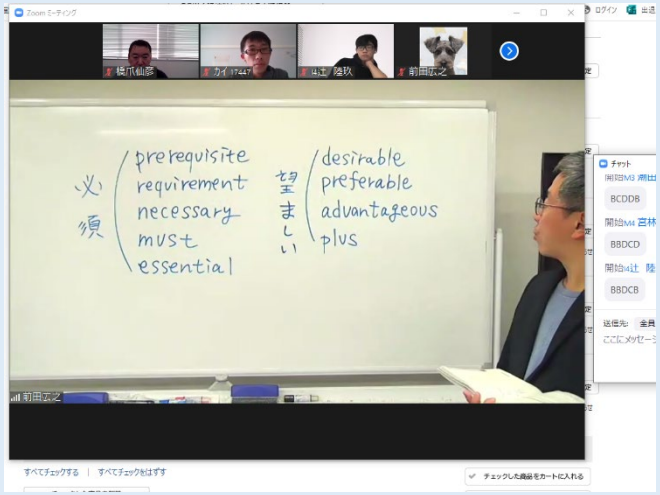
- 平成29年度からは高校生コース、平成30年度には大学生コースにも合格し、実績を重ねてきている。

- 今年度も高校生コースに2名の学生が応募し、一次選考の結果を待っている。

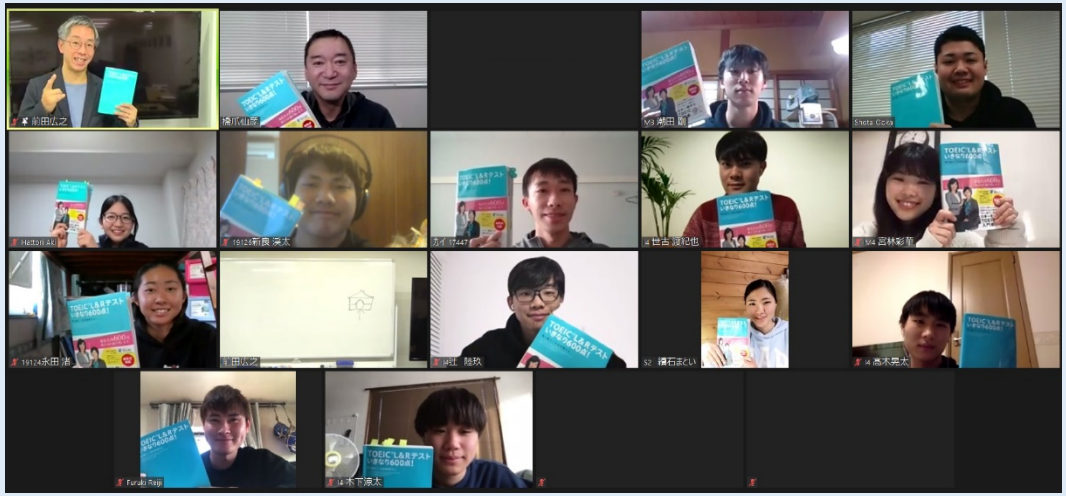
英語力強化事業

（1）TOEIC特別対策講座

平成29年度から、外部講師を依頼して、TOEIC集中講座を開催している。
授業のない3連休を利用した集中講義で、学生及び教職員が受講する。
今年度は1月9日～11日にオンラインで開催され、約15名が参加した。



受講中の様子



３日間の講座を乗り切った様子

（2）TOEIC　IP、実用英検、技術英検（旧　工業英検）

- TOEIC　IP、TOEIC　IP　ONLINEについては、定期的に校内やオンラインで開催している。
- 実用英検については、一次試験の準会場として本校で受験できる。
- 技術英検については、本校が三重県の本会場となっている。

令和３年度国際交流の予定

No	事業名	担当	派遣先	対象	実施日	募集人数（予定）	参加費用（予定）	備考
1	MELキャンプ	鳥羽	シンガポール	全学科 1年生以上	3月	8名程度	約30万	引率教員2名
2	SMA 鳥羽丸トレーニング	鳥羽	鳥羽商船	SMA学生 本校学生	9月	SMA15名程度 本校学生15名程度	―	全室員で対応
3	Toba SP Project	鳥羽	鳥羽商船	SP学生 本校学生	3月	SP学生3名	―	I科教員で対応
4	KCC 国際インターンシップ	富山	アメリカ合衆国 ハワイ州カウアイ島	商船学科 3年生以上	3月	5高専で15名程度	約40万	引率教員 2～3名
5	高専生のための英語キャンプ	熊本	シンガポール	全学科 1年生以上	8月	全国で20名	約20万	引率教員 0～2名
6	スタディキャンプ　in NZ	八戸	ニュージーランド	3年生	9月	全国で30名	約35万	引率教員1名
7	アメリカ・オハイオ州立大学派遣	鈴鹿	アメリカ合衆国 オハイオ州	全学科 4、5年生 専攻科生	9月		約30万	

教育の質の向上

学科改組

情報機械システム工学科

現在1年生，２年生が在籍

75

第4次産業革命を促進するプログラマ育成と地域活性モデル

農林水産・観光業が盛んな三重県の抱える課題をPBLで解決し、
地域貢献はもちろん、学生の技術向上を図り、知の拠点となる。

- 入学半年間の集中したプログラミング教育で論理的思考能力育成
- 機械・電気電子・情報・海事分野、将来活躍する分野での適用
- 学生の特性に合わせた多様な「Specialist・Generalist」教育システム

クラウド活用

害獣駆除　養殖支援　観光支援　海技活用

IoT　クラウド　AI
スマホアプリ　機械学習
3D CAD　3Dプリンタ
シミュレーション　組込みシステム

機械　電気電子　情報　海事

プログラミング教育

プログラミングを基盤としたカリキュラム

第４次産業革命
促進人材

地域産業
農林水産業
サービス業

企業など
製造業
情報通信業

協働PT

高専
社会実践体験
問題解決力

地域住民
理工系人材発掘
課題発見

観光応用

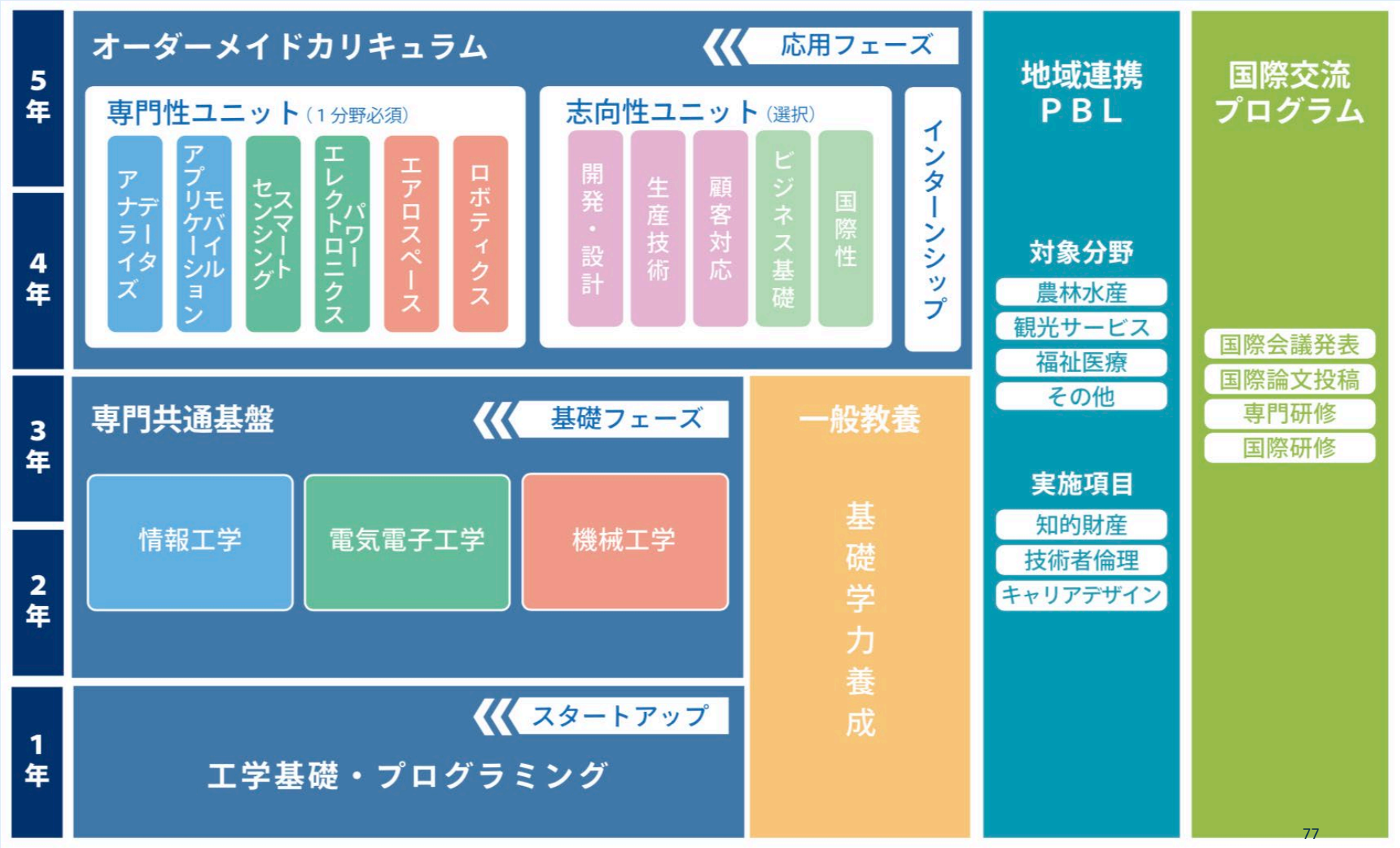
農業応用

地域に根ざした高専が御用聞きを担う
課題発見、自治体・企業連携のPBL実践

水産業応用

海運業応用

情報機械システム工学科・カリキュラム



オーダメイド型カリキュラム

専門性ユニット

技術者としての専門分野の学習

データアナライズ	ビッグデータ解析、人工知能による認識処理などを実装できる技術者を育成します。
モバイルアプリケーション	スマートフォンやタブレット端末による各種アプリケーションを開発できる技術者を育成します。
スマートセンシング	身の回りにある情報を定量的に計測し、分析・可視化を行う技術者を育成します。
パワーエレクトロニクス	住宅や事務所向けの電力供給・管理システムの整備、保守を担う技術者を育成します。
エアロスペース	航空宇宙産業の製造現場で活躍するため、生産現場の管理運営能力を持つ技術者を育成します。
ロボティクス	生産を担うロボットの開発、設計、製作、制御、整備ができる技術者を育成します。

志向性ユニット

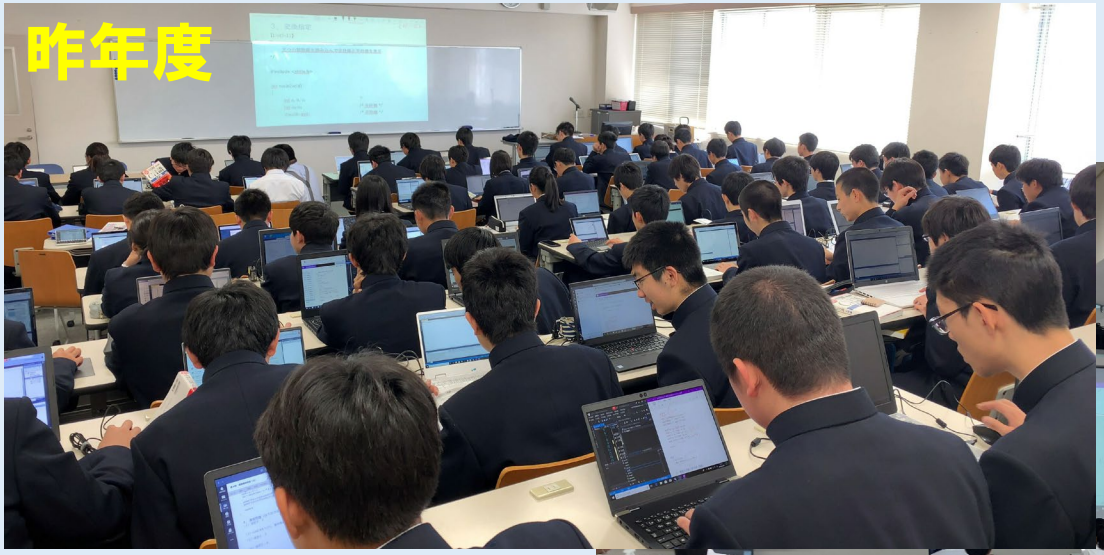
職種選択のための学習

開発・設計	開発・設計業務に携わるために必要な高度な理数系の知識を修得します。
生産技術	生産現場の取りまとめとして幅広く技術を理解し、各部門の要望をまとめる調整能力を培います。
顧客対応	電気機器やビルシステムの導入・保守運用をするための顧客との交渉力を養います。
ビジネス基礎	ビジネス的な視点を持つ技術者として活躍するために、経営・管理などを学びます。
国際性	グローバルな視野を持ち、英語を中心とした語学力の向上を進めます。

遠隔授業の実施

ペン入力端末も活用した遠隔授業を４月中旬から実施

分散授業への対応



昨年度は80名同時に1教室で授業実施

今年度は3教室に分けて学内での分散するなど
3蜜を避けた授業実施

応募者の推移

年度	平成30年度	令和2年度	令和3年度
特別推薦	31（9）	42（9）	39（14）
一般推薦	40（2）	38（6）	43（6）
学力	107（17）	82（11）	84（12）

（定員80名）

次世代の海洋人材の育成に関する事業

１　海事海洋分野の人材育成事業の実施

２　海事・海洋分野の魅力を伝える広報活動の実施

国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する協議会

5商船高専で連携し、「1．海洋人材の育成」と「2．海洋の魅力を伝える広報活動」にかかる事業に取り組んでいる。

次世代の海洋人材の育成に関する事業
（1．海事・海洋分野の人材育成事業の実施）

国立高専における
次世代の海洋人材の育成

海事・海洋分野の人材育成事業　【活動報告・活動計画】

海運業界のニーズに将来にわたって応え続けることのできる次世代の人材を育成するための教育システムを，産学で連携して検討し開発してきている。令和２年度も引き続きその推進と拡充に取り組んでいるが，**目下のコロナ禍による社会情勢と学校環境の激変**をうけ，新しい様式での人材育成に関する議論や試行にも取り組み始めている。

海事人材のグローバル化に対応した教育プログラムの開発

- SMCP（Standard Maritime Communication Phrase）をベースとした**実務英語教育**の高度化について検討，機関士の実務のための英語教材の新規開発についても検討
- ハワイやシンガポールの海事系教育機関や海洋系団体と連携し，**国際交流プログラム**の新しい様式での継続や新規開発について議論

海事・海洋分野の技術革新に対応した教材の開発

- 遠隔授業においても有用な教科書を継続的に開発中，「**海技士のための海洋学**」（仮題）の開発を開始
- 遠隔授業と対面授業の双方において効果的な**eラーニング教材**の拡充や**BYOD**（Bring Your Own Device）の幅広い活用について議論
- **遠隔授業の教育的効果**について調査し議論

現役の海事・海洋人材によるキャリア教育の実施

- 連携協力機関の講師による**海事キャリア教育セミナー**を５校で随時開催（広島:11/13，大島:11/20，弓削:12/3，鳥羽:12/11，富山:12/14）
- **OB**や**OG**が**自身の経験を伝える講演会**や，学生が**小中学生**に海事・海洋の魅力を伝える機会を，随時実施
- **ウィズコロナ**時代や**アフターコロナ**時代におけるキャリア教育のありかたについて議論

- ５校の委員による**企画委員会**（6/5, 7/10, 9/11, 11/6, 11/19, 12月, 1月, 2月）と，５校と５連携機関の委員による**運営委員会**（11/27, 2月）を，テレビ会議システムを利用して開催，また各サブプロジェクト毎の委員会も随時開催

海運業界に関する高専教員の理解を深めるFDの実施

- 高専教員が港湾での物流に関する業務を現地で調査し，海運業界の関係者と意見を交換する研修会を，1月頃に実施予定

- **第５回高専・海事教育フォーラム**を**オンライン**で開催
  - 令和3年2月5日(金) 13:30～16:10 Microsoft TeamsによるWeb会議
  - **Webサイト**を通じて事業の成果を社会に発信中，３月には年次報告書を掲載予定

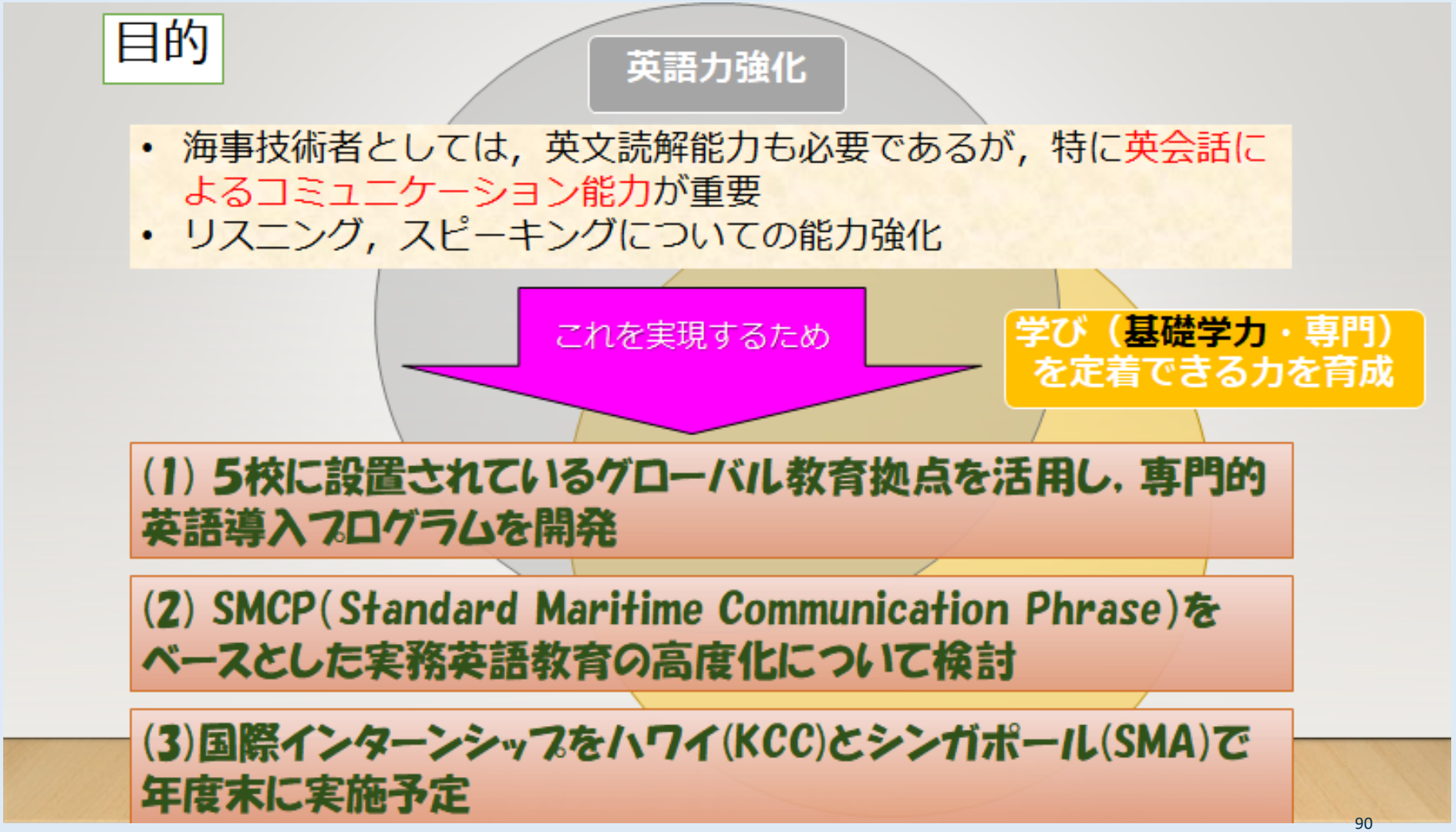
今後に向けて

- 遠隔授業と対面授業および実験実習や乗船実習を効果的に結び付けた**新しい様式の海事教育システム**について検討
- ウィズコロナ時代やアフターコロナ時代に適合した**新しい様式の国際交流プログラム**を開発し展開
- 遠隔授業においても対面授業においても教育的効果の高い**eラーニング教材**の開発と活用を加速度的に拡大
- **海事教育機関と海運業界**との間のコミュニケーションと相互理解を深化させ**強靭なキャリア教育**を推進

主幹校：富山高専

グローバル力向上プログラムでの取り組み

「1. 海洋人材の育成」事業の中で、鳥羽商船が主担当のサブプロジェクト



グローバル教育教材のオンライン化を検討

実務英語教育教材の検討

国際インターンシップ（オンライン）の計画

国際インターンシップ

ハワイ大学KCC (Kauai Community College)との
国際交流プログラム（オンライン）2021年春季 実施要項

目的
カウアイ島を含むハワイ諸島の文化や歴史について学び，異文化交流や英語学習への意欲を高める
内容
- ハワイの生活や伝統航海術などに関するビデオ（英語音声＋英語字幕）の視聴
- ビデオの内容に関するオンラインでの対話（英会話）
- ハワイの大学生とのオンラインでの交流（英会話） など

日程
以下の日時（いずれも日本時間での表記）に実施
- 第1回　2月20日(土)　午前09:00～10:30
- 第2回　2月27日(土)　午前09:00～10:30
- 第3回　3月6日(土)　午前09:00～10:30
- 第4回　3月13日(土)　午前09:00～10:30

参加予定者
富山高専・鳥羽商船高専・大島商船高専・弓削商船高専の商船学科の１～３年生
15名が参加予定

今年度は新型コロナウイルスの影響もありオンラインでの取組を検討

次世代の海洋人材の育成に関する事業
（２．海事・海洋分野の魅力を伝える広報活動の実施）

国立高専における
次世代の海洋人材の育成

海事・海洋の魅力を伝える広報活動【活動報告・活動計画】

商船系高専と全国各地の工業高専，海事系大学，海事団体などが連携した海事・海洋の教育イベントを行い，**広い年齢層にわたって海洋に触れる機会**を設け，**将来日本の海洋産業を支える人材の発掘と確保**を目指した広報活動を展開中である。

【実施体制】

連携の深化を図り全国的な広報活動を展開

【実施目的】

将来日本を支える海洋人材の発掘と確保

【実施事業】

ICTを活用した海事・海洋イベント　オンライン開催

・次世代の海洋人材を担うであろう小中学生及び一般参加者に対し，**海事・海洋への関心を高めるためのイベントをオンライン上で実施（１～２月（予定）：オンラインで開催，参加者：５００名）**
・**海事系関連団体と連携した広報活動**によりイベントの開催について周知を行い，小中学生とその保護者等を対象に，次世代の海洋人材発掘を行う。

海事系関連団体などと連携

海事・海洋に関連した教育イベント　学校周辺を中心に開催

産業界等と連携したイベントを開催し，海洋に関する理解を促進

・小中学生及び保護者などを対象とした，「海洋関係の問題解決型実習」と題した乗船実習，練習船の船内見学などの**練習船を活用した海洋体験**を実施 **（計３件実施，参加者２７９名）**
・**オープンキャンパス行事の一環として**，近隣海域の体験航海等を実施したほか，練習船の入出港動画などのオンライン配信を行い，海事・海洋への関心を高める広報活動を展開 **（計４件実施，参加者５３９名）**
・**近隣地域の山間部や商店街などにおいて**，小中学生を対象としたロープワークなどの**海事教室などを実施し**，海事・海洋の魅力を伝える広報活動を展開 **（計３件実施，参加者５９０名）**

地域の中学校や教育委員会などと連携

地域の自治体や産業界などと連携

今後に向けて

●新学習指導要領に対応した，**新たな教育イベント用教材**を開発し，出前授業等を実施
●**海洋基本計画などの我が国の政府方針に沿った**，教育イベントの企画
●**国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する協議会の連携協力機関のご協力を得て**，更なる海洋人材の発掘と確保のための事業の拡充
●これまで実施してきた地域での広報活動を継続実施するとともに，**新たな地域を開拓し，広域的な広報活動を展開**

主幹校：広島商船

SHIP SCHOOL　～ストリートビューで船内をリモート探検しよう！～　開催中です！

新型コロナウイルスの影響により乗船体験でのPRが難しい

小中学生及び一般の方に海事・海洋の魅力を知ってもらうためのオンラインイベントを開催

5商船系高専の練習船内をストリートビューでリモート探検して、クイズに挑戦しよう！

https://www.hiroshima-cmt.ac.jp/ship-school.html

第５回高専・海事教育フォーラム

令和３年2月5日（金）オンライン開催

出席者：海事団体、海運企業など150名

（鳥羽会場の様子）

（他高専会場の様子）

他機関との連携

KDDIグループおよび県内機関との連携

令和2年11月17日
KDDI、KDDI総合研究所と地域DX推進と人財育成に関する包括連携協定を締結

伊勢新聞

令和2年(2020年)11月18日　水曜日　第49404号

地域DX推進へ連携

県内初、鳥羽商船とKDDI

5G基地局設置

包括的連携に関する協定 締結式

協定書を手にする（左から）林校長、松野理事、中村所長
＝鳥羽市の鳥羽商船高専で

【鳥羽】鳥羽商船高専（鳥羽市池上町）と通信大手KDDI（東京都千代田区）、同社研究機関のKDDI総合研究所（埼玉県ふじみ野市）は十七日、同校敷地内に5G基地局を設置し、情報通信技術（ICT）を活用した地域のデジタルトランスフォーメーション（DX）推進や人材育成を手がける包括的連携協定を締結した。県内では初めてで、全国高専としては四例目という。（小林哲也）

ICTによる地域課題の解決をテーマに、鳥羽商船高専が抱える水産などの学術研究、インフラが持つ先端技術をそれぞれの強みとし、県内でのDX推進や人材を育成する。

具体的な取り組みとして、同校敷地内に5G基地局を設置し、高精細・低遅延の映像配信環境を整備することで、提携する他地域の高専等教育機関との実習や授業の共有、離島の小中

新た

県内

県は十七日、二十代の男女七人が新ナウイルスに感染表した。県立四日市（四日市市日永東）制を担当する教員

伊勢新聞

発行所：伊勢新聞社
〒514-0831　津市本町34番6号
☎ 059-224-0003
FAX059-226-3554
www.isenp.co.jp
©伊勢新聞社 2020

15面 伊勢・来月13日に日本太鼓祭 13面 津ボート

中部電力グループ
届ける、
を支える。
C-Tech
株式会社シーテック

令和3年3月16日
三重大学生物資源学科、三重県水産研究所、鳥羽市、KDDI、KDDI総合研究所と海洋DXに関する包括連携協定を締結

和歌山高専との連携

紀伊半島×海洋×KOSEN プロジェクト
ー 海洋CUBIC(K³)プロジェクト ー

海を未来に引き継ぐ
紀伊半島の海　連携事業

紀伊半島　三重県

鳥羽商船高専

鳥羽商船高専の練習船
「鳥羽丸」

和歌山高専ー鳥羽商船高専
連携予定：
和歌山県，海洋研究開発機構，東京海洋大学

日高港

和歌山県

和歌山高専

海との関係性「体験」スコア
47 都道府県中　第3位
（海と日本意識調査結果：2017日本財団）

太平洋

海の大課題
海の異常気象、大規模災害
災害時連携

海の課題

- 海の資源 再生可能エネルギー
- 海の資源 海底資源エネルギー
- 海の資源・海の異常 環境整備・保全・修復
- 海の資源 海洋生物資源

地域との連携・貢献

県内機関との連携

三重県との連携

- 三重県工業研究所との連携協力に関する協定書調印（H30年1月16日）
  三重県工業研究所海洋観測ブイの共同開発
- 三重県を代表機関とする「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」参画
- 三重県農林水産部からの受託研究
  AI・ICT技術やドローンによる藻場の分布や変化等の情報を「見える化」するシステムの開発
  AI・ICT技術の導入による魚類養殖用疾病早期発見システムの開発
- みえスマート水産業研究会　会長

鳥羽市との連携

- 鳥羽市との包括協定締結（H30年3月28日）
  ゴミ分別サイト作成、農業向け灌水システム構築支援
  獣害檻遠隔監視・制御システム導入支援

志摩市との連携

- 沿岸域海況ドローン調査を実施

COC+事業　*地域イノベーションを推進する三重創生ファンタジスタの養成*

学科等	科目名	種別	学年	単位数	認定条件	開講
電子機械工学科	特別講義	学修	4	1	県内企業からの講師派遣があること。	後期(集中)
	校外実習	学修	4	1	県内企業のインターンシップであること。	前期
	プレゼンテーション演習	履修	4	1	地域に関わる調査結果のプレゼンテーションであること。	後期
	工学実験Ⅲ	履修	5	3	地域に関わる実験テーマであること。	通年
	卒業研究	履修	5	8	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	通年
制御情報工学科	制御情報工学特別講義1	学修	4	1	県内医療系高等教育機関ないし県内医療機関からの講師派遣があること。	後期(集中)
	校外実習	学修	4	1	県内企業のインターンシップであること。	前期
	工学実験3	履修	4	3	三重県の抱えている課題等について取り上げ、それを実験テーマとすること。	通年
	組み込みシステム工学	学修	5	2	県内企業との共同研究または地域に関わるテーマが含まれていること。	前期
	情報通信	学修	5	2	最新のクラウド活用事例などをテーマに、県内企業からの講師派遣があること。	後期
	卒業研究	履修	5	8	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	通年
生産システム工学専攻	環境化学	学修	2	2	県内の環境問題を取り上げていること。	前期
	生産システム工学実験	学修	1,2	各2	三重県に関する題材を取り上げていること。	通年
	生産システム工学特別実習	学修	1	2	県内企業のインターンシップであること。	前期(集中)
	生産システム工学特別演習	学修	1,2	各1	地域をテーマにしたものであること。	1年:後期 2年:前期
	生産システム工学特別研究Ⅰ	学修	1	5	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	通年
	生産システム工学特別研究Ⅱ	学修	2	5	県内企業との共同研究または地域に関わる研究であること。	通年

地域貢献

みえアカデミックセミナーで講演

今年度の講演タイトルは「不思議な確率の世界」

公開講座

2020年度は、新型コロナウイルスの影響によりイベント中止

出前授業

・県内北中部　　中学校　2件
・県内伊勢志摩地区　中学校　1件

NPO法人故郷の海を愛する会

2020年度は、新型コロナウイルスの影響によりイベント中止

学生支援・生活支援

学生相談室

1. 学生相談室の体制

- 学生相談室長
- 学生相談室員4名（うち1名が副室長）
- 看護師1名
- 相談員（非常勤）1名
- 臨床心理士2名（1名は週1回、1名は月1回）
- 精神科医1名（月1回）

2. 令和2年度相談件数(2/28時点)

相談数　のべ231件　（うち、精神科医・臨床心理士との面談 130件）

注1) 教職員からの相談も含む
注2) メンタルヘルス調査による呼び出し面談数は含まない

3. メンタルヘルス調査の実施

11月に全学生に対して「高専生活に関するアンケート」をオンライン(forms)で実施した。結果を分析し、要支援と学生相談室が判断した学生を12月中に呼び出して面談した。必要に応じて、精神科医・臨床心理士とのカウンセリングにつなげた。（参考：呼び出し学生70名、うち面談実施26名）

4. メンタルヘルスに関連する授業の実施

i. 本校非常勤カウンセラーによる遠隔授業の実施

- 6月24日 「充実した学生生活のために 自分の考え方のくせを知る方法」(1年生)
- 1月27日 「死にたいと思う時、死にたいと思う人が近くにいる時の対応」(1年生)

ii. 外部講師との連携（協力：一般教育科 中平教員）

- 10月14日 中谷先生「HAPPYに生きるために ～いま知りたい、性の話～」(1年生)
- 11月18日 鳥羽市健康福祉課子育て支援室「デートDV防止啓発講座」(1年生)

5. 啓発活動

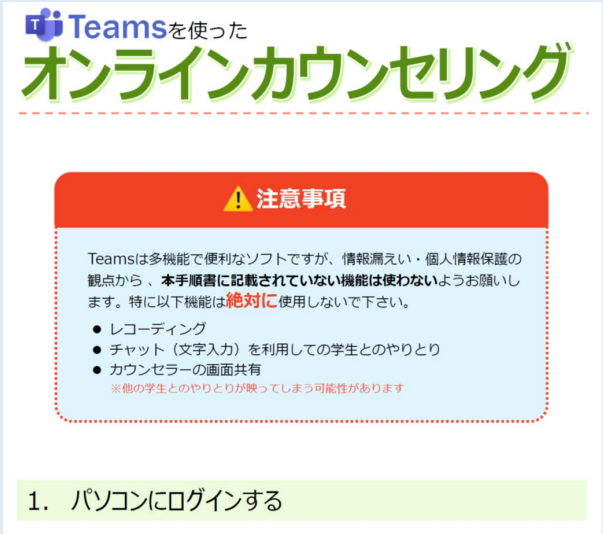
i. 啓発カードは配布せず、代替としてTeams全校集会で情報発信

ii. いじめ防止のためのポスターの作成と掲示、およびチラシの配布

iii. 学生相談室だよりの発行（計4回）

6. (新規) Teamsによるオンラインカウンセリングの導入

- 総合情報センターとの連携事業
  - ✓準備期間：令和2年4月～6月
  - ✓令和2年6月より運用開始
  - ✓マニュアル等を整備(右記)
  - ✓研修の実施



教務主事室による支援

学生指導

教務主事主導

まなびの継続

新型コロナウィルス感染防止のため、今年度の授業は対面授業から以下の形式に切り替えた。

1．2020年度前期（4月～8月）、本科の授業は全て遠隔

・遠隔授業用の時間割を作成し、それに従い授業を行なった。（学年共通科目は3クラス120名の合同授業）
・PC・タブレット（モバイルルーター含む）の貸し出し
・Microsoft Teamsの会議システムを利用した遠隔授業
・授業は全て録画（通信状態が悪い、兄弟でPC共有している等、オンタイムで視聴できない学生への対応）し後から授業を受けられるようにした。
・授業中は学生の映像（顔）は映さず（データダイエット）
・課題提出（期限は当日でない）を出席確認とした。
・出席の確認は、各回・各科目で課題を提出（課題1回提出で4点、15回×4点＝60点）。
・前期成績は基本的には（課題提出60点＋期末試験40点）となる。
・実習等（ECDIS、校内練習船実習等）の実施できない科目は後期、または次学年へ変更（特例の進級内規を制定）

2. 後期は、対面授業を12月まで実施、1月から再び遠隔授業

・対面授業の実施方法として、遠隔授業と同様に録画し、体調不良で欠席した場合でも授業を受けられるようにした。出席している学生に対してはPC画面をプロジェクターに写し授業を進めた。
・黒板を使うことを推奨せず、OneNoteにペン入力することで対応した。
・来日できない留学生への対応（教室での授業をTeamsにて配信）
・始業時間をずらした分散登校
・土曜日を特別補講日とし、前期実施できなかった実習を実施
・校内練習船実習への対応
　✧校内練習船実習は土曜日・日曜日に実施（乗組員は金曜休み）
　✧宿泊を伴う練習船実習は中止（すべて日帰り航海）
　✧船内での密を避けるためクラスを半数に分け交互に実習（コロナ対応乗船人数）
　✧船内での調理を中止し、昼食を弁当に変更
　✧船内消毒・換気の徹底

実施事項など

1.出欠席の確認

従来行ってきたOffice365を利用した「出席確認サイト」は、新型コロナウィルス感染防止のため対面授業ができず、運用できなかった。前期は遠隔授業に切り替わり、授業はTeamsで行い、出欠は確認Formsを利用して行った。

2.保護者懇談会（前後期各1回）

保護者懇談会についても、Teamsもしくは電話で行った。そのため、資料は事前に各家庭へ郵送した。

3.3主事室連絡会（毎週月曜日）

教務主事室、学生主事室、寮務主事室及び学生課の間の情報共有、意見交換を目的に実施している。学生問題についての協議も行った

4.全校集会での講話（前後期の始業式と終業式）

校長、教務主事、学生主事による講話を行っているが、この集会についても事前に録画し各HRでそのビデオを見る形式とした。教務主事は学修推進支援室、学生相談室などが利用できることを周知している。

教務室主催の研修とFD

遠隔授業・緊急対策チームによる授業支援

円滑かつ有効な遠隔授業が行えるよう、【遠隔授業・緊急支援チーム】を結成し、遠隔授業方法の研修及び、遠隔授業で生じる様々な問題の解決に対応した。

（1）遠隔授業・緊急支援チームの概要

チームは教務主事室、教務係、総合情報センター、各学科から2名で構成する。教員・学生からの意見や問題点をチームで共有し対応を行う。解決した問題や意見はとりまとめ、フィードバックを行った。

（2）遠隔授業方法の研修

「遠隔授業講習会（4月、全教員対象）」

Teamsの使用方法及び授業方法を、全教員対象に実習形式で講習した。

「後期授業の実践方法に関する講習会（9月 、全教員対象）」

後期授業はTeamsを使用した対面授業を行うため、その実践方法に関する講習会を行った。

（3）全校集会チームの作成

学生の連絡や隔週の時間割、学生からの欠席等の連絡リンク等を一か所にまとめ、学生との情報共有を円滑に行った。

教員FD

（1）第1回教員FD「遠隔授業の問題点の抽出と解決」

遠隔授業における問題点（前期の反省点）を抽出し、それに対する解決すべき課題をピックアップ、解決方法を提案することを目的とし、今後の遠隔授業方法を検討した。

本FDでは全教員から提出された問題点と解決すべき課題に対して、各学科から選出された教員が、2班に分かれ解決案を検討した。

その結果、遠隔授業の問題点は、授業の進め方、課題の提出の仕方、成績の付け方が主であり、教員全員が統一した方法にて遠隔授業が行われることが必要であることが分かった。本FDでの提案を受け、後期授業の遠隔授業を基にした面接授業を録画方法や使用ソフトを統一し実施している。

教員FD

（2）第2回教員FD「LGBT視点から職場と社会を変える」

LGBTについて基本的な理解と知識を深めることを目的とし、今後の学生指導の参考にするとともに、社会におけるダイバーシティの必要性について研修を行った。

講師は「 NPO法人虹色ダイバーシティ理事長」 村木真紀先生で、講演の録画を視聴の形式で行った。各参加者は視聴後、講演内容についてのアンケート及び内容確認を行った。

本FDには61名（教員45名、職員16名）の教職員が参加し、アンケート及び内容確認問題より参加者の、LGBTについて基本的な理解ができ、知識が深まったことが分かった。

学生主事室による支援

学校長：
「新しい生活習慣、みんながみんなを守る」

学生主事室の新たな取り組み

令和2年度　高専高度化推進経費・学校改善事業（テーマ：教育の質保証定着に向けた取組）

ハイブリッド・マルチ・リレイションシップ型次世代リーダーシップ養成プログラムの開発実践

目的 背景	本事業は，ネットワーク環境上に，場所・距離・時間に依存しないグループワーク環境を構築し，通学生，寮生，留学生に隔たりなく，参加者の多様性がメリットとなる次世代リーダーストレーニングプログラムの開発および実践を目的とする.
取組 内容	本事業では，プログラムを直接・遠隔面接の混在型のハイブリッド形式で実施し，場所にとらわれることなくグループワークに参加可能な環境を構築する．学生主事，寮務主事，男女共同参画室長，スクルカウンセラーが一体となり再利用可能なプログラムを開発した.

プログラムの特徴は，リーダーとしての考え方の柔軟性を培うことができるように，それぞれの人の考え方の違いを知り，ネットワークを介したコミュニケーションの難しさを，ネットワーク上のグループワークにより体験することにある.
部・同好会，学生会，寮生会のリーダー候補の学生が，通学生は自宅から，寮生はマルチメディア教室から，また講師教職員は会議室からネットワークを介して参加した.

会議室(講師教職員)

発展
応用

海学祭のイベント配信風景

- 講演会のネット配信
- 海学祭(高専祭)のネット配信
- Web校内就職支援セミナ
  (102社参加)

成果 効果	ネットワーク上のグループワークに対応したリーダーストレーニングプログラムの開発，およびネットワーク配信環境の構築(Teams，Teams+YouTube Live，Zoom)を行った.

鳥羽商船高専、リーダーストレーニング開催

鳥羽商船高専では去る9月26日に令和2年度リーダーストレーニングを、マイクロソフトのＴｅａｍｓを用いたインターネットによる遠隔会議方式で開催した。今年のリーダーストレーニングは、高専高度化推進経費事業の支援を受け、学生主事室、寮務主事室、男女共同参画室が共同で、ネットワーク環境を含む学生会諸活動でのコミュニケーション力やリーダーシップ力の育成を目的として企画・運営した。

部・同好会、学生会、寮生会のリーダー候補の学生27名が参加し、通学生は自宅から、寮生は校内のマルチメディア教室から、また講師教職員7名は会議室からネットワークを介して参加した。

今年のプログラムの特徴は、リーダーとしての考え方の柔軟性を培うことができるように、それぞれの人の考え方の違いを知り、ネットワークを介したコミュニケーションの難しさを、ネットワーク上でのグループワークにより体験することにある。同校スクールカウンセラーの宗田美名子氏の協力を得て、開発・実施した。

グループワークで、参加者の顔はＷｅｂカメラを介して見ることはできるが、実際の会議とは異なり、当初は戸惑う状況も見受けられたが、学生の対応力の速さに驚かされたという。

新型コロナウイルス感染症により、社会は大きく変化し、遠隔会議開催が一般的になっている。就職活動でも、遠隔セミナー開催や、遠隔面接も特別なことではない。遠隔会議などは容易に参加できる一方で、情報量が少ない状況によるコミュニケーションの難しさもある。思い違いによるトラブルも発生しかねない。学生には、リーダーストレーニングなどの行事を有効に活用し、新しい社会を生き抜く活力を身に付けることが期待される。

講師の宗田氏（中央）

文教速報，p16，No.8903（R2/10/21）

学生指導１

全学生が安心して学べる学び舎の構築と学生の将来の希望実現を見据えた進路指導の実践

１．生活指導

社会人基礎力の育成、学生の安全確保

(1) 登校指導

池の浦駅における登校指導（地域住民の皆様との情報交換）

(2) 安全教育

自転車安全講習会（校内、Web化，Webテスト）
車両通学安全講習会（校内、 Web化，Webテスト）
車両通学安全講習会（南部自動車学校、年3回）

(3) 一般基礎教育との連携

規範意識の育成、いじめ防止

学生指導２

全学生が安心して学べる学び舎の構築と学生の将来の希望実現を見据えた進路指導の実践

２．学生会活動支援

学生の主体的・自律的活動の支援

(1) 学生会運営支援

総会、評議会、総務委員会、部会等の企画・運営支援（Web化）

(2) 部・同好会支援

新型コロナウイルス感染症感染防止

換気設備，消毒環境の整備、活動マニュアル整備、
オンライン講習会、活動記録アプリ作成・運営

(3) 行事支援

海学祭の運営・企画支援（Web配信）

(4) リーダー教育

リーダーストレーニング（高専高度化推進経費・学校改善事業）

学生会寮生会役員、部・同好会リーダー、寮生会リーダー

学生指導３

全学生が安心して学べる学び舎の構築と学生の将来の希望実現を見据えた進路指導の実践

３．地域連携

(1) 地域教育機関との連携

三重県教育委員会・南勢地区生徒指導連絡協議会との情報交換
鳥羽市・伊勢市の巡回補導

(2) 警察署との連携

学校警察連絡制度締結(R3年1月28日、防犯に関わる情報交換)
講演会「遠隔授業世代のSNSに潜む危険と生活安全」R3年8月5日

４．教員支援・高専連携

(1) 厚生補導主事会議（東海北陸地区高専、商船高専）

厚生補導支援に関わる情報交換

＝鳥羽商船高専＝

学校警察連絡制度を締結

鳥羽商船高専は1月28日、鳥羽警察署にて「学校警察連絡制度」協定を締結した。

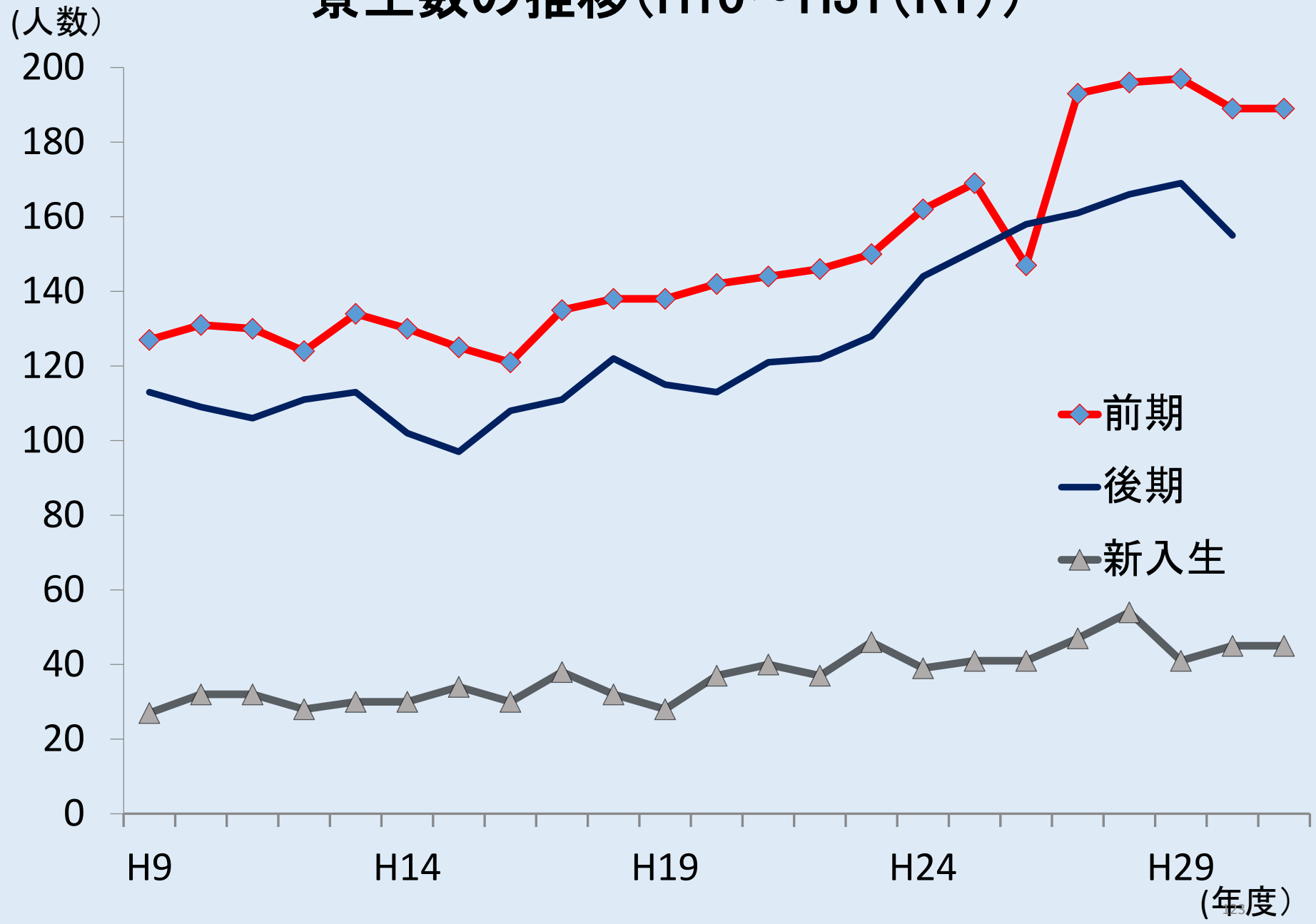
この協定は、学生が自分自身を見失わず、自分の将来に夢を持ち、たくましく生きていけるよう、非行や問題行動の防止及び犯罪や事故の被害防止に関し、同校と鳥羽警察署が理解を深め連携を密にして対応することにより、学生の健全育成を図ることを目的としている。

（左から）野呂鳥羽警察署長、林校長

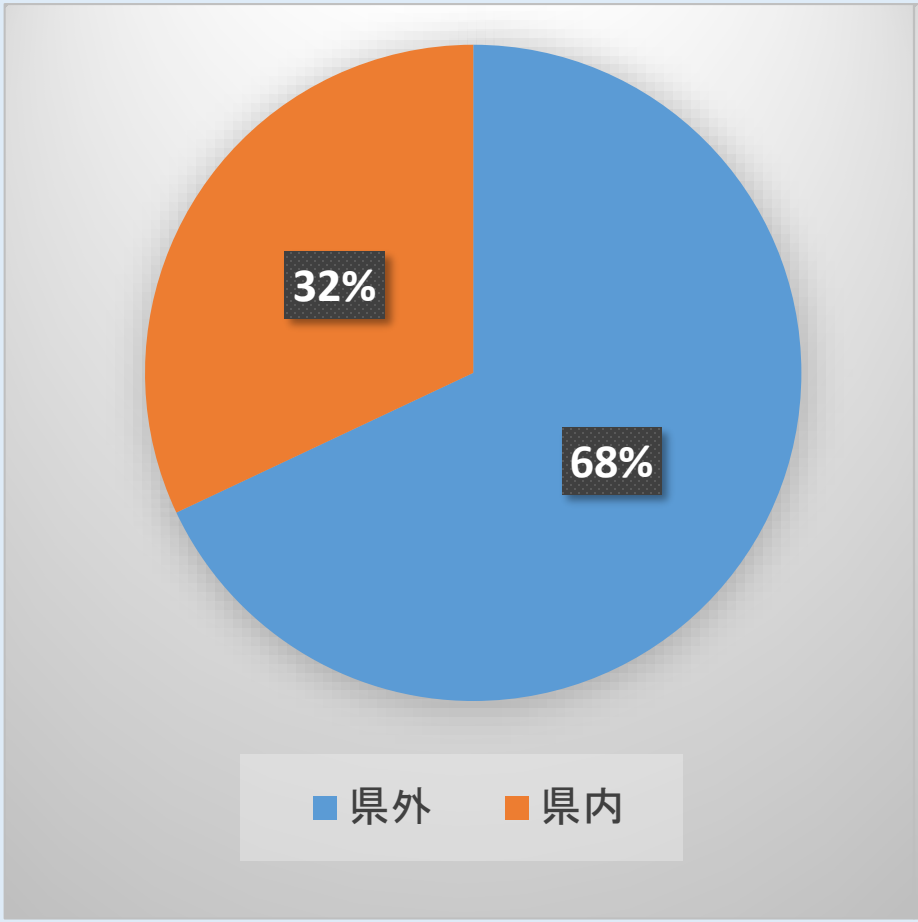
文教ニュース，p34， No.2635（R3/2/81）

寮務主事室による支援

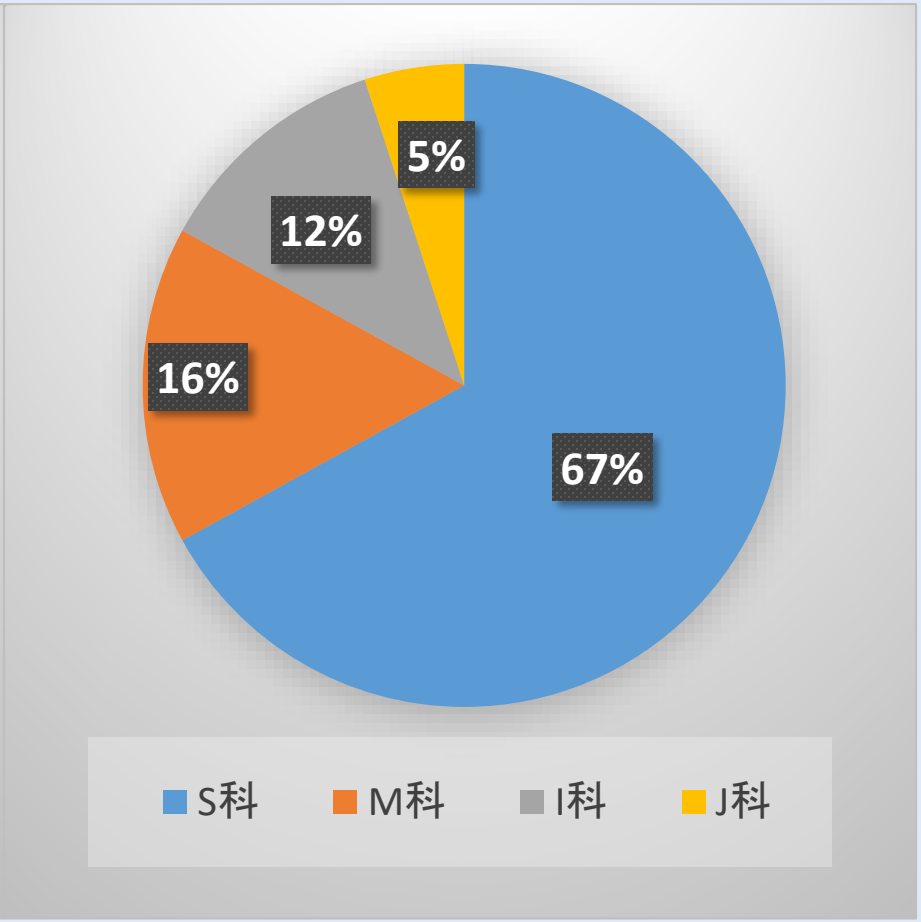
寮生数の推移（H10～H31（R1））



寮生出身地及び学科別状況（R1）

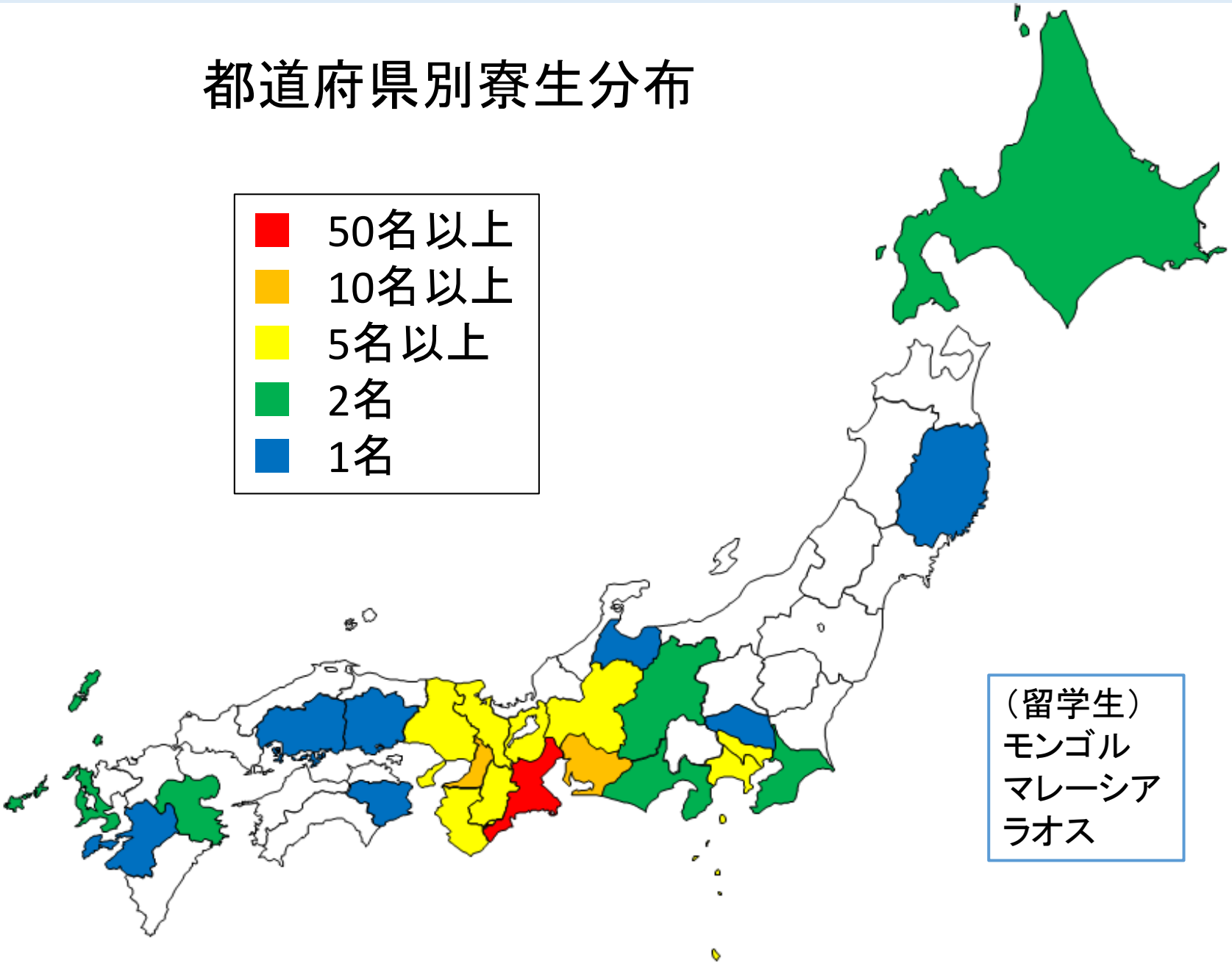


県内外別（全寮生）



学科別（全寮生）

都道府県別寮生分布



諸問題に対する改善への取り組み

寮生との意見交換

寮生役員・世話係学生とのミーティング（各週1回）
全寮集会（月1~2回程度）個別学生との懇談（随時）

学校との意見交換

寮務主事室，寮事務室での打合せ（毎朝）
三主事連絡会（週1回），寮務委員会（年数回）
校長・副校長と寮生会役員との懇談会(年2回）

高専間での意見交換

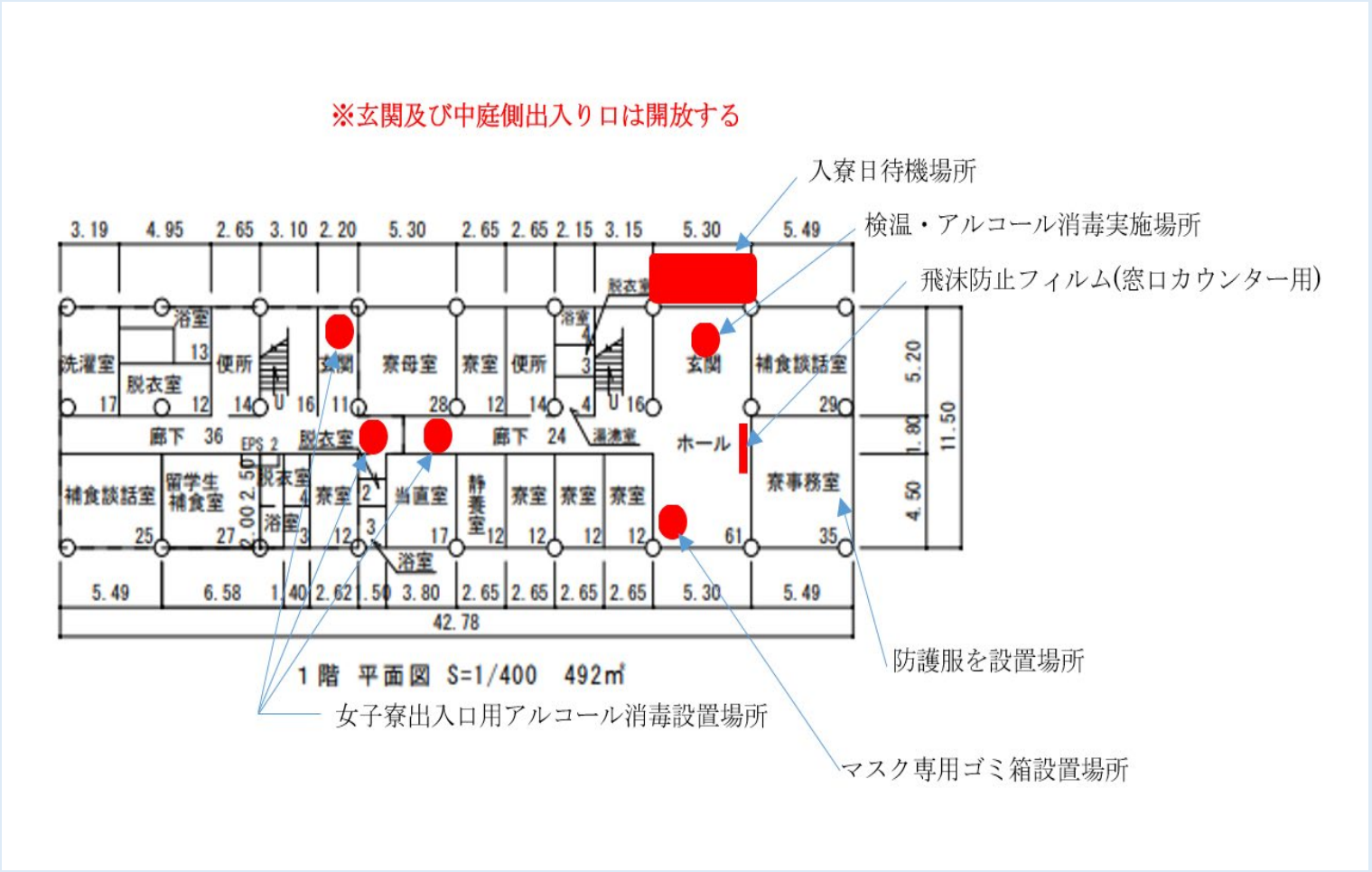
東海北陸・5商船高専寮務主事会議（各年１回）
他高専の寮生会との交流（年1~2回）

保護者との情報共有

春季寮生保護者懇談会（中止）
夏季休暇終了前に遠隔にて新入生向け入寮説明会実施（令和2年8月7日）
寮生・保護者対象にコロナウイルス対策説明の実施（令和2年8月20日）
秋季寮生保護者懇談会（対面にて保護者対象）（令和２年10月27日）

新型コロナウイルス感染症予防対策MAP作成

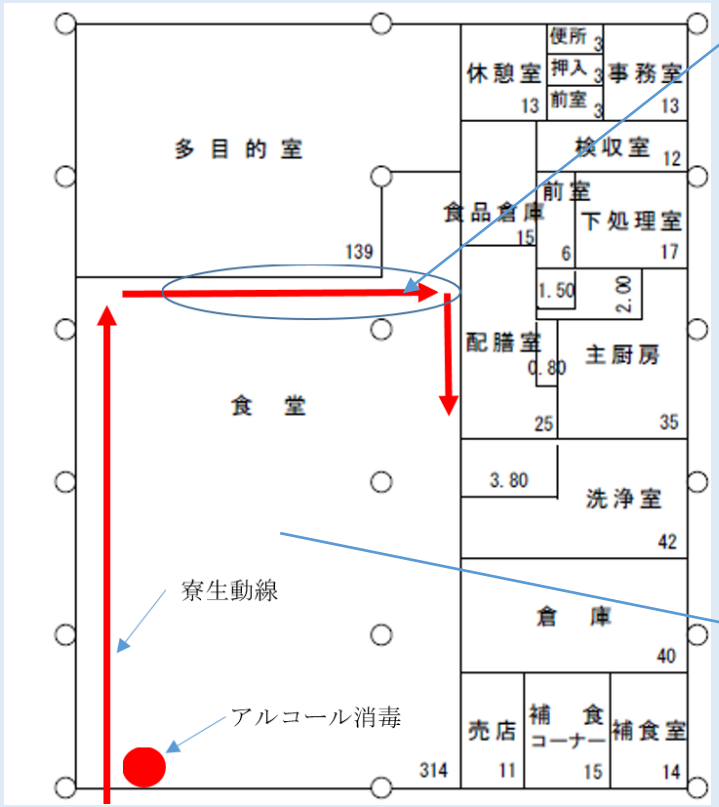
【共同利用区域】
（入口・寮務事務室近辺）



新型コロナウイルス感染症予防対策MAP作成

【共同利用区域】
（寮食堂）

待機誘導ライン設置



（衝立を設置しにより身体的距離を確保）

R2年度インフルエンザ予防接種問診票記入説明会

インフルエンザ予防接種

◆接種日時：令和2年11月16(月)

◆接種場所：本校保健室（潮騒会館2F）

◆予定者数：現在　約130名

◆接種機関：小林内科（鳥羽市大明西1−1）

◆接種金額：4,000円（後日学納金にて対応）
S2は接種しないと乗船実習に参加できない。

新型コロナウイルス対策

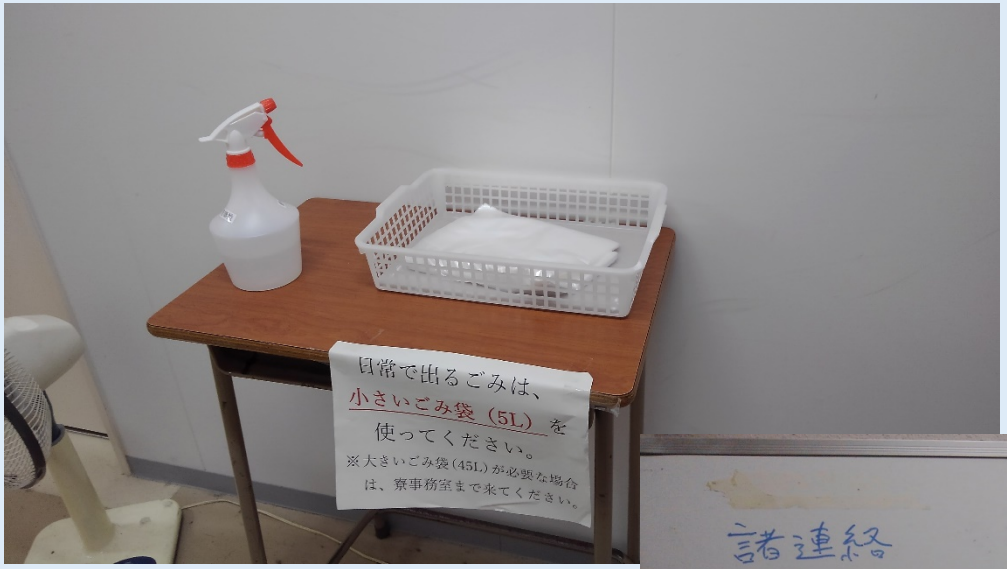
1人部屋対策で居室での学び合いができないため、換気の良い場所で自習などができるように
テラス席の新設し、さらに食堂棟内外でネットワーク環境をつくり自習エリアとして解放

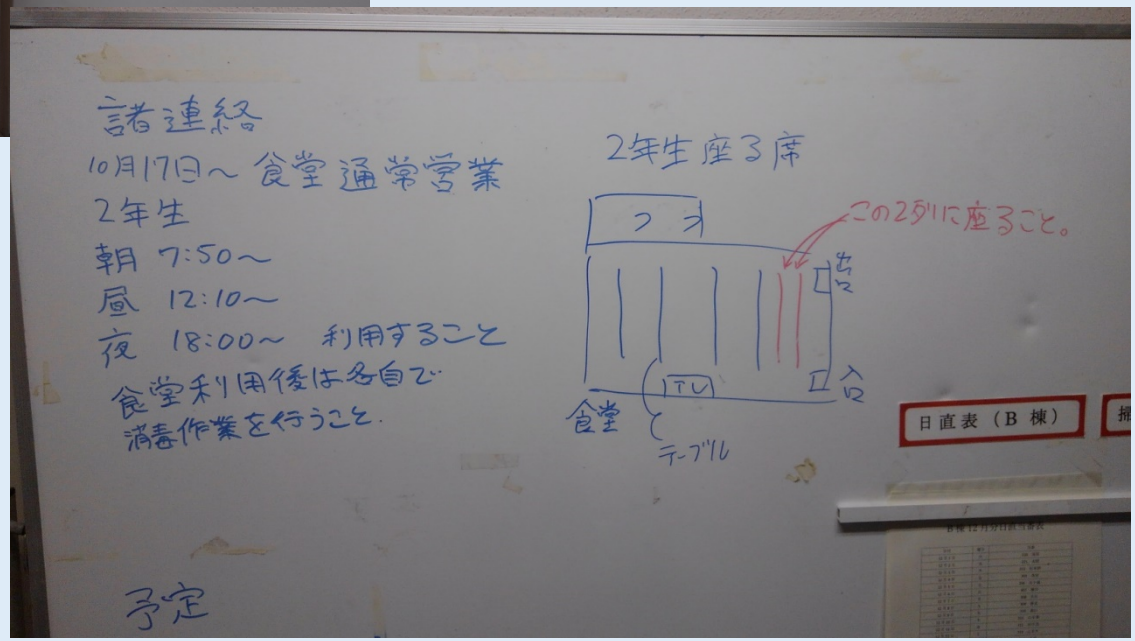
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に対する寮生の対応事例（帰寮時）

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に対する寮生の対応事例（食堂・登校時）

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に対する寮生の対応事例（食堂）

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に対する寮生の対応事例
（廊下での消毒場所の設置や学生間の食堂利用連絡）





研究活動

研究方針

地域貢献や新産業で活躍できる人材育成のため、企業、自治体や民間組織などと共同研究を進め、研究活動の成果を広く発信した上で教育にも還元する。

研究活動に関する目的・目標

目的

・企業との連携や、学校としてのシーズを育てるため、未来を見据えて新産業を支える技術を研究する。

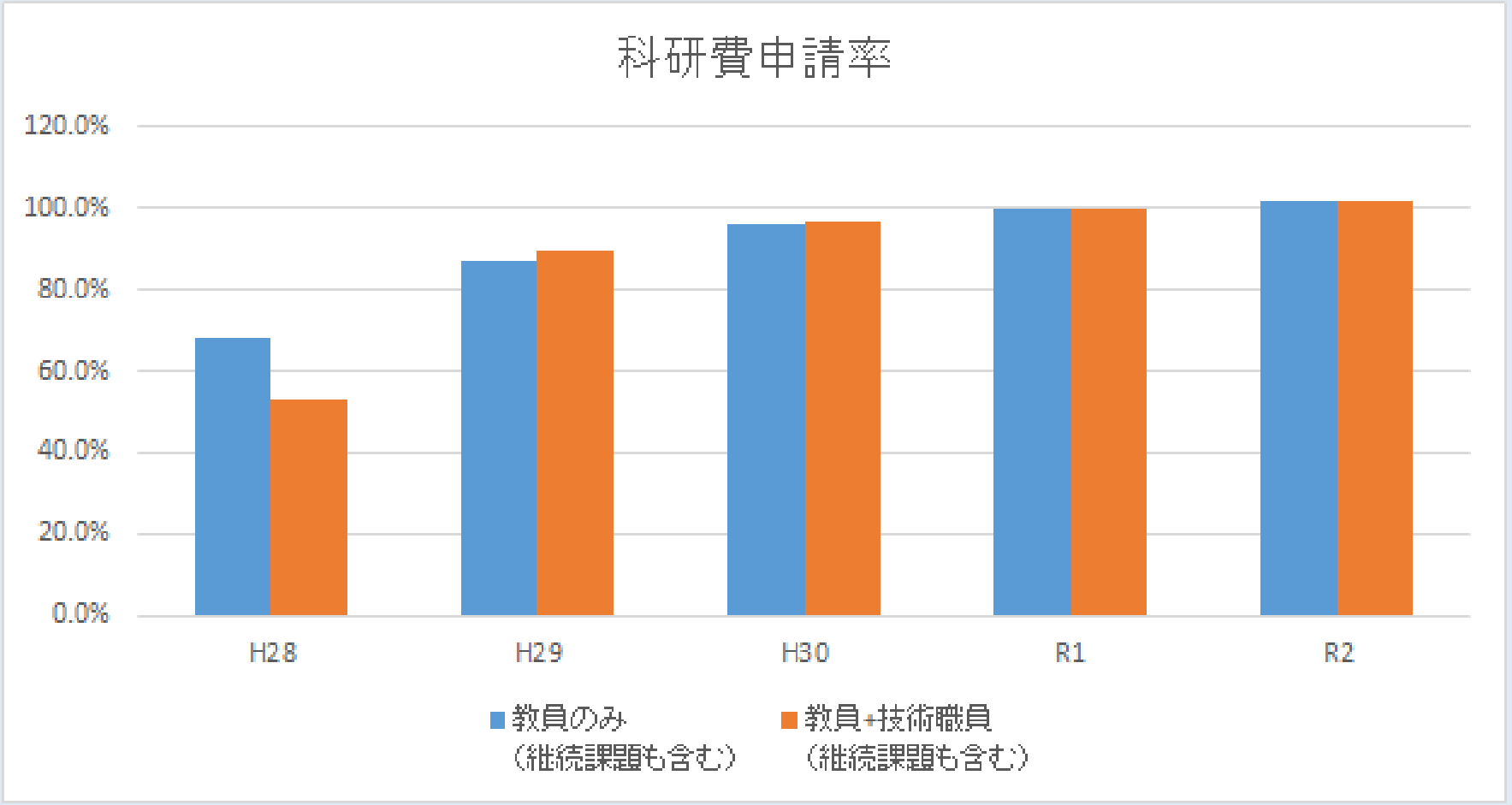
・三重県の産業を活性化するために革新をもたらす研究を推進する。

目標

・企業と連携した共同研究や、公募による研究を毎年3件以上推進する。

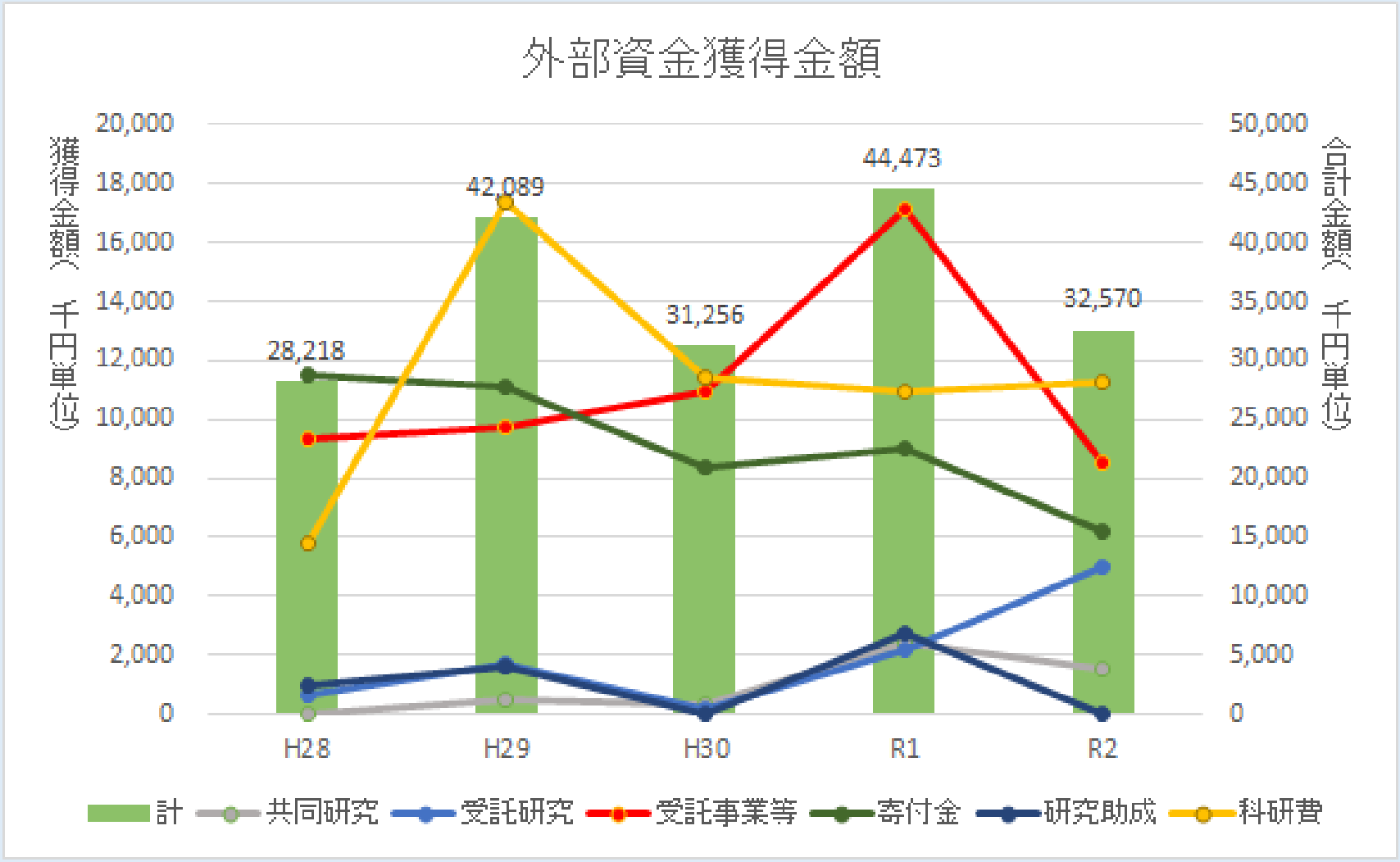
・自治体や地元企業と連携し毎年3件以上の受託研究を実施する。

科研費申請率の推移



（応募年度）

外部資金獲得状況


外部資金獲得金額
獲得金額（千円単位）
合計金額（千円単位）
20,000
18,000
16,000
14,000
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
50,000
45,000
40,000
35,000
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0
28,218
42,089
31,256
44,473
32,570
H28
H29
H30
R1
R2
計
共同研究
受託研究
受託事業等
寄付金
研究助成
科研費

令和２年度　科研費獲得テーマ

学　科	氏 名	研究種目	研 究 課 題
商船学科	吉田南穂子	国際共同研究強化（B)（分担者）	海上交通管理の持続可能性に配慮したVTSオペレータのための意思決定支援システム
	今井康之		
	鈴木治		
	広瀬正尚	基盤研究（B)（分担者）	次世代低ＧＷＰ作動媒体による船舶機関の低温排熱回収熱交換器の熱設計および最適化
情報機械システム工学科	亀谷知宏	若手研究(B)	感圧及び感温特性を有した機能性3D模型の作製法の開発
	白石和章	基盤研究（C)	高品質ミカン安定栽培に資する深層強化学習かん水技術開発
	林浩一	基盤研究（C)	空気流入による減衰力可変型粒状体ダンパーに関する研究
	山下晃司	挑戦的研究（萌芽）	“みちびき”を含むGNSS衛星電波の物体反射を利用した土砂災害発生検知システム
一般教育科	深見佳代	若手研究(B)	女性医師支援策の有効性の検証と今後の課題分析　～女性専門医の地理的･診療科的偏在～
	榎本翔太	特別研究員奨励費	Navier-Stokes方程式の自由境界問題の解のダイナミクスの数学解析
テクノ	清重康司	奨励研究	情報系主体学生がモノづくりをはじめてみたくなるデジタルファブリケーション環境構築
	濱口沙織	奨励研究	ばらして身につく技術教材開発

令和２年度　受託事業費獲得状況

受託事業

学　科	氏　名	委託元	研究期間	研　究　課　題
情報機械システム工学科	江崎修央	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター	H30.4.17～R3.3.31	スマート捕獲・スマートジビエ技術の確立
			R1.4.26～R4.3.31	AIやIoTによる、人材育成も可能なスマート獣害対策の技術開発と、多様なモデル地区による地域への適合性実証研究
	白石和章		R1.5.28～R2.3.31	中山間地域における労働力不足の克服と気候変動に適応した省力的高品質柑橘生産技術の実証

令和２年度　共同研究

共同研究

学　科	氏　名	研　究　課　題
商船学科	鈴木治	日本とトルコにおける海上交通の安全管理に関する研究
		ダイバーシチ方式による船舶におけるテレビ放送の受信状況の改善
情報機械システム工学科	中井一文	生産における検査方法に関する技術支援
		溶接工程の作業時間見える化に関する研究
	白石和章	防水性・耐久性を向上したフレキシブルセンサを使用するモニタリング技術

令和２年度　受託研究

受託研究

学　科	氏　名	研　究　課　題
情報機械システム工学科	江崎修央	AI・ICT技術の導入による魚類養殖用疾病早期発見システムの開発
		AI・ICT技術やドローンによる藻場の分布や変化等の情報を「見える化」するシステムの開発
		沿岸域海況ドローン調査
		漁業者と連携したAIを活用した伊勢湾の藻場の可視化・保全
テクノセンター	清重康司 濱口沙織	生産性向上のための技術支援

地域連携PBLによる成果

農林水産省　スマート農業実証プロジェクト

38 (株)オレンジアグリ、(有)すぎもと農園（三重県御浜町）

実証面積：4.1ha

実証課題名　中山間地域における労働力不足の克服と気候変動に適応した省力的高品質産地生産技術の実証

構　成　員　三重県農林水産部、農研機構果樹茶業研究部門、NECソリューションイノベータ(株)、
伊勢農業協同組合三重南紀地区本部、(有)すぎもと農園、(株)オレンジアグリ、鳥羽商船高等専門学校

背景・課題　○本地域は過疎化・高齢化による労働力不足と、近年の異常気象による品質低下が問題となっており、柑橘栽培の省力化と気象変動に対応した栽培管理が課題となっている。

本実証プロジェクトにかける想い

本実証プロジェクトにより、三重南紀地域柑橘産地の農業経営における省力化、高品質果実生産、製品率向上による所得向上を実現する。

また、気象観測・園地状況・選果時の形質情報を栽培管理にフィードバックするシステムを構築することで、栽培技術の高度定着化を目指す。

海洋観測機の開発と海苔養殖支援

特徴
- LINE bot が漁場の様子を提供
- グループでの意見交換が可能

実装する機能
（１）水温の表示
（２）海象情報の閲覧（クロロフィルなど）
（３）網の最適高さの提案
（４）食害の警告

観測ブイ

温度と潮位と画像を
観測するブイを開発

LTE通信モジュール

Raspberry Pi

温度センサ

水位センサ

カメラ

ソーラーパネル

電源

データ

海上のブイが
測定・異常検出

LINEbotで
利用者にお知らせ

利用者

スマホなどの端末から
使い慣れたLINEで
気軽に確認できる

各種ドローンを活用した藻場の資源量調査

空中ドローン

空中映像、
藻場を撮影

空中映像
位置情報

水中ドローン

水中映像
藻場の藻類を撮影

水中映像

海洋観測機

水温、クロロフィル
など観測する

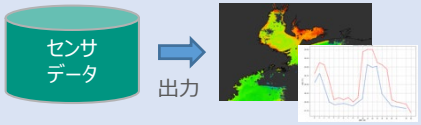
海況情報

クラウド データの蓄積・可視化

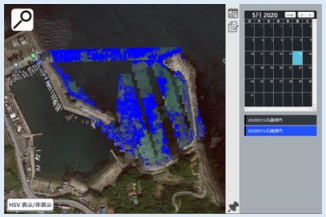
● 空撮映像より、藻場領域の抽出 → 藻場の位置

● 水中映像より、機械学習画像処理 → 藻類の種類

● ブイより、局地的な海況情報の収集 → 藻場の海況情報



提示・記録



ウェブサイト

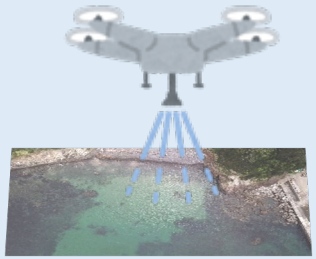
・藻場の減少状況

研究者・行政

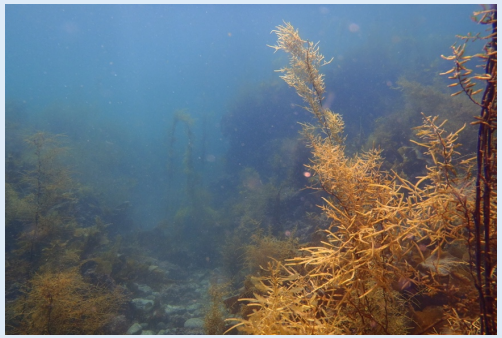
データ分析・閲覧の結果
- 藻場の減少の原因特定
- 藻場と海況情報の相関
- 局地的データの分析

↓

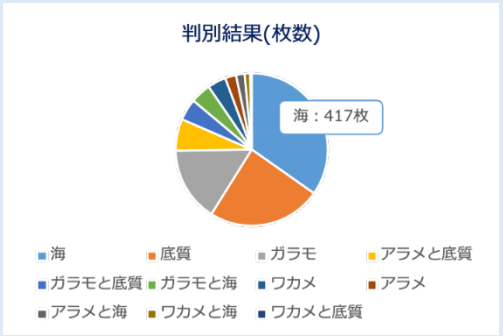
藻場維持・再生活動



空中ドローンでの撮影と地図作成



水中ドローンでの撮影と藻類の自動識別

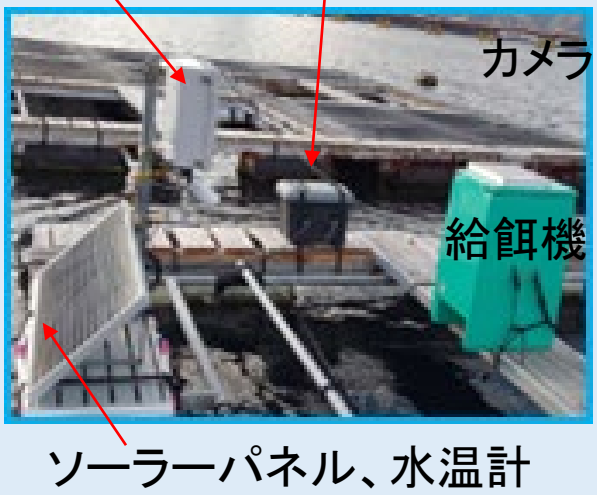


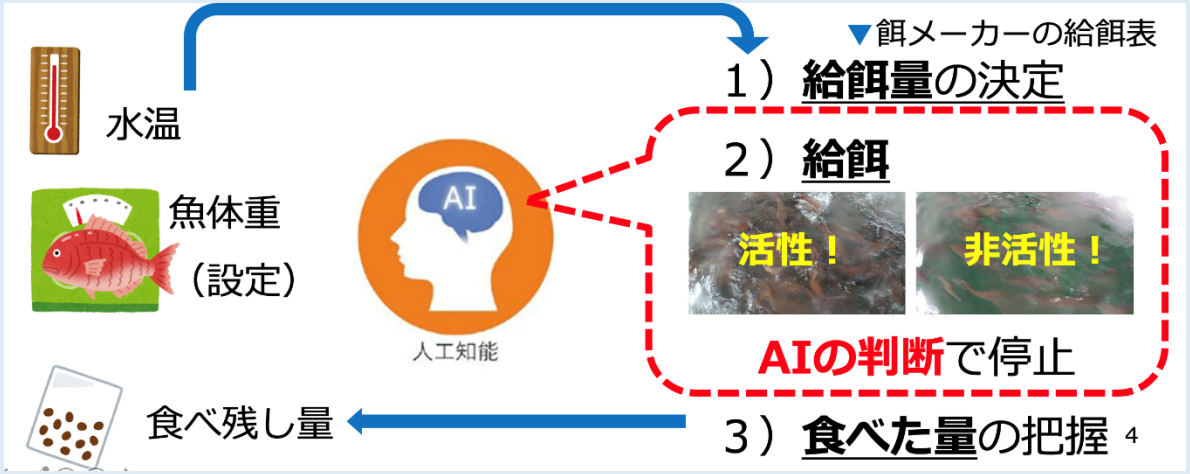
マダイの養殖の自動給餌

◆方法

・2019.12～2020.4(140日間）、週3回給餌

・試験用生簀（3×3×3m、1.2kgｻｲｽﾞ50尾）×3





◆結果

	①タイマー式	②ICT	③AI
魚体サイズ（g）	1,255 → 1,639	1,232 → 1,742	1,211 → 1,632
日間給餌率(%)	0.38	0.49	0.40
増肉係数（乾物）	1.87	1.88	1.80

※AI給餌機の性能向上：1/29タイムラグ解消、2/10餌詰まり解消

学生の活躍

各種コンテスト

高専Deep Learningコンテスト　2位（企業評価額5億）、6位（評価額1億）

最優秀賞（賞金 20 万円）：摘果支援アプリ　蜜です！　鳥羽商船高等専門学校
優秀賞（賞金 10 万円）　：アザミウマちゃうんか？　鳥羽商船高等専門学校
優秀賞（賞金 10 万円）　：「見えてる?!」視程の新たな観測方法の開発とその分析　東京都立立川高等学校
選考委員特別賞佐々木嘉和賞（賞金 5 万円、米国研修旅行）：気象観測装置「5TOOL-WS」　鶴岡工業高等専門学校
選考委員特別賞衛星賞（賞金 5 万円、衛星オペレーション見学会）：
流星出現通知システム ver. 2. 0 の開発　中央大学附属中学校高等学校
代表理事特別賞（賞金 5 万円）：自律型水位観測アレイ「長崎オリオンネット」第 2 報　長崎県立宇久高等学校

優秀賞　最優秀賞　優秀賞

高校・高専気象観測機器コンテスト　2年連続　最優秀賞・優秀賞　受賞

高専ロボコン2020東海北陸地区大会「特別賞」受賞！

高専プロコン　特別賞

Wireless IoTコンテスト

第3回システム創生コンテストで優秀賞と特別賞を受賞

日タイサイエンスフェア(オンライン)での発表

ご清聴ありがとうございました。

別紙

書面審議書

令和３年 4 月 2 日

鳥羽商船高等専門学校
校長　林　祐司　殿

所属・役職
氏　名　石田 康史

下記審議事項について、審議の結果の可否に○をつけてください。

審議事項	審議の結果	
	可	否
１．令和２年度鳥羽商船高等専門学校 年度計画達成状況について	○	

気の付いた事項、内容については表中に記載させて頂きました。
本来、年度計画は通常状況下での計画、そして達成状況の評価ですので、昨年のように緊急事態宣言下での計画達成の評価は無理と愚考致します。従って、今回のような(今年度もそうなるでしょうが)状況下では、「評価不可」とすべき内容、事項があっても良いのでは と愚考致します。

別紙

書面審議書

令和３年４月７日

鳥羽商船高等専門学校
校長　　林　祐司　殿

所属・役職　同窓会長
氏　　名　菅沼 延之

下記審議事項について、審議の結果の可否に○をつけてください。

審議事項	審議の結果	
	可	否
１．令和２年度鳥羽商船高等専門学校 年度計画達成状況について	○	

別紙

書面審議書

令和３年３月31日

鳥羽商船高等専門学校
校長　林　祐司　殿

所属・役職　鳥羽商船高専 教育後援会会長
氏　名　鳥山 光一郎

下記審議事項について、審議の結果の可否に○をつけてください。

審議事項	審議の結果	
	可	否
１．令和２年度鳥羽商船高等専門学校 年度計画達成状況について	○	

別紙

書面審議書

令和３年 ３月３０日

鳥羽商船高等専門学校
　校長　　林　祐司　殿

所属・役職 鳥羽市立鳥羽小学校・校長
氏　　名 東 和彦

下記審議事項について、審議の結果の可否に○をつけてください。

審議事項	審議の結果	
	可	否
１．令和２年度鳥羽商船高等専門学校 年度計画達成状況について	○	

別紙

書面審議書

令和３年３月30日

鳥羽商船高等専門学校
校長　　林　祐司　殿

所属・役職　執行役員 総務統括部長
氏　　名　本田直基

下記審議事項について、審議の結果の可否に○をつけてください。

審議事項	審議の結果	
	可	否
１．令和２年度鳥羽商船高等専門学校 年度計画達成状況について	○	

別紙

書面審議書

令和３年 ９月 29日

鳥羽商船高等専門学校
校長　　林　祐司　殿

所属・役職　公益財団法人 三重県産業支援センター 事業部 技術支援課 課長
氏　　名　瓜田 峰知

下記審議事項について、審議の結果の可否に○をつけてください。

審議事項	審議の結果	
	可	否
１．令和２年度鳥羽商船高等専門学校 年度計画達成状況について	○	

別紙

書面審議書

令和３年　３月３０日

鳥羽商船高等専門学校
　校長　　林　祐司　殿

所属・役職　理事・副学長
氏　　名　山本俊彦

下記審議事項について、審議の結果の可否に○をつけてください。

審議事項	審議の結果	
	可	否
１．令和２年度鳥羽商船高等専門学校 年度計画達成状況について	○	

令和２年度　鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和２年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準に従い、以下の自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した
A：達成度　100%以上
B：達成度　70%～100%未満
C：達成度　70%未満

年度計画	委員会等	事務	計画の実施状況等	計画に対する課題 （赤字下線はコロナが影響した課題を示す）	鳥羽商船 自己点検評価	コメント欄（石田委員）	コメント欄 （鳥山委員）	コメント欄（菅沼委員）	コメント欄 （東委員）	コメント欄 （本田委員）	コメント欄（増田委員）	コメント欄（山本委員）
１．１　教育に関する事項												
（１）入学者の確保												
①-1-1 （１）入学者の確保 ・昨年度に引き続き、学内での意見聴取を行い、コンテンツの拡充、より見やすいホームページ作りを行う。	広報・公開	総務	・入学案内の項目の並び順について、アクセスが多いと思われるものを上位に移動した。 ・インターネットを使って行うガイダンス（以下、ウェビダンス）のページを作成し、コロナ禍でも中学生やその保護者に対して、Web学校説明会やWeb入試相談会、オープンキャンパス（動画による学校探索）を実施し、学校の概要から特色、入試の方法などを紹介した。 ・トップページの新着情報欄の入試関連の重要な投稿については、ピン留めを行い、投稿が他の新着情報に埋もれてしまわないように工夫を行った。 ・トップページに掲載している新学科開設のバナーについては、設置から３年目となるため、今年度中（入試シーズン後）に撤去した。 ・トップページの新着情報について、「新着情報一覧はこちら」のリンク切れ、「2017年度以前の～」という古いリンクがあるため、更新・修正を行った。		A			同窓会としては本年も地区事に入学者確保のお手伝いをさせていただきます。			（教育のみならず全体の広報活動に関して） コロナ禍により、返って、社会全体も子供たちも、ITリテラシーが上がったと思います。 動画配信など、いろいろなSNSデバイスをご活用することをご検討ください。	
①-1-2 ホームページの内容をさらに充実すべく、新年度もリニューアルを行う。 また他高専との合同説明会については、引き続き行うとともに、より効果的な広報活動を目指し、開催地の変更などを検討する。	教務	入試・支援	今年度においては、スマートフォンからでも本校ホームページを閲覧することを想定し、表示される項目の位置を変更した。具体的には、募集要項のページや説明会、オープンキャンパスに係る情報を上部に表示するように設定した。 他高専との合同説明会について、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、本校主催で実施することができなかったが、近大高専主催の説明会（７月１８日、９月２６日）については、本校も参加した。	今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面での説明会等に実施の制限があったが、次年度に向けて実施方法や場所を工夫して対面での実施可能性を検討する。	B	評価不可ＯＲ「Ａ」？ ホームページの改善、近代高専主催の合同説明会に参加しているので、「Ａ」でも良いのではないでしょうか。						・大学においてもコロナ禍の蔓延という事態で止む無くオンラインでの対応ということになりましたが、DXの推進ということも合わせ、オンラインの可能性をどうとらえ、その環境と実施方法をどう工夫するかが重要になっている等に思います。面接の代替としてのオンラインをどう超えるか、物理的空間を瞬時に乗り越えて、多様なコミュニケーションのネットワークを生み出してしまう。新しい授業の考え方が求められてくるのかもしれません。
①-2 オープンキャンパスの実施内容を全体的に見直し、商船高専の魅力をよりアピールしていく。 また、中学校巡回ＰＲ活動については、県外での実施範囲を広める等、より効率的かつ効果的な活動を展開していく。	教務	入試・支援	今年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、オープンキャンパスを本校ホームページに動画にて公開を行った。また、中学校巡回PR活動については、県境を超えた移動を避けるため、秋季に県内のみで実施した。 なお、今年度については、対面での学生募集の機会が新型コロナウイルス感染症の影響で軒並み中止となったため、Webによる学校説明会、入試相談会を積極的に実施した。	オンデマンド（動画等による学校紹介・オープンキャンパス）、オンライン（Skype等を用いたオンライン学校説明会・相談会）には可能性があるので今後もその実現と充実を検討する。しかし、これらの相談会はすでに高専等に興味のある学生以外を引き付けるのは難しいので、オフラインでの対面説明会や相談会の充実も再検討する。 巡回PRについて、次年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、県外中学校への巡回を検討する。	A							
②-1 入試広報活動に女子学生を参加させ、在学生の生の声を中学生に聞いてもらう機会を積極的に作っていく。 また女子学生に特化したパンフレット作製を検討する。	教務	入試・支援	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面での入試広報活動を実施することができなかったが、Web入試説明会においては、本校卒業生（専攻科在学）の女子学生に参加をお願いし、学校生活や勉強について女子学生からの視点を語ってもらい、好評を得た。	パンフレットについては、前期が遠隔授業により、作製に至ることができなかったため、次年度の学生募集に向けて検討する。	B	評価不可で良いのでは？ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、対面での入試広報活動~~の場がなかため、~~を実施することができなかった~~。~~が、Web入試説明会においては、本校卒業生（専攻科在学）の女子学生に参加をお願いし、学校生活や勉強について女子学生からの視点を語ってもらい、好評を得~~ている~~た。						
②-2 留学生の確保に向けて、以下の取組を実施する。 ホームページの英語ページについて、以下の項目に係るページを作成する。 ・学校案内（校長挨拶、ポリシー、沿革等） ・学科紹介（スタッフ、カリキュラム） ・活動状況 ・施設情報（アクセス等）	広報・公開	総務	・現在、新しい英語ページ（案）を作成した。英語ページ（案）について、広報・公開委員会にてメール審議を行い、了承され次第、ホームページへ掲載する。		A							
③ 平成31年度からの大幅な入学選抜方法の改定に対し、入試業務の点検、入学者への追跡調査等により教務委員会でその評価を行い、修正等を検討する。	教務	入試・支援	令和２年度入学者の前期試験について、追跡調査を行った。選抜方法の違いにより、入学後の成績の傾向や違いなどの議論を深めている。		A							・三重大学は入試フォローアップシステムという入試成績追跡システムを活用して、入試成績と入学後の学業成績との相関等を分析しています。これらをさらに活用して、出願や入試の動向にかかわる市場調査的な機能を重視する必要があるように感じております。
（２）教育課程の編成等												
①-1 ・商船学科の次世代海洋人材育成など将来構想についての検討を継続して行う。 ・練習船鳥羽丸の代替新造船（三番船）を目指し、5商船系高専が引き続き連携をして、一番船である新大島丸の概算要求を支援する。 ・商船学科と海事システム学専攻を含めた一体型の具体的改革を実現するために、商船学科に何が必要か検討を行う。 ・高度連携関係にある鈴鹿高専と同県内にある地理的強みを生かし、教育・研究・学生指導等について、緊密に連携協力を行う。 ・和歌山高専との包括協定に基づいて、研究を中心とする連携協力を引き続き推進していく。 ・「地域への貢献」を主として、コンソーシアムみえの事業などを通じて、引き続き県内高等教育機関と連携を図り、学生が活躍できる場を提供する。 ・鳥羽市との連携協定を基に地域のニーズを取り入れた取り組みを設定し、PBL教育を通じて、学生を地域課題に積極的に参加させ、問題の解決を図る。 ・GEAR5.0の農水分野に、鳥羽商船高専が中核拠点校としての提案書を申請し、その実現に努力する。	校長	企画・ 地域連携	・コンソーシアムみえの事業として、「みえまちキャンパス」を２月にオンラインで実施し、県内の高等教育機関から７団体の参加があり、学生主体で企画・運営するサポートを行った。 ・GEAR5.0では不採択とはなったが、本校が中核拠点校となり、函館高専、小山高専、弓削商船、有明高専の４つの協力校と緊密に連携をとり、農水分野での提案書をまとめ、応募を果たすことが出来た。 ・鳥羽市との連携協定を基に地域のニーズを取り入れた取り組みを設定し、PBL教育を通じて、学生を地域課題に積極的に参加させ、問題の解決を図った。	・今年度は、鈴鹿高専との連携協力会議はそれぞれの学校における コロナ対応に忙殺され、開催できなかった。	A	・鳥羽市との連携協定を基に地域のニーズを取り入れた取り組みを設定し、PBL教育を通じて、学生を地域課題に積極的に参加させ、問題の解決を図っ~~ている~~た。				大変制限が多かった中にもかかわらず、最大限の活動をされていますことに敬意を表します。	
①-2 専攻科学生の地域企業へのインターンシップ参加を今後も推奨していく。また、豊橋技術科学大学等との連携教育プログラムについて、引き続き検討していく。		入試・支援	インターンシップについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、教育課程には盛り込まなかったが、学生が自主的に地域企業へのインターンシップに参加した。次年度以降、新型コロナウイルス感染症が収束すれば、参加を推奨していく。	・豊橋技術科学大学等との連携教育プログラムにおいては、具体的な進展はなかったが、今後も専攻科委員会において検討を行う予定である。 ・インターンシップについては次年度以降、新型コロナウイルス感染症が収束すれば、参加を推奨していく。	B	評価不可で良いのでは？ 新型コロナ対応でインターンシップは中止せざるを得ない状況下での評価はなじまないのでは？						
②-1 学生が海外で活躍する機会を後押しするために、学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意している。今年度もその具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。また、海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。	教務 グローバル教育推進室	入試・支援	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた派遣プログラムを中止せざるを得なかったが一方で、現在のコロナ禍においても可能な国際交流の方法として、シンガポールやハワイの各学校とオンラインによるプログラムの開催を検討した。 加えて、ニュージーランドのKMITやハワイのKCCなどとは、次年度春～夏にかけての開催を目指してプログラム内容の再検討を行った。	現在のコロナ禍において可能なオンライン等による国際交流事業の機会創出および、これまで実施してきた事業を”新しい生活様式”に則った形にすべく、事業内容の検討を行う。 また、新型コロナウイルス感染症の感染が終息後は、従来のプログラムの再開に向けて検討を行う。	A							
②-2 海外教育機関から短期留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と交流させることによって、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 外国語師を招いて実施するTOEIC対策特別講座などを通じて、積極的な支援を行う。	グローバル教育推進室	入試・支援	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた受入プログラムを中止せざるを得なかった。 学外講師のTOEIC対策特別講座については、1月中旬にオンラインで実施した。	現在のコロナ禍において可能なオンライン等による国際交流事業の機会創出および、これまで実施してきた事業を”新しい生活様式”に則った形にすべく、事業内容の検討を行う。 また、新型コロナウイルス感染症の感染が終息後は、従来のプログラムの再開に向けて検討を行う。	A							
③-1 「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」、「全国高等専門学校ロボットコンテスト」、「全国高等専門学校体育大会」、「インターハイ」等の活動に積極的に参加し、加えて本校学生が優秀な成績を収められるよう支援して学生の意欲向上を図る。	教務 学生	学生生活	・第31回全国高専プログラミングコンテスト(10月10日、11日）で特別賞を受賞した。 ・第33回全国高等専門学校ロボットコンテスト東海北陸地区大会（10月25日）において特別賞を受賞した。 ・DCON2020（8月22日）で2位と6位の成績をおさめ、KDDI賞、コニカミノルタ賞を受賞した。 ・WiCON2020（高専ワイヤレスIoTコンテスト）ビデオプレゼンテーション大会（7月27日）にて二次審査を通過し、提案が採択された。	高専体育大会は新型コロナウイルス感染症の影響にて中止となった。	A							
③-2 ボランティアの依頼情報があった場合については、学校内の掲示板等に情報を周知する。地域と連携して学生主体の地域ボランティア活動を促進する。	教務 学生 寮務	学生生活	11月18日に本科1～3年生が池の浦駅周辺、及び本校周辺のクリーンキャンパスを行い、清掃活動を行った。	例年、鳥羽警察署で実施されている啓発活動ボランティアに参加しているが、新型コロナウイルス感染症のため中止となった。	A	クリーンキャンパスは行っているので「A」でも良い						
③-3 外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 更には、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、前年度奨学金を受けた学生の体験談を紹介し、学生の申請を促す。	グローバル教育推進室	入試・支援	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努めた。 「トビタテ！留学JAPAN」としては、制度が更新されたことと及び新型コロナウイルス感染症の感染拡大により申し込みを中断している状況である。	更新された制度の沿う形でのプログラムを検討すると共に新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、留学再開の目処が立ったら学生への周知徹底を行い、積極的な呼びかけを再開する。	A	評価不可で良いのでは？ トビタテ留学JAPANは中止されているので評価すること事体無理						
（３）多様かつ優れた教員の確保												
① 専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げることとする。	教員選考	人事・労務	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げ、博士の学位を持つ者を採用している。		A			女性教員を積極的に採用すべきです。 （ただ同権と同質は別ですが。）			引きつづき多様性のある教員確保に期待しています。	
② 企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の活用を検討する。	教員選考	人事・労務	企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の活用を検討した。		B	活用を検討したので「Ａ」で良いのではないでしょうか。		女性教員を積極的に採用すべきです。 （ただ同権と同質は別ですが。）			引きつづき多様性のある教員確保に期待しています。	
③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 また、女性研究者支援プログラムの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める。		人事・労務	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知した。 また、女性研究者支援プログラムの実施等により女性教員の働きやすい環境の整備を進めた。		A							
④ ・外国人教員の採用について検討する。 ・教員公募要領の英文化をより一層推進する。	教員選考	人事・労務	・外国人教員の採用内定を出した。 ・教員公募要領を英文化した。		A							
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を可能な限り検討する。	教員選考	人事・労務	長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流を検討しているが、学校運営上、限られた人員で行っている為難しい面がある。		A							
⑥-1 ・法人本部による研修への参加を推奨し、かつ、国立高等専門学校におけるファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた自主的な研修グループ等の活動を推奨する。 なお、教員の能力向上を目的とした各種研修について、積極的な参加を推奨する。 ・高専機構主催のファカルティ・ディベロップメント研修会に積極的に参加させ、また学内においても教員ファカルティ・ディベロップメントを実施し、能力向上を図る。	教務	人事・労務	・法人本部による研修への参加を推奨した。国立高等専門学校におけるファカルティ・ディベロップメントへの参加希望者に受講させた。 また、教員の能力向上を目的とした各種研修について、積極的な参加を推奨した。 ・高専機構主催のファカルティ・ディベロップメント研修会には参加希望者を参加させた。また学内における教員ファカルティ・ディベロップメントを実施した。		A							
⑥-2 学内においても教員ファカルティ・ディベロップメントを実施し、教員の能力向上を図る。	教務	教務	9月2日（水）に「遠隔授業の問題点の抽出と解決」をテーマとし，参加人数を各学科から2～3名程度に制限したグループワーク型ファカルティ・ディベロップメントを開催した。前期の遠隔授業から反省点・問題点を抽出し，それに対する解決すべき課題をピックアップ，解決方法の案を検討した。 加えて，8月21日（金）に他高専が開催する「新型コロナウイルス感染症-高等教育機関における対応-」をテーマとするオンライン型ファカルティ・ディベロップメント講演会へ参加した。 さらに，2/24～3/3の間に「LGBT 視点から職場と社会を変える」をテーマとした録画視聴型のＦＤを開催した。		A							
⑦ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰していただくよう教員顕彰等の推薦を行い、各教職員のモチベーションの向上のきっかけとなるよう努める。	校長	人事・労務	教員顕彰等の推薦を行い、各教職員のモチベーションの向上のきっかけとなるよう努めた。		A	推薦を行い、モチベーションの向上に努めているので「Ａ」でも良いのではないでしょうか。						
（４）教育の質の向上及び改善												
①-1 モデルコアカリキュラムに準拠したシラバスを作成するとともに、積極的に学生の自主的勉学を促進するPBLを取り入れていく。	教務	教務	12月初旬より各担当教員にモデルコアキュラムに準拠した来年度シラバスの作成を指示した。 また，情報機械システム工学科1年・2年のPBL，制御情報工学科，電子機械工学科3年・4年の創造実験においてPBLを取り入れている。なお，創造実験では，専門技術を用いて地域の抱える課題を解決することに取り組んだ。		A						地域には様々な分野で、まだまだ多くの課題があります。PBLでいろいろな地域課題に取り組んでいただけることを期待しています。	・学生の自律的・主体的な学習の形成ということでアクティブラーニングの導入やPBL型の授業の必要性が取り上げられていますが、これらの多くは、学生の問題・課題ではありますが、同時に教員の教育力の問題でもあるように思います。学生の成績の変化を追うのと同様に、教員の教育や授業の成果を評価・分析することがまず重要ではないかと思います。
②-1 今年度受審予定の機関別認証評価に対応するため、学内の各部署と緊密に連携をとり、書面調査、訪問調査を計画的に進めていく。また、自己点検・評価を実施し、教育の質の向上に努める。	点検評価	企画・地域連携	訪問調査に先立って学内各担当と連携し、資料を収集し、12月4日に訪問調査を受審し、ほとんどすべての項目において問題ないとの評価を得た。		A							
②-2 STCW条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）に基づく資質基準を維持するとともに、同条約に基づいた設備の点検を継続する。	STCW条約対策	教務	STCW条約に基づく資質基準の維持に努め、学内で実施するQSS監査を実施した。		A							
③-1 昨年度は新学科の情報機械システム工学科１年生の授業科目としてPBL１が導入され、今年度は同学科２年生の授業にPBL２が開始となることから、更なるPBLの導入を積極的に進めていく。	教務	教務	昨年度から情報機械システム工学科1年生の授業科目としてPBL1が始まり，今年度から2年生の授業科目としてPBL2を実施した。PBL1ではロボットの制御演習を通じたグループワーク，課題を達成できるよう進めた。PBL2ではマイコンプロクラムを通じたグループワーク，実生活に役立つシステム構築を目標として進めた。新学科は２年目であるため，上級学年との縦割り班とはなっていないが，制御情報工学科，電子機械工学科の４・５年生からレクチャー，アドバイスを受ける機会を設けた。		A	昨年度から情報機械システム工学科1年生の授業科目としてPBL1が始まり，今年度から2年生の授業科目としてPBL2~~が~~を実施~~されている~~した。PBL1ではロボットの制御演習を通じたグループワーク，課題を達成できるよう進め~~ている~~た。PBL2ではマイコンプロクラム通じたグループワーク、実生活に役立つシステム構築を目標として進め~~ている~~た。新学科は２年目であるため，上級学年との縦割り班とばなっていないが，制御情報工学科，電子機械工学科の4・5年生からレクチャー，アドバイスを受ける機会を設け~~ている~~た。					
③-2 三重県に事業所を置く企業と連携し、クラウド関連の特別講義を実施する他、産業支援センターに協力を得てアントレプレナーシップ育成の特別講義も実施する。これらを通じて教育コンテンツを開発し、教材共有システムへ登録し、全国高専で活用できるようにする。	研究主事	企画・地域連携	工業系４年生向けの「ITシステム」という授業において、三重県に事業所を置く企業８社からテレビ会議システムを利用した授業を実施した。アントレプレナーシップに関する教材開発については、COMPASSの拠点校となった広島商船高専に教材提供し、全国高専で活用してもらえるように協力を開始した。 また、12月にDCON2020実行委員長の表敬訪問があり、「起業の話とＡＩの話」をテーマに講演をいただいた。		A	「Ａ」で良いのではないでしょうか。						
③-3 ＩＴパスポート試験・情報セキュリティマネジメント試験・基本情報技術者試験等の問題を教材として活用する。また、K-SEC提供のCiscoサイバーセキュリティ教材等を用いた実践教育を引き続き推進し、教育内容の高度化をはかる。	総合情報センター	総務	ＩＴパスポート試験・情報セキュリティマネジメント試験・基本情報技術者試験、K-SEC提供のCiscoサイバーセキュリティ教材等を用いた実践教育を情報ネットワーク、ネットワークシステム、ネットワークプログラミング、情報ネットワーク技術等の講義で活用した。	令和２年度サイバーセキュリティ人材育成事業（K-SEC）セキュリティ教育導入について、情報機械システム工学科、制御情報工学科、電子機械工学科で教材を導入し活用した。今後は、全学的な取り組みにすることが望ましい。	A							
④ 高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、ビデオ教材を活用した教育、教員の研修、教育課程の改善、国立高等専門学校と技術科学大学との間の教育の接続、人事交流などの分野で有機的な連携等、可能性について検討する。	教員選考	人事・労務	高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との間で定期的な連携・協議の場を設け、ビデオ教材を活用した教育、教員の研修、教育課程の改善、国立高等専門学校と技術科学大学との間の教育の接続、人事交流などの分野で有機的な連携等、可能性について検討している。		B						学生には学ぶことが多く大変ですが、ぜひ「知的財産」（特許だけでなく広義の意味で）もぜひ学習機会を検討ください。	

年度計画		委員会等	事務	計画の実施状況等	計画に対する課題 （赤字下線はコロナが影響した課題を示す）	鳥羽商船 自己点検評価	コメント欄（石田委員）	コメント欄 （鳥山委員）	コメント欄（菅沼委員）	コメント欄 （東委員）	コメント欄 （本田委員）	コメント欄（増田委員）	コメント欄（山本委員）
（５）学生支援・生活支援等													
①	精神科医１名（月１日）、カウンセラー２名（月１日、週１日）を配置し、面接及び必要に応じて電話相談を実施する。また、学生相談室において、平日は心理的専門資格を有するものを非常勤職員として配置し、学生の相談を受け付けている。 　また、今年度も外部専門家を招聘し、本校教職員に対しての研修実施を検討する。	学生	学生生活	学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名及び臨床心理士2名、計3名の専門職で必要に応じて実施した。 特に、高学年の発達障害傾向にある学生に対して、月1回の精神科医による面談及び週1回の臨床心理士によるコミュニケーショントレーニングを行い、就職支援をした。 上記の支援は、対面及びオンラインにて実施している。 教職員に対する研修を2月から3月にかけて録画視聴の方式で実施した。		A	学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名及び臨床心理士2名、計3名の専門職で必要に応じて実施~~している~~した。 特に、高学年の発達障害傾向にある学生に対して、月1回の精神科医による面談及び週1回の臨床心理士によるコミュニケーショントレーニングを行い、就職支援を~~している~~した。 上記の支援は、対面及びオンラインにて実施している。 教職員に対する研修を2月から3月にかけて録画視聴の方式で実施した。						
②	奨学金制度を多くの学生が活用し、利便性を図るため、新入生入学時の説明会における案内や学内、ホームページへの情報掲載を行う。	学生	学生生活	授業料免除や奨学金制度については、ホームページに掲載を行うとともに、保護者へ案内状を郵送し、情報提供に努めた。また、該当学年の教室、廊下の掲示板及び学生課前等にポスター掲示を行い、学生への情報提供に努めた。 奨学金制度が容易に理解できるように、動画を用いたコンテンツを作成し、ホームページに掲載した。	例年、新入生に対しては3月に行われる新入生入学手続説明会で本人及び保護者に対し、説明を行っていたが、新型コロナウイルス感染症により中止。 動画での説明をホームページに掲載するとともに、新入生の保護者には、案内状を送付した。	A	授業料免除や奨学金制度については、ホームページに掲載を行うとともに、保護者へ案内状を郵送し、情報提供に努めた。また、該当学年の教室、廊下の掲示板及び学生課前等にポスター掲示を行い、学生への情報提供に努め~~ている~~る。						
③	学生のキャリア教育の統括的な支援を担う。１、２年生については学科横断的に社会人基礎力の養成を行う。３年生以上については、それぞれの学科の特徴を活かした就職力の養成を目指していく。	学生 キャリア教育推進室	学生生活	(1)高専高度化推進経費・学校改善事業の支援を受け、Web形式で、講演会、グループワーク、セミナー等を行う環境を構築した。 (2)社会人基礎力養成 ・鳥羽警察署講演会「遠隔授業世代の SNS に潜む危険と生活安全」をWeb形式で実施した。（8月5日） ・リーダーストレーニングをWeb形式で実施した。（9月26日） ・一般基礎教育1・2にて社会人基礎力養成の講義を実施した。（5月13日、5月20日、9月30日） (3)就職力養成 ①人材広告企業による遠隔講義 ・工業系3、4年生を対象としたWeb 適性検査をWeb形式で実施した。（11月24日） ・工業系3、4年生を対象とした面接対策講座をWeb形式で実施した。（12月1日） ②セミナー ・校内就職支援セミナーをWeb形式で実施した。（12月3日、102社参加）	前年度まで対面形式で行われていた就職支援セミナーを新型コロナウイルス感染症の影響により今年度はWeb形式で開催した。	A			・卒業生の講話が以前はありましたが現在はあるのですか？ ・ケイタイキャリアの安全教室講話は責任逃れの為の教室ですのでやめた方のが良い。もう手遅れです！				
１．２ 社会連携に関する事項													
①	昨年度に引き続き、三重県の特徴である水産業、農業、観光業を支援する技術提供を行い、持続的なサービス提供に寄与する。また、これらの情報はホームページに掲載することはもちろん、SNSを通じて積極的に情報発信する。 　シーズ集は毎年更新し、ホームページに掲載する。	研究主事	企画・地域連携	三重県から水産業・農業に関する受託事業を３つ依頼されており、学生もプロジェクトメンバーとして取り組んでいる。これらの成果の一部は学外コンテストでも発表し、高専Deep Learningコンテスト（DOCN）では、農業、観光業向けのシステムとして提案し、２位と６位という結果を得た。これらの結果は学校のホームページはもちろん、SNS等で配信した他、NHKのサイエンスゼロにて特集が組まれ放送された。 シーズ集については、内容を見直し、更新したものをホームページに掲載した。		A					・江崎先生をはじめ多くの先生方が、地域企業との連携を進めていただいていることは素晴らしいことと存じます。 ・三重県では工業研究所や（公財）三重県産業支援センターに、地域企業との連携ハブ機能がありますので、引き続き積極的な活用をいただきたいと存じます。	
②	第３ブロック拡大研究推進ボード、ＫＲＡと連携しつつ、テクノセンターが主体的に地域の企業や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。三重地方創生コンソーシアムや技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信をした上で知的資産化に努める。	テクノセンター	企画・地域連携	地域の企業との共同研究が３件、三重県の受託事業が３件あり、地域の要望に答えた研究を進めている。また、１１月１７日にはKDDI・KDDI総研との包括連携を締結し、さらに３月１６日にはKDDI・KDDI総研と三重大学、三重県水産研究所、鳥羽市及び本校の間で６者協定を締結し、三重県の産業のDX(デジタルトランスフォーメーション）を進めるために協力していく体制が構築できた。	三重地方創生コンソーシアム、技術フォーラム等はコロナのため実施されていない状況である。コロナ収束の状況をみて、三重県雇用経済部、三重県工業研究所からの依頼によりIoT講座の講師や講演を実施する予定である。	A					・江崎先生をはじめ多くの先生方が、地域企業との連携を進めていただいていることは素晴らしいことと存じます。 ・三重県では工業研究所や（公財）三重県産業支援センターに、地域企業との連携ハブ機能がありますので、引き続き積極的な活用をいただきたいと存じます。	
③-1	（機構本部のみの計画のため、省略）												
③-2-1	・学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、マスメディアに通知するとともに、コンテスト等で入賞した場合にも、積極的にマスメディア等へ連絡し広報活動に努める。 　またホームページへの掲載もあわせて行う。	広報・公開	総務	学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、事前にマスメディアに通知し、PR活動を行うとともに、以下の受賞をHP等で公表している。 ・高専ワイヤレスIoTコンテスト2020 提案採択 ・高専Deep Learningコンテスト（DCON）　2位、6位 ・第３１回高専プロコン　特別賞受賞 ・高専ロボコン2020東海北陸地区大会　特別賞受賞 ・第９回高校・高専 気象観測機器コンテスト　最優秀賞、優秀賞同時受賞 ・第３回 システム創生コンテスト　優秀賞、生活環境対策創成賞受賞		A	マスメディアに通知とありますが、具体的にどこに通知し、どこが取り上げたかなどの情報があれば有益。 学校行事、各種イベント開催、コンテスト参加等について、事前にマスメディアに通知し、PR活動を行うとともに、以下の受賞をHP等で公表~~している~~した。						
③-2-2	・一般市民の利用促進のため、地元の広報紙へ図書館の利用案内の掲載を依頼する。	図書紀要	図書	一般市民の利用促進のため、鳥羽市、伊勢市、志摩市の広報紙へ図書館利用案内の掲載を依頼し、改修工事後の令和３年４月開館について令和３年３月に告知する予定であったが、令和３年４月以降も当面は新型コロナウイルス感染症対策として一般の方の利用を引き続き制限するため掲載を見合わせることとした。	次年度に新型コロナウイルス感染症の感染状況が改善され次第、一般の方の利用を促進するため広報紙への掲載を再開する。	B	評価不可で良いのでは？						
１．３ 国際交流等に関する事項													
①-1	機構本部、関係機関との組織的・戦略的な連携の下に、相手国と連携・協議しつつ、その要請及び段階等に応じた支援に取り組む。 ・世界規模の新型コロナウイルス感染症の蔓延に対して、適切に対応できるように対応策をシミュレーションする。	グローバル教育推進室	総務担当補佐	オンラインにより下記国際交流事業を実施した。 ・2月下旬にオンラインで実施された日タイサイエンスフェアに本校学生が2名参加しプレゼンを行った。 ・例年現地（ハワイ）へ学生を派遣していたKCCプログラムを、令和２年度は２月下旬から３月上旬にかけてオンラインにて複数回実施し交流を行った。	現在のコロナ禍において可能なオンライン等による国際交流事業の機会創出および、これまで実施してきた事業を”新しい生活様式”に則った形にすべく、事業内容の検討を行う。 また、新型コロナウイルス感染症の感染が終息後は、従来のプログラムの再開に向けて検討を行う。	A	評価不可で良いのでは？					R2年度は、仕方ないと思います。	
②	・学生に限らず教職員が国際化の重要性を認識するために、グローバル教育推進室を中心として「KOSEN」の海外展開を促進する活動を実施する。	グローバル教育推進室	総務担当補佐 教務	グローバル教育推進室が中心となって、コロナ禍にあってもオンラインによる学生の国際交流事業を推進し、日タイサイエンスフェアの際は、学生のプレゼンの様子を教職員へ周知公開し、教職員の国際交流にかかる意識向上につなげた。	現在のコロナ禍において可能なオンライン等による国際交流事業の機会創出および、これまで実施してきた事業を”新しい生活様式”に則った形にすべく、事業内容の検討を行う。 また、新型コロナウイルス感染症の感染が終息後は、従来のプログラムの再開に向けて検討を行う。	A	評価不可で良いのでは？						
③-1	学生が海外で活躍する機会を後押しするために、学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意している。今年度もその具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。また、海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。【再掲】	教務 グローバル教育推進室	入試・支援	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた派遣プログラムを中止せざるを得なかった。一方で、現在のコロナ禍においても可能な国際交流の方法として、シンガポールやハワイの各学校とオンラインによるプログラムの開催を検討した。 加えて、ニュージーランドのKMITやハワイのKCCなどとは、次年度春～夏にかけての開催を目指してプログラム内容の再検討を行った。【再掲】	現在のコロナ禍において可能なオンライン等による国際交流事業の機会創出および、これまで実施してきた事業を”新しい生活様式”に則った形にすべく、事業内容の検討を行う。 また、新型コロナウイルス感染症の感染が終息後は、従来のプログラムの再開に向けて検討を行う。【再掲】								
③-2	海外教育機関から短期留学生を積極的に受け入れ、日本人学生と交流させることによって、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 　また、令和2年度も学外講師を招きTOEIC特別講義を実施する。【再掲】	グローバル教育推進室	入試・支援	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、予定していた受入プログラムを中止せざるを得なかった。 学外講師のTOEIC対策特別講座については、1月中旬にオンラインで実施した。【再掲】	現在のコロナ禍において可能なオンライン等による国際交流事業の機会創出および、これまで実施してきた事業を”新しい生活様式”に則った形にすべく、事業内容の検討を行う。 また、新型コロナウイルス感染症の感染が終息後は、従来のプログラムの再開に向けて検討を行う。【再掲】								
③-3	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 更には、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行い、前年度奨学金を受けた学生の体験談を紹介し、学生の申請を促す。【再掲】	グローバル教育推進室	入試・支援	外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努めた。 「トビタテ！留学JAPAN」としては、制度が更新されたこと及び新型コロナウイルス感染症の感染拡大により申し込みを中断している状況である。【再掲】	更新された制度の沿う形でのプログラムを検討すると共に新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、留学再開の目処が立ったら学生への周知徹底を行い、積極的な呼びかけを再開する。 【再掲】								
④-1	※ホームページ関係については、（１）の①－１、②－２にて記載済み。		総務 総務担当補佐	・入学案内の項目の並び順について、アクセスが多いと思われるものを上位に移動した。 ・インターネットを使って行うガイダンス（以下、ウェビダンス）のページを作成し、コロナ禍でも中学生やその保護者に対して、 Web学校説明会やWeb入試相談会、オープンキャンパス（動画による学校探索）を実施し、学校の概要から特色、入試の方法などを紹介した。 ・トップページの新着情報欄の入試関連の重要な投稿については、ピン留めを行い、投稿が他の新着情報に埋もれてしまわないように工夫を行った。 ・トップページに掲載している新学科開設のバナーについては、設置から３年目となるため、今年度中（入試シーズン後）に撤去した。 ・トップページの新着情報について、「新着情報一覧はこちら」のリンク切れ、「2017年度以前のへ」という古いリンクがあるため、更新・修正を行った。 ・今年度においては、スマートフォンからでも本校ホームページを閲覧することを想定し、表示される項目の位置を変更した。具体的には、募集要項のページや説明会、オープンキャンパスに係る情報を上部に表示するように設定した。 ・現在、新しい英語ページ（案）を作成した。英語ページ（案）について、広報・公開委員会にてメール審議を行い、了承され次第、ホームページへ掲載する。【再掲】										
④-2	日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。		入試・支援	新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、現在は渡航を中止している。 日タイ間での国際交流事業として、２月にオンラインでの別プログラムを実施した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況と日タイを中心とした諸外国の渡航状況を注視しつつ、日タイ産業人材育成協力イニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。	A			外国人生徒の受け入れ基準はあるのでしょうか？				
⑤	令和元年度に作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿った危機管理措置を講じ、海外渡航時の安全面への配慮を行う。また、外国人留学生に関しては、資格外活動状況のヒアリングを定期的に実施する。		入試・支援	外務省が定めるガイドラインを定期的に確認すると共に、本校が作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って判断し、本校を通じて行う渡航を伴う国際交流事業は中止している。また、外国人留学生については、寮でヒアリングを実施して生活状況を確認している。	引き続き外務省が定めるガイドラインを定期的に確認すると共に、本校が作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って判断し、留学再開のタイミングを検討する。	A	評価不可で良いのでは？						
２ 業務運営の効率化に関する事項													
２．１ 一般管理費等の効率化													
	事務の効率化及び管理経費の削減を推進する。	事務部	総務課 学生課 （総務課財務担当補佐）	・事務部に設置されているプリンタの消耗品費や保守・修繕費等の維持費削減のため、リース契約の導入の準備を進めた。 ・書類を保管しておくパイプ式ファイル等を再利用し、管理経費の削減を行った。		A	「A」で良いのでは？		備品ひとつの購入についても出入り業者だけではなくネット上から比較するとかなり購入価格が違っておりますので一考を。				
２．２ 一般管理費等の効率化　（機構本部のみの計画のため、省略）													
２．３ 契約の適正化													
	・引き続き真にやむを得ない場合を除き一般競争入札等によることを徹底する。 ・鈴鹿高専とのさらなる共同調達を検討する。また、近隣高専、大学との連携の在り方を探る。		調達	・引き続き真にやむを得ない場合を除き、一般競争入札等によることを徹底した。 ・ガソリンについて鈴鹿高専と引き続き共同調達を実施している。また、電気契約についても名古屋大学を中心に共同調達を検討している。	・共同調達について、広域で対応できる業者に限られてしまうなどデメリットがあるため、検討の余地が大きい。公用車用燃料については、今後も共同調達を進めていく予定。	A	「A」で良いのでは？		備品ひとつの購入についても出入り業者だけではなくネット上から比較するとかなり購入価格が違っておりますので一考を。				
３ 予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画													
３．１ 一般管理費等の効率化　（機構本部のみの計画のため、省略）													
３．２ 外部資金、寄附金その他自己収入の増加													
	・企業説明会に参加する企業に対して積極的に協賛金を募り、外部資金の獲得の増加を目指す。	研究主事	企画・地域連携	受託研究５件、共同研究５件、受託事業３件、となっており、例年並みに獲得できている。寄附金に関しては、教育や研究目的で８件の受入があり、企業説明会参加企業からは91社からの協賛金収入があった。	企業説明会がオンライン開催になることもあり、寄付金等を依頼しづらい状況にある。次年度から企業協力会を立ち上げ、協力金を得る方法を検討する。	A	（受託研究５件、共同研究３件、受託事業３件となっており、例年並みに獲得できているが、）←この部分は年度計画にないので省いては？		同窓会も協力させていただきます。				
４ 短期借入金の限度額　（機構本部のみの計画のため、省略）													
５ 不要財産の処分に関する計画　（機構本部のみの計画のため、省略）													
６ 重要な財産の譲渡に関する計画　（機構本部のみの計画のため、省略）													
７ 剰余金の使途　（機構本部のみの計画のため、省略）													
８ その他主務省令で定める業務運営に関する事項													
８．１ 施設及び設備に関する計画													
①-1-1	・インフラ長寿命化計画に基づいて要求した図書館の改修を２月末までに完了させる。 ・昨年度に引き続き、学生寮の寮室を充実させるための改修を１０月までに完了させる。 ・学内ライフラインの改修については、排水設備の改修を計画的に進め、３月末までに校舎エリアと暁寮エリアの更新を完了させる。 ・総合情報センター、図書館、関連施設を統合するメディアラボ構想を実現する。	校長 総合情報センター 施設 環境整備	財務担当補佐 総務 施設	・インフラ長寿命化計画に基づいて要求した図書館の改修について、令和２年６月３０日に工事契約を締結し、令和３年２月末に完了した。 ・学生寮の寮室を充実させるための改修を、令和２年９月４日に完了させ、寮室を１４部屋増加させた。 ・学内ライフラインの改修について、令和２年９月１５日に工事契約を締結し、校舎エリアと暁寮エリアの更新を実施。令和３年３月末に完了した。	インフラ長寿命化計画に基づいて要求した図書館の改修について、建屋は令和３年２月末に引き渡しが終了しており、新年度の稼働に向けた最終的な調整が行われている。また、組織として情報メディア教育センターの立ち上げに関する準備も行われており、メディア・ラボ構想を実現している。	S							
①-1-2	・図書館棟を改修し、図書館、総合情報センター、関連施設を統合するメディアラボの整備を行う。 ・新しい時代の要請と資料の保存という役割を踏まえて、図書館の学習支援施設としての機能を充実させる。	図書紀要	図書	図書館の改修工事では、学生個人の読書や自主学習の場としての従来の閲覧室に加えて、学生同士の自主的学習スペースやグループワークの場としてのラーニングコモンズを整備し、図書館資料や映像資料を活用した学習支援施設としての機能充実を図った。 　また、図書館、総合情報センター、関連施設を統合するメディアラボの整備を行った。	図書館改修工事に伴う図書収容スペースの減少により、卒業論文等を電子化する、重複図書を処分するなど図書館資料を整理する必要があり、次年度も約10万冊の図書館資料について作業を継続する。	S							
①-2	非構造部材が劣化してきている暁寮食堂に対して、内部改修と同時に非構造部材の耐震改修の要求を実施する。	施設 環境整備	施設	非構造部材が劣化してきている暁寮食堂に対して、内部改修と同時に非構造部材の耐震改修の概算要求を行い、令和２年１０月２日にＳ評価を得た。		A							
②-1	・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	安全衛生	人事・労務	学生向けに「実験実習安全必携」を学生便覧に盛り込んだ。教職員向けには、学内のポータルサイトに掲載した。	新型コロナウィルス感染症対策の影響で、安全衛生管理のための講習会を実施できなかった。	B	配布した件は記載すべきでは？ しかし、各種講習会は新型コロナウィルス感染症対策の影響で、安全衛生管理のための講習会を実施できなかった。						
②-2	・「実験実習安全必携」を学生便覧に盛り込む。	安全衛生	教務	「実験実習安全必携」を学生便覧に盛り込んだ。		A							
③	・女子学生用の更衣室のリニューアルを検討する。 ・練習船鳥羽丸の女子学生居住区の改善を推進する。	施設 環境整備	施設	女子更衣室に関して、コロナ対策としてロッカー同士の間隔を空け、コロナ対策を行った。 感染防止対策として、アルコールによる手指消毒、検温の実施、空気清浄機及びCO2濃度計の設置、乗船定員を減らして密を避ける等、徹底して対策に取り組んだ。	・練習船鳥羽丸の女子学生居住区の改善を推進する予定であったが、新型コロナウィルス感染防止対策に重点を置いて取り組んだ。	A	検討もしなかった？						
８．２ 人事に関する計画													
（１）方針													
①	課外活動において、外部指導員の技術的指導を昨年度に引き続き実施するとともに、寮務についてアウトソーシング等の活用を検討する。これらが実施されることにより、教職員の業務負担軽減につなげる。		人事・労務 学生生活	課外活動において、外部指導員・課外活動指導員（非常勤職員）を引き続き採用した。また、寮務について引き続き、一部アウトソーシング化し、教職員の業務負担軽減を図った。		A							

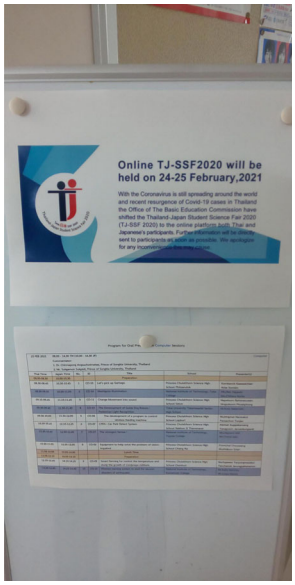
年度計画		委員会等	事務	計画の実施状況等	計画に対する課題 （赤字下線はコロナが影響した課題を示す）	鳥羽商船 自己点検評価	コメント欄（石田委員）	コメント欄 （鳥山委員）	コメント欄（菅沼委員）	コメント欄 （東委員）	コメント欄 （本田委員）	コメント欄（増田委員）	コメント欄（山本委員）
②	教員の戦略的配置のための教員人員枠の再配分の仕組みを検討する。	教員選考	人事・労務	来年度以降に向けた教員人員枠の再配分を行った。		A							
③	若手教員確保のため、教員人員枠の弾力化を検討する。	教員選考	人事・労務	若手教員確保のため、令和3年4月の教員採用では、新卒者に１名内定を出した。		A							
④-1	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げることを検討する。【再掲】	教員選考	人事・労務	専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つに原則、博士の学位を有する者を掲げ、博士の学位を持つ者を採用している。【再掲】									
④-2	企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の活用を検討する。【再掲】	教員選考	人事・労務	企業や大学に在職する人材など多様な教員の配置を可能とするため、新たにクロスアポイントメント制度の活用を検討した。【再掲】									
④-3	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 　また、女性研究者支援プログラムの実施により女性教員の働きやすい環境の整備を進める【再掲】		人事・労務	ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知した。 　また、女性研究者支援プログラムの実施等により女性教員の働きやすい環境の整備を進めた。【再掲】									
④-4	・外国人教員の採用について検討する。 ・教員公募要領の英文化をより一層推進する。【再掲】	教員選考	人事・労務	・外国人教員の採用内定を出した。 ・教員公募要領を英文化した。【再掲】									
④-5	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、関連情報を教職員へ提供し、外部が主催する男女共同参画に関する研修等に教職員を積極的に参加を促す。 　また、学生に対しても様々な意識啓発を行い、関連する各種イベントへの参加を促す。	校長	総務	男女共同参画室を中心に、男女共同参画に関する意識啓発のため、男女共同参画に関する情報を教職員及び学生へ提供している。 12月19日に四日市大学で開催された「ダイバーシティ公開講座」に1名教員が参加した。また、四日市大学に了承の上で、この講座の動画を基に、2月24日～3月3日の間で教員ＦＤを実施し、教員45名・職員16名が受講した。 また、3月10日に開催された奈良高専主催の男女共同参画推進に関する講演会に教員3名・職員3名（オンデマンド形式受講者を含む）が参加した。	令和2年度の高専女子フォーラムは中止となった。	A							
⑤	・教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修へ計画的に実施あるいは参加させ、資質の向上を推進する。 ・採用された教員の学内新任研修の実施を検討する。		人事・労務 教務	・多様な人材育成を図るため、各種研修へ計画的に参加させ、資質の向上を推進した。 ・採用された教員の学内新任研修の実施を行った。		A							
	常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組むとともに、事務のIT化等により中期目標期間中の常勤職員の抑制に努める。		人事・労務 教務	常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組むとともに、事務のIT化等により中期目標期間中の常勤職員数の抑制に努めた。		A	（年度計画および計画の実施状況等欄について） 「常勤職員の抑制」何を？ 常勤職員の負担増の抑制？ 常勤職員数増の抑制？ 常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組むとともに、事務のIT化等により中期目標期間中の常勤職員の抑制に努め~~ている~~た。						
８．３ 情報セキュリティについて													
	本校教職員を対象とした情報セキュリティ教育として、Azure Information Protection（AIP）に関する講習会を開催し、職責等に応じて必要となる実践的な情報セキュリティ教育を実施する。「すぐやる３箇条」を周知徹底し、定期的に情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発として事例紹介等を実施する。 　セキュリティ管理委員会を開催し、前述のセキュリティ教育状況について受講数等推進状況を確認し、必要があれば対策の有効性について議論・見直しを行う。 　学外との連携としてMieCS-ISACに参画し、近隣地域機関と共同で情報セキュリティインシデントの予防や啓発活動に取り組む。	総合情報センター	総務	・2020/05/22に、コロナ禍に対する政府のテレワーク推奨を受けてテレワークに関するオンライン講習会を行った。その際、Azure Information Protection（AIP）についても関連内容として説明を行った。 ・高専機構の標的型メール訓練や、注意喚起を受ける都度「すぐやる３か条」の周知徹底を行った。直近では11/24の標的型メール訓練を受けての対応を行っている。 ・セキュリティ管理委員会については、受講状況等を確認する必要があるため、当初より後期実施の予定である。また、高専機構の規則改正に伴うセキュリティ関連規則改正を予定している。 ・MieCS-ISACとの連携についてはコロナ禍の影響が大きくメールベースでの情報共有および、こちらからの要望提出等にとどまっている。	・令和２年度は２月２５日にMieCS-ISAC研修会がオンライン開催され、総合情報センター長白石が参加した。その際、最新のサイバー空間の脅威情勢やニューノーマル時代の企業戦略としてのテレワークについて、情報を共有し議論を行った。	A						コロナ禍でIT活用が一層進み、情報セキュリティの重要性は、より高まっています。 職員の認識と同時に学生教育にも情報セキュリティの重要性を反映願います。	
８．４ 内部統制の充実・強化													
①-1 ～ ②-1	（機構本部のみの計画のため、省略）												
②-2	高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。	校長	総務	教職員のコンプライアンスの向上を図るため、高専機構作成「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」を教職員にメールで周知し、非常勤教職員を含む全教職員132名からセルフチェックリストが提出された。		A							
②-3 ～ ③	（機構本部のみの計画のため、省略）												
④	公的研究費等に関する不正使用の防止策を確実に実施するとともに、教職員に対し、コンプライアンス教育研修を複数回実施し、不適正経理の防止についての周知を定期的に行う。また、研究倫理教育を行う（eラーニングにて実施）。	校長	財務・経理	4月当初に全教職員宛に「公的研究費使用マニュアル」をメールで周知することとし，公的研究費使用ルールの確認を定期的に意識づけを行った。 新規採用者についても，上記マニュアルを配付及び，その場で説明を行った。 コンプライアンス研修については，3月10日～3月26日の期間で，全教職員に対し動画配信を行い実施した。理解度チェックを作成し，不正解の教職員には個別に指導を行った。		A							

2020年度 学生の活躍記事(本校HP)

No.	日　付	記事タイトル	対象学生	備　　考
1	2021.03.01	日タイサイエンスフェアに本校学生が参加	制御情報工学科	
2	2021.01.20	「第９回高校・高専 気象観測機器コンテスト」最優秀賞、優秀賞同時受賞	制御情報工学科	
3	2020.11.04	高専ロボコン2020東海北陸地区大会特別賞受賞	電子機械工学科 ロボコン部	
4	2020.11.04	第３１回高専プロコンで特別賞を受賞	制御情報工学科	
5	2020.08.24	高専DCON2020で本校出場チームが2位・6位	生産システム工学専攻 制御情報工学科	
6	2020.08.11	「高専ワイヤレスIoTコンテスト2020」に本校の提案が採択	制御情報工学科	
7	2020.07.22	本校卒業生が在学中に行った研究活動のうち論文（査読付）が、（公社）日本航海学会より認められ、奨励賞を授賞	海事システム学専攻	

日タイサイエンスフェアに本校学生が参加しました！

２月２４日、２５日の２日間で、タイの Princess Chulabhorn Science High School との国際交流事業「日タイサイエンスフェア」がオンラインにて開催されました。本事業は、参加校がそれぞれのテーマについてプレゼン発表を行ったり、双方の研究や文化を理解し合う内容となっており、本校からは制御情報工学科の２名の学生が参加し、約１５分間のプレゼンテーションを無事に終えることができました。



独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

「第９回高校・高専　気象観測機器コンテスト」最優秀賞、優秀賞同時受賞に関するご報告について

概要

１２月２１日、一般財団法人WNI気象文化創造センターによりオンラインで行われた（表彰式の動画はこちらです→ https://youtu.be/JGx6RzjIas8）「第９回高校・高専 気象観測機器コンテスト」において、制御情報工学科白石・近藤研究室、４年生、３年生から構成される２チームが、参加３４チームの中から最優秀賞（全国１位）、優秀賞（全国２位）を同時受賞しました。同コンテストで１位、２位を独占するのは２年連続となります。

最優秀賞を受賞した「摘果支援アプリ 蜜です！」は、三重県で盛んに栽培されている温州みかんの栽培時に重要となる、知識・経験が必要な摘果作業（果実をまびく作業）を、ディープラーニング技術、拡張現実技術を応用したスマホアプリで、わかりやすく支援するシステムです。積算温度による摘果時期を提案するなど、気象情報とAIを用いた高度なシステムが高く評価されました。

優秀賞を受賞した「アザミウマちゃうんか?」は、粘着トラップについた、みかんの害虫であるチャノキイロアザミウマを１億画素カメラを持つスマホで、認識しチャノキイロアザミウマだけの数を自動計数するアプリです。スマホ上でディープラニングによるチャノキイロアザミウマ認識を実現しており、その実用性が高く評価されました。

コンテスト公式ページによる発表：https://www.wxbunka.com/contest/

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

高専ロボコン2020東海北陸地区大会特別賞受賞！

１０月２５日（日）、第３３回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト２０２０　東海北陸地区大会がロボコン史上初めてオンラインで開催されました。

今年度の競技課題は「はび☆ロボ自慢」（だれかをハッピーにするロボットを作ってキラリ輝くパフォーマンスを自慢しちゃおうコンテスト）。
各チームの作った、誰かをハッピーにするロボットを、各校の活動場所からパフォーマンスするという形式で、本校からは、２チームが出場しました。

Aチーム（ロボコン部）「猫鼠大戦争（にゃんそだいせんそう）」（指導教員：情報機械システム工学科 脇坂准教授）
ロボコン部の１～５年生で構成されるチームで、「コロナ禍のなか、例年通りのロボコンが開催されない。でも、ロボコンをご覧いただいている方はいつも通りのロボット同士の熱い戦いを見たいはず。規模は違えど、自分たちのできうる範囲のロボット同士の熱い戦い（バトル）をご披露し、ロボコンの、そしてものづくりのワクワクを伝えたい！」というコンセプトで、ネコロボットとネズミロボットの競技形式のパフォーマンスを披露し、オンラインの会場やSNS上を沸かせました。

Bチーム（M3M4創造実験）「Anti-G株Virus（エージーブイ）」（指導教員：情報機械システム工学科 宮崎教授）
コロナ禍のなかでの製造現場で活躍できる全自動AGVによるデモンストレーションで、予選5位タイで、決勝ラウンド進出、特別賞（安川電機）を受賞しました。
コロナ禍でものづくりの現場が大きく変わろうとしてるいる中で、ものづくりをハッピーにするものを新しい形をあらわした技術力とアイデアが評価されました。

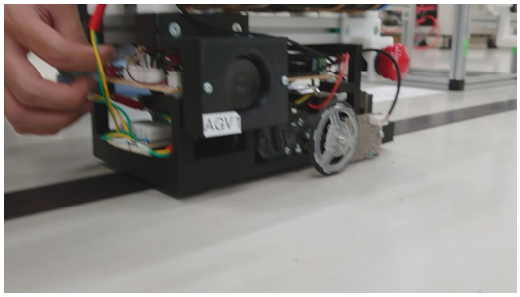
大会の様子は、Youtubeでご覧いただけます。
https://www.youtube.com/watch?v=iyaHguM3Ck4&list=PLcmcmEF6geRAgRmIFho25hexXR5MMW9Q_&index=1
また、2020年11月23日(月・祝）13:05-13:59にNHK総合テレビにて放送予定です。
（最寄り地区の大会が放送されます。本校出場の東海北陸地区大会は東海北陸の7県でご覧いただけます）

是非学生の活躍をご覧ください。

（大会公式ホームページ）
http://www.official-robocon.com/kosen/

＜鳥羽商船高専Aチーム(ロボコン部)の様子＞

＜鳥羽商船高専Bチーム(M3M4創造実験)の様子＞



独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

第３１回高専プロコンで特別賞を受賞！

令和２年１０月１０日（土）～１０月１１日（日）にオンライン開催された第３１回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（苫小牧大会）にて、
本校の出場チームが課題部門にて特別賞を受賞しました！

（課題部門）
「楽しく学び合える！」をテーマにした作品
（作品名）
「ISHINDENSHIN」
（コンセプト）
スマホでバレーボールのサーブ分析ができ、チーム内での分析結果を共有・教え合うことができます。
COVID-19感染拡大のなか、部活動ができなくて悩んでいるあなたを支援します。
（大会公式ホームページ）
http://www.procon.gr.jp/

林校長と高専プロコンに出場した学生たち

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

祝！DCON2020で本校出場チームが2位・6位となりました！

８月２２日にリモート開催された高専Deep　Learningコンテスト（DCON）で、NIT　TOBA SiraisiLABの「Deep　Learningを用いた高品質カンキツ育成支援システム」が企業評価額５億となり、第２位となりました！

また、同チームはKDDI企業賞、コニカミノルタ企業賞もいただき、実用性の高さを評価されています！

なお、本選に進んだ１１チームの中には、本校のezaki-labチームも含まれ６位の評価をいただきました。

【大会公式ホームページ】

https://dcon.ai/

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校

「高専ワイヤレスIoTコンテスト2020」に本校の提案が採択！

「高専ワイヤレスIoTコンテスト2020」の「ワイヤレスIoT活用部門」において、本校の提案が採択されました。

詳細について、以下の大会公式HPをご確認ください。

https://kosen-iot-contest.jp/2020/saitaku.html

ホーム / 学生の活躍 / 「高専ワイヤレスIoTコンテスト2020」に本校の提案が採択！

独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College

本校卒業生が在学中に行った研究活動のうち論文（査読付）が、（公社）日本航海学会より認められ、奨励賞を授賞

この度、本校専攻科海事システム学専攻の卒業生が在学中に行った研究活動のうち論文（査読付）が、公益社団法人日本航海学会より認められ、奨励賞を授賞しました。

（学生）　大藪雅史
（論文題目）　「海上安全情報の特徴抽出と自動処理に関する研究」
（掲載誌）　日本航海学会論文集、140巻、p.88-89
（著者）　大藪雅史、鈴木治、吉田南穂子、鈴木聡

【理由】
日本航海学会に投稿、掲載が認められた論文で、航海士がナブテックス等の海上安全情報（MSI (Maritime Safety Information) ）を得る手法に関し、第一著者として優れた研究成果を発表されたことが評価され2019年度の本学会奨励賞の授賞となったもの。

【概要】
大藪雅史さんは商船学科の卒業研究で行っていた自らの発案により行っていたナブテックスの英語電文の特徴の解析の研究を、専攻科在学中に、共著者である本校の教員と一緒になり、様々な分野の電文の解析と自動処理システムの構築に取り組みました。
例えば、システムのありかたや、あるべき取り扱手法は吉田教員（商船学科准教授）に、英文で記載されている海上安全情報の解析手法には鈴木聡教員（一般教育科教授）に指導を受けたけでなく、オーストラリアなどで学修した得意の英語力を使って主体的に研究課題に取り組みました。なお、本プロジェクトのとりまとめは、鈴木治教員（専攻科海事システム学専攻主任、商船学科教授）の指導を受けて進めたものです。

【論文ＵＲＬ】
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jin/140/0/140_88/_article/-char/ja

【奨励賞について】
奨励賞は、当該年度の優秀論文の著者で、新進研究者に与えられ、当該年度の4月1日現在で35歳未満の本会の会員であり、かつ、当該年度の日本航海学会論文集の論文著者を対象とする
（日本航海学会の規程　https://j-nav.org/regulations/）

【大藪雅史さんについて】
鳥羽商船高等船問学校、商船学科航海コース卒業後、専攻科海事システム学専攻入学、2019年9月修了。現在、タンカーにて乗船勤務中。

受賞学生（当該論文の元となる講演会のときに撮影）

ページの先頭に戻る

本校GMDSS室に設置した開発した海上安全情報の受信システム

独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校
〒517-8501　三重県鳥羽市池上町1-1　TEL:0599-25-8000　FAX:0599-25-8016

Copyright © 2017 National Institute of Technology, Toba College